

# 卒業研究抄録集

2017年度

松山東雲女子大学

人文科学部



# 目 次

## 人文科学部 心理子ども学科

		ゼミ No
指導教員	泉 浩徳	・ ・ ・ ・ 1
指導教員	香川 実恵子	・ ・ ・ ・ 2
指導教員	小池 美知子	・ ・ ・ ・ 3
指導教員	児嶋 雅典	・ ・ ・ ・ 4
指導教員	小西 敏雄	・ ・ ・ ・ 5
指導教員	高橋 圭三	・ ・ ・ ・ 6
指導教員	直井 玲子	・ ・ ・ ・ 7
指導教員	西村 浩子	・ ・ ・ ・ 8
指導教員	増本 達彦	・ ・ ・ ・ 9
指導教員	小野 紳一郎	・ ・ ・ ・ 10
指導教員	門田・リンダ K	・ ・ ・ ・ 11
指導教員	河原 理	・ ・ ・ ・ 12
指導教員	佐伯 三麻子	・ ・ ・ ・ 13
指導教員	坪井 良史	・ ・ ・ ・ 14
指導教員	野口 理英子	・ ・ ・ ・ 15
指導教員	宮地 克典	・ ・ ・ ・ 16
指導教員	森 日出樹	・ ・ ・ ・ 17
指導教員	安田 孝	・ ・ ・ ・ 18
指導教員	善本 裕子	・ ・ ・ ・ 19

氏 名	楠 智恵	学籍番号	J014018	ゼミ No.	1
テーマ	幼児期における各年代別の遊びの変化				
<p>第1章 はじめに</p> <p>子どもは、遊びを通して自分の考えを相手に伝え、想像力を育みながら成長し、体を動かすことにより体力・運動能力の向上を高めることができる。特にビューラーの分類を用いて、保育者として、幼児期にどのような五感を通じた遊びを取り入れ、環境構成を工夫していく事で、幼児期の子どもの育ちにどのような影響を与えるのかを検証する事を目的とする。幼児期における各年代別の遊びの変化について明らかにしたい。</p> <p>第2章 本論</p> <p>検証するために、愛媛県の保内町の保育所、小学校、中学校、高校、現在在籍する松山東雲女子大学に対するアンケート及びインタビュー調査を実施し、幼児期における各世代の遊びについて調査を進める。全体の考察としてビューラーの分類から考察すると、大学生、高校生は人形遊び、ままごとの模倣遊びが多く見られた。中学生、小学生はゲームが多くあり感覚遊びとして分類されるであろう。保育所は玩具がみられ、構成遊びが一番多い結果となった。現代の遊びがあり当てはめることが難しかった。アンケート調査のまとめの結果から、全体の考察として世代間 20 年間にはあまり差がないことがわかった。</p> <p>第 3 章 結論</p> <p>本研究では、各世代別における遊びの変化について検証した。各世代において、外遊びの減少がみられた。TV・DVD、ゲーム、インターネットなどの普及により、今後ますます子ども達の外遊びの時間や場所が無くなることが危惧される。研究者自身は、八幡浜市で保育者として働くが、外遊びの大切さ遊びの素晴らしさを子ども達に伝えていきたい。そして八幡浜市の魅力を伝えていきたいと考える。</p>					

氏 名	森河 美樹	学籍番号	J014041	ゼミNo.	1
テーマ	新人保育士が感じる保育実践上の課題から『より良い保育』を考える				
<p>大学生活の四年間で何度か実習に行き、様々な園の特色や保育方針を学んできた。保育者は日々子どもたちと関わりながら、環境構成や言葉かけ等を工夫し、保育の向上を行っており、その姿を見て保育とはどのように行って、どのように成り立っていくものなのかを実践を通して感じた。</p> <p>しかし、保育を行う上での限界も実際に感じ、それを当たり前だと捉えている場面も何度か見た。そこから、保育者が感じている課題とはどのようなものなのか興味を持ち、研究を行うことにした。また、保育実践上の課題を新人保育者の視点から考えることで、より『当たり前』だと感じている課題も、課題として表出してくるのではないかと考えた。そこで、新人保育者の研修会での資料をまとめ、領域ごとに考察を行った。</p> <p>領域別に見ると、一番多く課題だと新人保育者が考えている分野は環境であった。棚や机、椅子といった中々配置を変えられないものに子どもが興味を持ち、危険だという意見が多かった。それは決して子どもが先生に怒られたいという思いを持って行っているわけではなく、興味関心や好奇心、身体を自由に動かすことの出来る喜びだという事を保育者自身、理解しているが、やはり危険を伴う事が多く、悩んでいるようだった。その他、手洗いやトイレといった水回りでの混雑や水遊びといったことも課題として多かった。</p> <p>そのような課題を発見した上で、改善するためにはどうすれば良いかを次に考えた。環境など中々変化が難しい部分は、無理に変化させるのではなく他に興味を持たせる工夫を行い、変化ではなく、今ある環境に加えていく事で課題が改善へと繋がるのではないかと考えた。また子どもの興味や、自発心を上手く利用して一緒に保育を作り上げていく事の重要性についても考察を行った。</p> <p>最後に、タイトルにもある『より良い保育』について、自分なりに考察を行った。研究を行う前は、保育実践上の課題を改善へと繋げることで『より良い保育』へと自然に繋がっていくと考えていた。しかし、それは保育者側からの考えであり、子どもの考える『より良い』ものとは違うという事に研究を通して気付いた。そこで、保育者、子ども、両側面から『より良い保育』について考察を行った。そこから、子どもの楽しい、面白いと感じる気持ちを一番に尊重しながらも、保育者が子どもに感じてほしい気持ちや育てたい力を保育の中で自然と取り入れることが出来る環境が保育に最も必要だという事が分かった。常に向上して、考えていくことが出来る保育が、保育者にとっても、子どもにとっても『よりよい』ものに繋がっていくのではないかと感じた。</p>					



氏 名	安井舞	学籍番号	J014042	ゼミ No.	1
テーマ	知的障害者の入所時期の違いによる ADL・QOL				

本研究のテーマは、知的障害の成人期からの短期入所者と幼年期からの長期入所者のADL、QOLの相違に関する実証的研究である。動機、研究目的は、保育実習Ⅲ（施設実習）、SW実習で障害者支援施設での実習を行った際の、施設に入所して施設で生活している利用者のADL、QOL事例を検証する事である。

私はSW実習である障害者支援施設で実習を行った。知的障害のある方ときちんと関わるのはSW実習が初めてであった。知的障害のある人で自閉症やてんかんのある人と関わり障害の程度が同程度の支援の差が様々でその差は育った環境、幼児期から施設に入所しているか、家庭である程度まで家族と生活してきた差なのか、またどちらの方がADL、QOLが充実しているのか。実習中、その後の振り返りで疑問に感じ成人してから入所した人より、幼少期から施設に入所している人のADL、QOLが高いのではないかと疑問を持ち、自分の感じている感じ方が、実際には、どうなっているのか、証明したいと考えた。そこで、本研究では、同じ知的障害を持っても、成人してから入所した人短期入所者と、幼少期から施設に入所している長期入所者人のADL、QOLの違いを比較検討し、違いの原因、理由をあきらかにするものである。

ADLは幼少期からの療育や得意不得意の個人差で大きく変わると分かった。昔は出来ていた事も施設に入所し支援が行き過ぎでできることが出来なくなり、年齢のせいでも出来なくなることもある。家庭で保護者が手を出しすぎて本当は出来る能力があったのにできない場合や保護者が療育を家庭でも熱心に可能性を信じ行えばADLの向上は図れる。ADLは施設に入所したのが早い遅いに関わらず本人の近くでサポートする人の支援で変わってくると考えた。

QOLは成人頃から入所した人の方が高い傾向にある。家庭で生活していると施設での生活よりも時間などに縛られず行動の選択肢が多い、幼少期は保護者との時間が大切でその過ごし方で人間形成されていくと考え。その幼少期に施設の集団で過ごしたのと家庭で過ごしたのでは違う。きちんと療育を受けながら家庭で育ち入所した人の方がQOLは高いと考えた。しかし実習で成人頃から入所し保護者との関わりを多く持った人や定期的に帰省する人は家族に会いたい気持ちが強く施設で情緒不安定やストレスが溜まっているように感じた。それに反し幼少期から入所し施設で過ごしている人は帰宅願望などがないので情緒は安定しているように感じ、些細なことでも喜びを感じていた。施設だからこそできるイベントを経験出来たりすることもある。実習を通して考えた結論は幼少期から入所している人の方が情緒の波も少なく、専門機関にいるからこそできることが増えるので成人頃から入所した人よりもQOLは高いと考える。

氏 名	柳澤いずみ	学籍番号	J014043	ゼミ No.	1
テーマ	気になる子どもとの関わり方と対応方法				
<p>本研究では私が保育所・幼稚園実習において関わった気になる子どもについて、関わり方や対応方法に興味・関心を持ち、研究をしたいと思った。</p> <p>研究方法は、保育所・幼稚園実習に行った子ども専攻4年生を対象にアンケート調査を実施し、気になる子どもの傾向や特徴について検討する。また、私が保育所・幼稚園実習で関わった気になる子どもの事例検討をする。</p> <p>保育所・幼稚園実習に参加した38人の保育士・幼稚園教諭を養成する大学4年生へのアンケートを2017年11月8日の授業で実施した。アンケートは、Ⅰ保育所・幼稚園実習において自分が入ったクラスに気になる子どもはいたか。また、その子どもは何歳児か。Ⅱどういう場面で気になる子どもだと思ったか。Ⅲ周りの子どもとの関わりはどうだったか。Ⅳ実習で気になる子どもへの対応や関わり方についてどのような事を学んだか。この4項目に分けて調査・考察した。</p> <p>事例は保育所実習で4、5歳児の混合クラスに10日間入り、その中で4歳児の双子の姉 Y ちゃんと気になる子どもとされる妹 A ちゃんと関わった。A ちゃんはこだわりが強く、私は保育者から発達が遅れていると聞いていた。</p> <p>私が関わった気になる子どもの事例内容は、Ⅰ「4歳児の双子の姉 Y ちゃんと気になる子どもとされる妹 A ちゃん」の、おやつの時間で席を決める際に起こった事例、Ⅱ「気になる子どもとされる双子の妹 A ちゃんのこだわり」で責任実習で行ったオセロゲームで起こった事例である。以上を考察・検討した。</p> <p>アンケート調査と自身の事例検討を行うことにより、気になる子どもの行動や特徴に共通点があることが分かった。気になる子どもの行動や特徴として、言葉の発達が遅れている、自分の気持ちを言葉で表せない、代弁をしてもらおうと自分の気持ちが分かる、集団行動が難しい、友達と上手に遊べない、ひとりでいることが多く、友達と関わろうとしない、手が出たり、かんしゃくを起こしたりする、以上があきらかとなった。また対応方法の検証結果により、保育者は子どもの健全な発達を熟知しておくこと、異常に気づいて早期対応をとること、保育者間での情報共有、保護者へのサポートが必要である。気になる子どもの特性を理解し、ストレスを感じにくい環境を作ること、保育者にとって都合のいい方法ではなく、子どもにとって良い方法を考えること、その子に分かる伝え方をすること、気持ちを切り替えられるような声かけや援助をすること、このことが気になる子どもと上手く関われるポイントになると分かった。</p> <p>これから現場で活かせるものが多く見つかった。今回の研究を今後に活かしたいと思う。</p>					



氏 名	大城 真央	学籍番号	J014007	ゼミNo.	2
テーマ	現代の結婚式 ～リゾートウェディングの現状・今後の課題～				
1. はじめに					
現代では、結婚したら結婚式を挙げるのが主流である。その結婚式に対して憧れを持つ方や、オリジナルの結婚式を挙げたい方が増加している。結婚式とは一生に一度の思い出でもあり、周りの方に感謝の気持ちを伝える場所でもあると考える。その中で、結婚式ができたこれまでの歴史を調べ、時代の変化がどのように変わって現代に至るのかを調べることにした。更に、様々な結婚式がある中で、最近流行りであるリゾートウェディングの現状や今後の課題について調べ、私なりのオリジナルな結婚式のプランを立て、様々な人に知ってもらいたいと思う。					
2. 結婚式の歴史					
時代によって日本の結婚式がどのように変容したのか調べた。日本では結婚できる年齢が決まっており、時代の流れによって変化している。また、昔と現代では結婚式の仕方が変わってきており、今では娯楽施設が増加し、昔と現代の結婚式の仕方や、昔は自宅で行っていた儀式が今現代ではホテルやチャペルに変化していることが分かった。					
3. リゾートウェディングの現状と課題					
沖縄県にあるアリビラ・グローリー教会を訪問し、実際調査を行った。式場によって雰囲気や客層にも変化があり、人気の傾向なども知ることができた。更に、リゾートウェディングには種類も多数あり、リゾート感を味わうことができることや、家庭の事情などでお金をあまりかけなくても一生に一度の思い出を作り上げることできる。一方、悪天候の場合や想定外の出来事が起こった時の対応の工夫が必要であることが分かった。					
4. オリジナルプラン作成					
今回オリジナルプランの作成をするにあたっては、一生に一度の結婚式をビーチウェディングで挙げ、自然の美しさも楽しみながら、思い出に残るようなプランを立てたいと思ったからである。また、オリジナルなプランでは、挙式の演奏をウクレレに変更してみたり、夕方にはイルミネーションや花火を取り入れてみたりするなど、スペシャル企画を取り入れることで、思い出に残る結婚式を挙げるように工夫した。					
5. 総括					
本研究では、現代では当たり前に行われている結婚式の歴史についてや、今では流行りのリゾートウェディングの種類、特徴などを捉えることができた。また、オリジナルプランの作成を通して、この研究で得ることができたリゾートウェディングの良さを様々な人に伝え、結婚式の参考に繋げられるようにしたい。					

氏 名	菊池 愛	学籍番号	J014015	ゼミNo	2
テーマ	楽しく学ぶ食育とは ～オリジナル食育教材の制作と実践活動を通して～				

1.はじめに

食事とは私たちが生きていくうえで必要不可欠な行為であり、幼児教育の観点からすると、保育者は、子どもたちに食について伝えていかなければならない。特に、子どもたちは郷土料理への興味関心が低い。郷土料理を用いた体験学習は、年齢・性や障害の有無に関わらず、食に対する興味を深める。実習で食育活動をしようと試みた際に、幼児を対象とした教材や、郷土料理についての教材が少ないと感じた。その現状を踏まえ、子どもたちが楽しく学べるような教材を作り、それを用いて、地域の方々と共に、幼児・小学生・保護者と幅広い世代に、食の大切さや郷土食の良さを伝える活動を実践したいと考えた。

2.オリジナル食育教材の作成と食育活動の実践

(1)小学生を対象とした魚の良さを伝える出前講座（松山市と連携した食育活動）

松山市と連携して、小学生を対象に、郷土の魚の良さを伝える食育講座を行った。愛媛の郷土料理「鯛めし」についての手作り紙芝居を大人数でも見やすいようにカメラで撮影し、パワーポイントに貼りつけてアニメーションを加えた。クイズを加え、問いかけを多くしたことで、子どもたちも友達同士で話し合い、笑顔で楽しみながら学ぶことが出来ていた。活動の様子は愛媛新聞にも掲載され、地域にも広く紹介された。

(2)年長児を対象に行った食育活動（学校現場での食育活動）

教育実習では、食育について身近に感じられるように、その日の給食のメニューをイラストで示し、食材の持つ 3 つの働きについて説明した。その後子どもたちが食材の絵を描いて食材の玉を作り、「バイキンをやっつけろ！ゲーム」を行った。感想交流の時間に、子どもたちの口から「楽しかった」という感想が出たことや、その後の給食の時間に「麺も食べんと力でんよ！」などと話していたことが成果としてあげられる。

(3)親子を対象とした食育活動（地域子育て支援組織と連携した食育活動）

アーバンデザインセンターにて、2～7 歳の子どもとその保護者を対象とした講座の講師を担当することになり、この研究を進めるなかで作成したオリジナル食育教材を使った食育活動を行った。写真を見せながら郷土料理を紹介し、名前の由来を伝え、地域による違いの説明をした。また、「いもたき」で使われている食材を取り上げ、その食材の持つ働きを説明した。イラストや写真を多用し、アニメーションを加えることで子どもたちの興味を惹きつけられるようにした。保護者からも「子どもだけでなく私たちにも楽しめる内容だった。」という声があり、食育の重要性を伝えることができた。

3.総合考察

実践活動では、子どもたちが活動に積極的に取り組み、友達同士で話し合い楽しそうに考えている姿や、食について理解したことをその後自ら話題に出す場面が見られた。本研究では、クイズやゲーム、マルチメディア教材などを取り入れ、身近に感じにくい郷土料理などの食育テーマを楽しく分かりやすく伝えることができた。また、小学校や幼稚園、地域の交流の場で食育活動を行ったことで、単なる個人の食育活動ではなく、学校教育や社会教育としての食育を考え、地域や子育て支援の組織と連携した食育活動の実践ができた。つまり、幼児期の食育だけではなく、「産学官連携」という、企業や地域、役所と「食育」をつなげる活動を行うことができた。今後は保育士として、子どもたちと楽しい食育活動を行うことだけにとどまらず、地域や学校との連携を考えた、食育活動について考え、食について広く発信していきたい。



氏 名	村上 怜美	学籍番号	J014039	ゼミ No.	2
テーマ	郷土料理を子どもたちに伝える ～子どもにもできる郷土料理オリジナルレシピ集の作成～				
1. はじめに					
大学の授業で郷土料理について学び、緋のかぶら漬、いぎす豆腐など知らない料理がたくさんあることに驚いた。私と同じように、知らない郷土料理がたくさんあったという学生が多くいた。大学生でも知らない郷土料理が多くあるため、郷土料理を知らない子どもがたくさんいると考える。幼い頃から少しでも興味を持ってもらうため、愛媛の郷土料理について調べ、それをもとに子どもにもできるオリジナルレシピ集を制作する。					
2. 愛媛の郷土料理について					
子どもたちに郷土料理を伝えるために、まず愛媛県の郷土料理の種類や東予・中予と南予の鯛めしの違いについて調べ、考察を行った。					
東予・中予・南予と全体的に魚介類を使用した郷土料理が多くあると言える。カニ飯やウツボの煮つけなど、お盆や祭りの人が多く集まるときに食べられる料理や、じゃこ味噌やいずみやなど、長く保存するための料理が多くあると分かった。魚介類を使用した料理が多い理由として、北側が瀬戸内海、南西部が宇和海に面しており、リアス式海岸が続いている愛媛県の土地的特徴が関係していると言える。養殖業が盛んであり、魚介類に恵まれているため、漁で捕れた魚介類を使用した郷土料理が多くあると考える。					
東予・中予と南予の鯛めしには、鯛に火が通っているかどうかの違いがある。東予・中予では、鯛が獲れる海から少し遠い場所でも美味しく味わえるよう、火を通す調理がされたと考える。南予では、海が近いため、獲れたての新鮮な鯛を刺身にして作られたと考える。					
3. 郷土料理オリジナルレシピ集の作成					
子どもにもできる郷土料理オリジナルレシピ集の作成を行った。今回は、比較的調理工程が簡単な東予地方のたこめし、せんざんき、中予地方のヒューヒュー芋、しょうゆ餅、南予地方の鯛めしを選んだ。子どもにもできるということを重視し、手に入りやすい材料を使用したり、ゆでる調理を電子レンジでの調理に変更するなど調理工程を簡略化したりした。あえて手書きのレシピ集にすることで親しみやすさを感じることができるようにした。					
3. おわりに					
保育所や幼稚園で食育として郷土料理を伝えていくことは郷土料理の伝承に必要なことである。簡単な郷土料理を作ることから始め、郷土料理に興味を持ってほしい。今回作成したレシピ集が子どもたちにとって、郷土料理へ興味を持つきっかけとなるよう、啓発活動を行なっていきたい。					

氏 名	梅岡 真衣	学籍番号	J014005	ゼミ No.	3
テーマ	保育で学ぶ歌と幼児の自発的活動の関係				

筆者が第一次実習をさせていただいたM幼稚園では、歌をよく用いた幼稚園で朝、昼食、帰りの他に、沢山の場で幼児が歌を歌っている姿が見られたことから、園生活において日常的に数多く歌われる歌は、自ずと子どもの内面に届いていくとも考えられはしないだろうか。これらのことから幼児の内在する歌が普段の遊びの中にどのような関係性を持ちながら遊びそのものに関連していくのかについて調べることにした。

上述を検討するために以下の方法を実施した。筆者の実習幼稚園で2週間の期間、幼児の自発的な歌唱活動を観察しデイリーに記録した。さらにM女子大学の実習生 40名を対象に、実習園で幼児の自発的な歌唱活動についてのアンケートを実施した。これらのデータに基づいて、どのような状況でどのような歌が出てくるのかを考え検討したいと考える。

その結果、実習生のアンケートからは、幼児は園生活のたくさんの場でいろいろな歌を口ずさんでいるということがわかった。季節や遊びなど園で知る歌の他にも、家庭で聴く歌など、幼児の記憶の中にある歌は様々な場で得られているということが読み取れた。幼児は何かをしている時にその活動と歌が自然と結びついているのであろう。歌うことによって、幼児は遊びや活動のイメージも広がるのだと考えられる。

筆者の記録からは、幼児は自分の感情などをメロディーにのせ歌う様子が見られ、自分で即興的に歌うことを楽しむということがわかった。また歌の音楽表現を好むということも読み取れ、歌うこと自体を好んでいるのだと考えられる。

つまり、歌とはで幼児は自分の感情を表現し、想像性を豊かにするものであると考えられる。歌はその時々によって幼児の意欲や想像を深めたり、自分の気持ちを表現したり、遊びの空想や世界観を広げたりなど、幼児のイメージを膨らませるものだと考えられる。また幼児は歌を歌うことで、心の中に描いている心象や想像を形にするのだとも考えられる。幼児の行動と歌が一致することによって幼児のその行動に対する意識も高まっているのであろう。幼児は歌を歌うことを楽しんでいるからこそ、自発的に歌うのではないだろうか。楽しい時には明るい曲を聞き、悲しい時には静かな曲を聞きたくなるように、幼児も自然と歌の特長を理解し、その時々のお気持ちによって歌う曲を記憶の中から瞬時に選択し、歌い始めるのだと考えられる。幼児が保育で学ぶ歌は、日々の生活の中で幼児に自発的に歌われるということがわかった。歌は幼児により良い影響を与えており、歌うことによって表現、想像性、創造性、感受性などが得られ、広がるのだと考えられる。幼児たちにとって歌は欠かせないものであり、心情、意欲、態度を育てていくものなのだろう。ゆえに、幼児が歌を知っていく機会を保育でつくっていくことが肝要だと考えられる。



氏 名	大西里奈	学籍番号	J014008	ゼミ No	3
テーマ	ゆるキャラについて ～ どうしてゆるキャラは誕生したのだろうか。～				
<p>近年、日本では「ゆるキャラ」という言葉が誕生し、空前のゆるキャラブームとなっている。ゆるキャラが誕生する前の 1990 年代は、ハローキティ、たまごっち、ポケモン等のキャラクターブームであった。その後、ご当地ヒーローと呼ばれる地域活性化のためのブームが起こった。“ゆるキャラ”の名付け親としても知られているイラストレーターのみうらじゅん氏によれば「20 年前、ある物産展で目撃したキャラクターは所在なさに端の方に立っているキャラを見て、かわいそうだと同情した。“キャラ”は有名なこと。“ゆるいキャラ”で“ゆるキャラ”という世界さえあれば、堂々と生きていけるだろうと思って付けた名前だったんです。<sup>1)</sup>」と述べている。ゆるキャラは、今や癒しの文化として根付いている。ゆるキャラの史実、事実、ゆるキャラの出現背景や文化的な価値、これらを明らかにすることを通して、ゆるキャラの存在意義について、検討したいと考える。</p> <p>ゆるキャラに関する情報を過去 4 年間の上位 10 位を調査の対象とし、ピックアップし名前、形状・色、コンセプト、所属を調査し分類する。</p> <p>2011 年から 2014 年のゆるキャラグランプリ上位 10 位のゆるキャラを名前、モチーフ・形状、コンセプト、所属別に分類し 3 つのことが明らかになった。</p> <p>1 つ目は、ゆるキャラの特徴である。地域の特産物や動物などアピールしたいことをモチーフとしてゆるキャラが描かれている。2 つ目は、ゆるキャラのコンセプトが特産物や動物がモチーフとして多い中で、妖精がコンセプトであったり、実在する歴史上の人物がモデルとなったりしている人型のキャラの登場も多く見られるようになった。3 つ目は、ゆるキャラは今や、自治体を PR するためのひとつの手段であることが言える。それも最初はマスコットキャラクターからの始まりであったと考えられる。そして、イベントマスコットキャラクターとして誕生したキャラクターもイベントマスコットの勤めを果たした後に、自治体の PR を行うためのキャラクターいわばゆるキャラとして活躍するようになった。その後、全国の自治体でゆるキャラブームに乗っかり、今やゆるキャラグランプリが毎年開催されるようになった。</p> <p>ゆるキャラは 2000 年代以降ブームに火が付き、2011 年には「くまモン」の出現により一世を風靡したと言えよう。それは間違いなく、人々の癒しの文化であったと言える。2017 年現在では、テレビで取り上げられることも少なくなり、筆者自身もゆるキャラブームは終息を迎えつつあるのではないかと考えている。これからのゆるキャラの存在意義に着目しながら、今後も動向を見守っていきたいと考える。</p>					

氏 名	沖中美紅	学籍番号	J014011	ゼミ No.	3
テーマ	外国人から見た日本の真実				

近年、訪日外国人旅行者数は、年々増加している。日本の中核都市である東京や大阪には本当に大勢の外国人がおり、私が現在住んでいる愛媛県松山市でも、街を歩けば外国人旅行者を多く見かける。今日では日本で外国人旅行者を見かけることは日常の一部になってきていると言えよう。2020 年には東京オリンピックも開催される予定であり、世界の日本への関心は確実に高まっていると言える。では、外国人から見た真の日本の姿はどこにあるのであろうか。上述の問題意識により、外国人から見た日本の魅力はどのようなところにあるのか検討したいと考えた。

すでに出版刊行されている関連書籍を収集し、それらの記述内容から、外国人から見た日本人に対するイメージや特性についての共通的事項の分析をする。その分析を通して、日本の魅力について明らかにしていく。

分析の結果、“礼儀”というカテゴリーを検討書籍の中に共通して得ることができた。これは、武士道の精神が背景にあるだろう。日本人が幼児期から自然と身に着けた道徳心や規範意識が日本人の礼儀正しさに繋がっている。それは、いかなる状況であっても発揮される。震災という非常事態のときでも、日本人は秩序を保ち、礼儀を持って人々と接することができた。非日常の場面で発揮されるものこそ、真の特性と呼べるものなのではないだろうか。頭を働かせてあれこれ考えて行動するのではなく、何も考えていなくても秩序だった行動を当たり前のようにとることができるということは、日本人の誇るべきところだと考える。

さらに、親切、互助、思いやり、団結という 4つのカテゴリーが得られた。これらのカテゴリーの中心には人と人との関わりが据えられている。相手のことを尊重した行動をしたり、相手の気持ちを考えてから発言したりすることは、日本人にとってごく当たり前のことではある。しかし、その相手を思いやる精神が海外の人々に感銘を与えている。特に、震災の際に自分のことを投げ出してでも他の人を優先したり、絶望的な状況でも互いに協力し合ってひたすら前を向いて努力し続けたりすることは中々できることではない。これは、日本人の気質と関係していると考えられる。この日本人の気質には、真面目・正直・誠実・繊細・向上心・責任感などが含まれている。繊細な感情を持つからこそ、他人の感情にも敏感になれるのではないだろうか。真面目で誠実で責任感があるからこそ、互いに信頼し合って協力できるのではないだろうかと考えられる。

これらのことから、外国人は日本人のことを、礼儀正しい国民であり、相手のことを思いやる温かい心を持つ国民であると捉えていることが明らかとなった。



氏 名	川下晃奈	学籍番号	J014014	ゼミNo.	3
テーマ	女子大生の将来設計から見るキャリア像				
<p>本研究は、女子大生の恋愛や、結婚、仕事についての考えを知り、将来のキャリア像について検討するために、女性の活躍や将来設計についてアンケート紙調査の質問項目を作成し、女子大生を対象にキャリアに関するアンケート紙調査を行った。</p> <p>アンケート調査に基づき、因子分析を行った。まず、女子大生の恋愛についての考え方尺度では、3 因子が得られた。第 1 因子は、「恋愛優先主義因子」、第 2 因子は、「恋愛現実主義因子」、第 3 因子は、「恋愛結婚主義因子」である。次に、女子大生の結婚、仕事についての考え方尺度では、3 因子が得られた。第 1 因子は、「人生変容主義因子」、第 2 因子は、「人生結果主義因子」、第 3 因子は、「人生打算主義因子」である。さらに、女子大生の人生についての考え方尺度では、2 因子が得られた。第 1 因子は、「人生主体主義」、第 2 因子は、「人生受動主義」である。さらに、現在恋人の有無によって恋愛観や人生観の捉えかに違いはあるのか調べるために、各因子の平均の差を比較する t 検定を行ったところ、「恋愛優先主義因子」、「人生打算主義因子」これら 2 つの因子間において有意な差が見られた。これにより、恋愛観では、恋人がいる人といない人ではいる人の方が恋愛を現実的に考えており、現在恋人がいる人は実際に交際をしているため現実的に恋愛を捉えていた。恋人がいる人は恋愛に対しての依存はなく、恋愛と自分自身の立場を全く別物として捉えているのではないだろうか。逆に、現在恋人がいない人は、恋愛に対して憧れを持っているため、恋愛を第一に捉えがちなのではないかと考えられる。また、結婚生活などの人生観についても恋人がいない人は、現状をよりよく他者から見られたいという上昇的思考が、恋人がいる人よりも、勝っており、周囲の人の目をかなり気にして人生について考えていると考えられる。逆に恋人がいる人は、結婚などのライフイベントについて、かなり現実味を帯びて捉えているため、将来設計についてもある程度の見通しを持ちながら、自分の将来像を持っているのだろうと考えられる。</p> <p>女子大学生の考える将来設計の中で恋愛に関わることは恋人の有無が多少なりとも関わっているという事が分かった。しかし、因子間の平均値で特に差が得られなかったため、人生についての考え方に明らかな差がないのではないとも言える。</p> <p>恋愛観の「恋愛現実」「恋愛結婚」、結婚、仕事に関するキャリア観の「人生変容」「人生打算」、人生観の「人生主体」「人生受動」、これらにおいて有意差が得られなかった。このため、これらの尺度には恋人の有無はあまり関係していないのだということが分かる。このように、本来求めたかった女性のキャリア像について明らかにすることはできなかったが、「恋愛優先主義因子」「恋愛現実主義因子」「恋愛結婚主義因子」、「人生変容主義」「人生結果主義因子」「人生打算主義因子」、「人生主体主義」「人生受動主義」の因子が得られたことは研究の成果であると考ええる。</p>					

氏 名	佐々 香菜子	学籍番号	J014021	ゼミ No.	3
テーマ	ヨコミネ式教育法が幼児にもたらす効用について				

筆者が実際に実習させていただいたヨコミネ式教育法を導入している K 幼稚園での自立・知育を中心に据えるヨコミネ式教育法が、幼稚園教育要領のねらいに掲げられている心情、意欲、態度にどのように培われていくのか検討したいと考えた。

研究の方法は、K 幼稚園での実際のヨコミネ式教育法の活動の時間の幼児の様子や教師とのかかわりを事例記述する。これらの事例に基づき、幼児の姿や教師のかかわりの中にどのような幼児の育ち（心情・意欲・態度）が伺えるのかということに着目し考察する。

その結果、ヨコミネ式教育法が幼児にもたらす効用は大きく 2 つあることが分かった。1 つ目は、一人ひとりの幼児の姿に向き合う教師の姿や援助が、幼児の能力を引き出しているということである。教師と幼児の関係性が幼児の姿に大きく関わっていることを感じた。幼児がヨコミネ式教育法の中で、喜びを感じた時、教師は幼児の喜びを受け止めるだけでなく、喜びを共有することで、幼児自身の自信と頑張ろうとする意欲と態度に繋がっているのではないかと考えられる。この幼児自身の自分の能力への気付きが、次なる幼児の可能性になっているのではと考えられる。さらに、ヨコミネ式教育法の甘やかしが幼児の弱体化に繋がるという理念から、幼児に厳しく指導する側面も見られたが、幼児は、教師との関係性、さらには普段の「自己鍛錬」から、「続ければ出来る」という確信に近い自信に繋がっており、幼児の才能開花になっているのではないかと考える。

2 つ目は、ヨコミネ式教育法の活動は幼児の主体性を育んでいるということである。ヨコミネ式教育法で行われている知育は、幼児が教師から強いられているものではなく、活動において幼児が主体的に意欲をもって活動する姿が見られた。中には幼児には苦手な活動もあるが、その際にも教師の援助や励まし、また他児の成功した姿に影響されて幼児自身の「出来るようになりたい」という気持ちが芽生え、幼児は主体的に取り組んでいることが分かった。気持ちを引き出すのが教師の役割であるとも感じたが、出来るようになった、成功した時の心情を幼児自身が体験しているからこそ、幼児が主体的に活動に取り組んでいるのだと考えられる。この主体性の育ちが、ヨコミネ式教育法が掲げる「自立」にも繋がるのではと考えられる。この「自立」が常にヨコミネ式教育法の活動の中では幼児が行っており、この繰り返し、経験こそが主体性の育ちになっていると考えられる。

よって、ヨコミネ式教育法の理念の基で行なわれる教育は、幼児の将来をも見据えた教育であり、幼児の可能性を信じ、開花させるための教師の関わりやその中での幼児の主体性の育ちは、幼稚園教育要領（2008）に掲げられている幼児の心情・意欲・態度を育んでいることが考えられる。

氏 名	高須賀 詩織	学籍番号	J014023	ゼミ No.	3
テーマ	出生順位と性格の特徴—女子学生を中心に—				

日本人には出生順位や血液型などから性格を決めつけるという言説がある。筆者自身も出生順位から「長女っぽい」ということを良く言われ、しっかり者、責任感がある、などのイメージを多くの人に抱かれているようだ。このように、出生順位と性格は関連があるのかもしれない。筆者は女子大学で4年間過ごしてきて、同学年の女子友達たちについて「この人は末っ子だから」「この人は長女だから」という言説どおりの考え方はめ込んだことがある。このことから出生順位と性格の関連は女性に限定したとしても同様に当てはまるのかどうかを明らかにしたいと考えた。

浜崎・依田（1985）の尺度に加え新たに出生順位と性格関係にかかわる質問項目を考案し尺度を作った。それにより、M 女子大学の女子学生を対象に、出生順位と性格の特徴に関する質問を43項目設定しアンケート調査を実施した。

まず、性格の特徴を測定する48項目を、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行ったところ、6因子が得られた。第1因子は、内向的な思考を示す項目から構成されるため、「非社交型因子」と命名した。第2因子は、自分勝手な考えかたを示す項目から構成されるため、「自己中心型因子」と命名した。第3因子は、責任感がありグループのリーダー的な思考を示す項目から構成されるため、「リーダー格型因子」と命名した。第4因子は、小心者で自分勝手な思考を示す項目から構成されるため、「小annaわがまま型因子」と命名した。第5因子は、大雑把な思考を示す項目から構成されるため、「大雑把型因子」と命名した。第6因子は、誰にでもいい顔をする思考を示す項目から構成されるため、「八方美人型因子」と命名した。

次に、性格に関する6変数の有意な正と負の相関を得ることができた。また、回答者の出生順位を一人っ子と兄弟有の2群に分類し、それぞれの因子において2群間でt検定を行い、平均値を比較したが、すべての因子間において有意な差は得られなかった。そして、回答者の出生順位を長子・中間子・末子の3群に分類し、それぞれの因子において3群間で分散分析を行い、平均値を比較したが、すべての因子間において有意な差は得られなかった。

このように、t検定においても分散分析においても有意な差が得られなかったのは、作成された質問自体が被験者である女子大生全てにおいて、誰しも当てはまるような質問項目によって作成されていたからではないかと考えられる。「わがままである」「責任感がある」のような極端な質問などは含まず、一般的に認知されているような性格の項目は除外していた。通念的に認知されている出生順位の性格の差を協調して問うような質問項目が希少であった。ということに所以している可能性が高いのではないだろうか。このことから、質問の内容自体に問題があったため、有意差があらわれなかったということが分かった。

氏 名	石山 莉奈	学籍番号	J014002	ゼミ No.	4
テーマ	ディズニーランドが愛される理由について ～ディズニーリゾートの成功の秘訣 リピーター率について～				

ディズニーランドには、毎年 2,500 万人もの人が訪れている。そしてその入場者の 90% はリピーターであることも解明されている。人々はどのようにしてまた行きたいと思うのか、ディズニーランドが成功し続けている理由は何なのかについて追及してみたいと思った。これが本研究の動機である。

本研究をして、ディズニーランドにゲストが何度もリピートしたいと思う理由については①商品の力②場の力③人の力④仕掛けの力⑤情報の力の 5 つの力を連携し、利用や購入への期待を持たせているということが分かった。

ゲストに大きな期待を持たせ、実際にそれを超える評価を獲得して「特別満足」をしてもらう。いつでも期待に応え、「期待→満足」というサイクルを確立する。その中でもディズニーランドが最も大切にしているのが「仕掛けの力」だ。新しいアトラクションやショーが導入する度に人は「次はどんな楽しいものがあるのだろう」と期待し、是非行ってみたいと思う。ディズニーランドはそういったゲストの心理もしっかり把握し、それを戦略的にパークの経営に繋げている。パークチケットの値上げをしたことによって離れがちになってしまったゲストの気持ちを次年度、次々年度とアトラクションや、ショーの導入など、変わり続けていくことによって、ゲストも来るたびに変わるディズニーランドを見て、料金の値上がりというマイナス面より「もう一度いこう」という気持ちを優先させるのであると考える。そしてリピーターを生み出すために最も重要なことは「変わらないこと」「変わり続けること」である。これをいつでも同時に行うという事がリピーター戦略の特徴であるだろう。ディズニーランドは「夢と魔法の国」、「ファミリーエンターテイメント」をコンセプトにしている。このコンセプトは変わってはいけない。誰もが世代や民族を超えて楽しめる場であることがディズニーランドの前提だからだ。しかし変わらない土台をもちながら、同時に変化する部分を持ち、ゲストを刺激し、触発し続けることがリピーターを生み出すための秘訣であるだろう。

こうして毎年追加投資を行うことによって、人々はディズニーランドに行けば常に新しい何かがあるという期待を持つ。このことから、リピーターはディズニーランドの中のアトラクションに対する期待というだけではなく、何かを生み出すディズニーランドの創造性に期待を感じているのだと思った。

また、研究を進めていく中でディズニーランドは「娯楽と消費の施設」や「何の生産性もない施設」と言われることもある。確かにそうであるかもしれない。

今回はいわば内側からみたディズニーランドについて調べたことをまとめたものであるが、今後は外からみたディズニーランドについて考えてみたい。



氏 名	大南 佳那	学籍番号	J014009	ゼミ No.	4
テーマ	わらべ歌が子どもの育ちにもたらすメリット				

はじめに（動機と目的）

卒業研究に、わらべ歌を選び、その面白さを調べようと思った理由は、小さい頃に何をして遊んでいたかを思い出してみると、すぐに「わらべ歌遊び」が頭の中に浮かんだからである。その頃、どのようにして遊んでいたか細かなことまでは覚えていないのですが、けんかをしながらでも楽しく遊んでいたのは覚えている。子どもの頃にわらべ歌遊びを楽しんでいたのはなぜか知りたいと思ったのがこのテーマを選んだ理由である。

第一章（特徴と種類）

わらべ歌遊びは、昔から伝承されてきた歌と遊びが一体となった遊びで、歌に動作をともなっているものが多い。さまざまな動きやしぐさが歌にともなっているため、子どもたちは歌を楽しむだけでなく、身体を動かすことも一緒に楽しむことができる。動きやしぐさをともなうということは、子どもたちが遊ぶなかで、自然に身体のいろいろな部分を動かす経験をすることになる。

第二章（保育とわらべ歌）

子どもたちは遊びをより面白くするために考え、工夫する。また、他児と出会い、一緒に遊ぶ楽しさも経験する。もちろんトラブルも経験するが、相手の思いに気づき、自分の思いをコントロールすることも覚える。友だちと一緒に遊ぶ楽しさを経験していれば、多少時間はかかってもいずれさまざまな困難を乗り越えていくことになる。わらべ歌遊びもその遊びの一つであり、子どもの社会性を育てるには欠かせない遊びである。

第三章（保育におけるわらべ歌の意味）

わらべ歌は、少人数でできるものから大人数でできるものまでさまざまあるが、集団でなければ遊べないものが多い。子どもの自然な関わりの中で、歌って遊びながら、相手（集団）も自分も楽しみながら共に育つ面がある。そのため保育の中では昔から大切にされてきた。

おわりに

わらべ歌遊びの中で、子どもはそれぞれの発達過程の中で大切な経験をしている。わらべ歌遊びは身体活動をともなう。歌に合わせ手や足を使い、身体を通して遊ぶ。そのため子どもの感覚や身体の認識の発達を促す。このように、わらべ歌遊びは自然な形で楽しく遊ぶことによって、子どもたちの感覚や身体、社会性の発達を促すものだと思う。

氏 名	越智 優奈	学籍番号	J014013	ゼミ No.	4
テーマ	待機児童問題の現状から見た保育の問題点				
<p>〔1、研究の動機と目的〕近年、待機児童問題とともに保育所と保育士の不足している現状にも注目が集まっている。その中で国の政策、地方の政策、企業の政策等、様々な取り組みが行われているが、なかなか解決には至っていないのが現状だ。このような待機児童問題の現状を捉え、本質的な問題や自治体の対策をあげながら待機児童増加の現状・待機児童解消に向けた取り組みを分析する。そしてこれらを含め、保育を取り巻く現状の問題点を考える。その入り口として待機児童問題を取り上げ、そこから見えてくる様々な問題について考えようとしたのが動機である。</p> <p>〔2、待機児童の現状と課題〕本研究をして、核家族世帯の増加、経済状況の悪化により共働き世帯が増加したこととそれに伴う保育に欠ける子どもの増加、保育士不足、女性の社会進出により、保育ニーズが高まったことなど、様々な要因により待機児童問題が深刻化していることが分かった。これらを踏まえ、国や地方自治体は、「待機児童解消加速化プラン」や「子ども・子育て支援新制度」などの策定、「認可保育所の増設」、「待機児童解消加速認定こども園推」など様々な政策により待機児童問題の解決を試みているが、潜在待機児童の存在も考えると、やはりこの課題を解消することは困難であると考え。しかし、多様な保育主体の参入や民営化が進むことで、これを緩和することはできるであろう。しっかりとした基準を定め、人員を配置すること、行政が保育の現場を監視することで、保育の量と質を共に保つことが求められているのだと考える。</p> <p>〔3、保育の質の確保〕そして、これから保育施設を増設していく上で保育の質に注目しなければならない。現在、「子どもの健全育成」の視点がないまま規制緩和による保育所拡張が進み、保育事故も頻発している。また、企業の保育参入も広がり、保育室の面積の狭小化や、園庭がない小規模保育では、無資格での労働など、保育の質へのチェック体制が不十分なまま、規制緩和が進んでいるのが現状だ。待機児童問題に対処するために保育の供給量を増やすことも必要だが、子どもの健全育成に十分配慮するとともに、子どもが知的好奇心を十分に満たせる環境であるよう、国として財政的に保障することが重要になるといえる。</p> <p>〔4、結論・保育者の役割〕低年齢児の保育に対する保護者の意識は、子どもの成長の面からは保育所保育の方が良いと考えている割合が高い。それだけ子育てを支える存在として保育者の役割への期待が大きいことになる。一人ひとりの子どもを信頼し、ありのままの姿を受け入れる保育者のまなざしが必要になる。その眼差しを支えるのは一人ひとり子どもの発達をよく理解することである。そしてその時期に相応しい生活を保障する場であるために、保育者がお互いの共通理解のもとに役割を分担することが重要になると考える。</p>					

氏 名	木村 知加	学籍番号	J014017	ゼミNo.	4
-----	-------	------	---------	-------	---

テーマ	やなせたかしが後世に残したもの
-----	-----------------

## はじめに

幼稚園や保育施設はもちろん、スーパーのキッズルームや医療の現場でも「アンパンマン」を目にすることが多くある。それは、様々なキャラクターが存在する現代で、アンパンマンが長年絶対的な人気があることを示している。しかし、アンパンマンには自分の顔を困っている人にあげることや、食品や目に見えないばい菌をキャラクター化するなどいくつかの不思議な点も存在する。それには作者である「やなせたかし」の人生体験が関係していると考えられる。やなせたかしとその作品である「アンパンマン」について調べると、興味深いことがたくさん出てきた。そこで私はもう少し研究で進めたいと思った。その理由は、研究した内容が就職したときの保育実践に活かすことができると考えたからである。

## 第1章 アンパンマンについて

やなせたかしの人生経験から「ひもじいひとを助ける＝真の正義」という考えとキリストの教えを基にアンパンマンは誕生した。最初は大人向けに作られたアンパンマンだったが、子どもに人気があったことから、子どもが好むキャラクターや内容設定、特徴を取り入れた作品に作り直された。この経緯について述べた。

## 第2章 やなせたかしについて

アンパンマンの作者としてだけでなく、雑誌の編集や歌詞の製作活動にも関わっていた。これらの作品に表れたやなせたかしの人間観や思想について考察した。その思想の背景にある戦争体験や人生の挫折体験について調べてみた。

## 第3章 子育て・保育に活かせること

泣いていた子どももアンパンマンのアニメを見たり、キャラクターグッズを手にとると自然に無理なく気持ちを切り替え泣き止む。そこには子どもの気持ちを促える面白さがあるのだと思われる。それは単なる勧善懲悪ではなく、困っている人がいると自分を犠牲にしてでも助けようとする崇高さである。このアンパンマンの人への愛や優しさをアニメや絵本を通して、子どもたちに伝えたいと思う。

## 第4章 結論

やなせたかしは「現代は恵まれすぎている」と述べる。そして、現代の人に欠けている「諦めず、続ける力」をアンパンマンなどの作品を通して、子どもたちや社会に伝えようとしている。

研究を通して、多くの子どもたちを魅了するアンパンマンやそれを世に送ったやなせたかしには、さまざまな思いや物語があることを理解することができたように思う。やなせたかしは亡くなったが、今もその思いは子どもたちに伝えられ続けているし、今後もその作品を通して多くの人々に伝えられてほしい。

氏 名	田坂美結	学籍番号	J014026	ゼミ No.	4
テーマ	乳児期の愛着の形成と家族の役割について				

世の中には様々な家族の形がある。例えば、現在最も多いと言われる核家族、女性の自立にともない増えつつあるひとり親家族、徐々に少なくなっている三世代同居の複合家族などである。

児童養護施設で過ごす子どもたちの多くは、特に愛着関係や人間関係に問題を抱えていると言われる。家族の中で愛着が形成されなかったのである。愛着が育つには家族のどのような条件が必要なのだろうか。また、子どもにとって家族とはどのような存在であり、どのような家族が子どもにとって必要なのであろうか。これがこの研究の目的と内容である。

愛着行動には愛着者にじっと視線を注ぐ「定位行動」、愛着者にしきりに泣き声をあげたり声をかけたりする「信号行動」、愛着者に後追いしたり、しがみつこうとする「接近行動」の三つがある。重要なことは、これらの行動はすべて、乳幼児が不安になった時に顕著に表れる行動であることだ。このような愛着行動に特定の大人による反応がなされることで、多くの場合 0 歳～2 歳頃までに愛着の形成を達成する。それによって、子どもは安心して大人から離れて自立できるようになる。愛着者の存在が、子どもの自立を促す要因になるのである。人間には誰にでも自分の「心の安全基地」が必要である。その絶対的な存在として多くの場合、家族がその役割を担っている。

子どもにとって必要なのはただ世話をしてくれる家族ではない。どのような時でも自分を安心させてくれる愛着の対象者になるような存在、そして自分だけが愛着の対象であり続けてくれるような家族である。それは必ずしも生みの親でなくても良い。大切なのは失敗した時や疲れた時に、頼ることができる「心の安全基地」としての家族の存在である。これは多くの場合、自分の母親や父親がその対象になる。そのため家族が愛着の対象者として機能するように、保育所や幼稚園に加えて子育て支援センターや児童センターなどの地域に根差した子育て支援の拠点が必要である。また、子育てを支えてくれるその地域の人々とのつながりも必要になる。

特定の大人と愛着を形成することは、対人関係の基盤となり、その後の人間関係に影響すると言われる。家族という小さな社会の中での人間関係が安定することで、子どもは家族という社会を離れ、より広い社会に目を向けることができる。例えば、学校や地域社会である。そのため乳幼児期に愛着を形成することは、子どもが人間として社会で生きていくうえで必要不可欠になる。

したがって結論として言わなければならないことは次のことである。家族やそれに代わる人間関係の中で子どもの愛着を育てることは、その子が人間として生きる上で大変重要になる。このことを多くの子育て中の保護者や子どもにかかわる大人たちは理解しなければならない。そしてそれを広めるのは保育者の役割でもあるということだ。



氏 名	西岡 茉耶	学籍番号	J014028	ゼミ No.	4
テーマ	乳幼児にとっての手遊びの意味について				

「手遊び」とは「歌に手や指の動きを伴った遊び」とであると定義される。遊びの形態はさまざま、子どもたちもさまざまな反応をする。道具も必要とせず、いつでもどこでもできるのが魅力である。また手や指を動かすことによって、幼児の成長や発達にとっても良く、乳幼児の表現活動の一つとしても大切である。そのため保育者にとっては身近な保育教材でもある。

子どもの成長には、個人差が見られる。子どもの発達には順序があり、頭から始まり下方向に向かって進み身体を中心から末端に向かう。子どもの発達段階と発達過程との違いから子どもの発達の姿を見ると、日常生活の中や身の回りの環境の中に成長につながるヒントがあることが分かった。年齢ごとに手遊びを使い分け、子どものできることに注目しながら、徐々に表現に工夫を入れていくことでより楽しむことができる。保育者はどのような援助が必要か考え、時には工夫し楽しむことが重要になってくる。

乳幼児期で大切なのは親しい大人との関係である。また心身の発育・発達が著しく、人格の基礎が形成される時期でもある。そのため心身に安定した状態でいることのできる環境や愛情豊かな大人の関わりが必要になってくる。保育者は子どもの発達過程に応じて見通しを持って保育を行うことが求められる。また、子どもは生活の中での「体験」を基にして環境に働きかけ、新たな能力を獲得していく。「手遊び」もその「体験」の一つである。みんなで「できた」という「体験」をすることで、表現したいという意欲につながる。また、「手遊び」にはコミュニケーションやスキンシップの一つとして重要な役割を果たしていることがわかった。

人間の手と人間の脳とは深く関連しており、その中でも脳は人間にとって最も重要な役割を担っている。脳は別名新しい脳とも言われ、その大部分は手とつながっていて、手とは外に出た脳であるということが分かった。つまりたくさん手を使うことで脳が活性化され、子どもの育ちにつながるということが分かった。

氏 名	兵頭 沙季	学籍番号	J 014031	ゼミ No.	4
テーマ	ダンスと教育				
<p>・目的 筆者は長年ダンスを習ってきた。そのダンスが、現在文部科学省により、中学校で必修化されていることを知り、興味を持った。また、自身の高校時代にもダンスの授業があり、今では小学校でも体育の授業にダンスを取り入れているところも少なくない。そこで、筆者が大学で専攻し、学んできた幼児教育にもダンスを取り入れることが出来るのではないかと考えた。そして、文部科学省の意図や、ダンスの歴史、ダンスが子どもの発達にどう影響するのかを研究するため、テーマを「ダンスと教育」と定めた。</p> <p>・方法 主に、文部科学省の学習指導要領から、改定前と改定後を見比べたり、文部科学省のホームページから、文部科学省がダンスを必修化とした意図を見出し、どのような種類のダンスを実際に行っているのかを調べていくと、文部科学省が実施しているダンスが三つに分けられていることが明らかになった。</p> <p>・内容 「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」は、それぞれにねらいや目的がある。小学校の低学年では、「リズム遊び」と称し、ダンスに対して苦手意識を持たず、遊び感覚でダンスをして、ダンスが楽しい、ダンスが好きという気持ちを大切にしながら取り入れられている。中学生になると、ダンスの歴史的なことも学んでいき、知識を身に付けていく。このように、発達段階によって、ダンスへの学びや評価が異なる。</p> <p>ダンスが子どもたちに与える影響として、ダンスの授業で仲間とともに一つの作品を作ること、自分の意見を発信し、自己表現ができるようになる。また、コミュニケーション能力の向上にもつながる。創った作品を人前で発表することは、人前に出ることに慣れ、堂々とした自己表現ができるようになる。このことは社会に出てからも大いに役立っていく。</p> <p>・結果 ダンスは、運動神経、リズム感、表現力、記憶力、協調性など、幼児教育にとっても大きな役割を果たすことがわかった。曲がかかったらついやってしまうというような、老若男女問わない人間の本能的な行動。そこを狙い、ダンスが楽しいと思うような環境づくりをすることが教育者に求められることであると考える。子どもたちの成長にも大いに期待がかかる一方、指導者となる大人の存在も重要になってくるが、子どもたちの発達に様々な効果が期待されているダンス。ダンスを子どものころから向き合うことは、詰め込み式の日本の教育システムや、与えられた技術だけをひたすらこなしていくスポーツでは身につかない表現力、創造性が身につく。その感性は現代の社会でのビジネスシーンで最も必要とされる素養である。更なる発展と途上が期待されるダンスを今後、日本の教育シーンの一線として視点を置き、研究を進めていく。</p>					

氏 名	松本 結衣	学籍番号	J014036	ゼミ No.	4
テーマ	子どもとの会話を大切にした保育実践 ～ 子どもが自分の力で気づけるための援助 ～				
<p>私がこのテーマを卒業研究として取り上げたきっかけは、保育所で保育者が行っていた3歳児から5歳児の子どもたちが一人ずつ前に出て将来の夢を発表するという実践だった。保育者の役割は、子ども自身が将来何になりたいのか想像し、それを友達に伝えることができるようにしたり、その夢をさらに具体的に膨らませ、子ども自身がなりたい自分のイメージを持てるように援助したりすることでもある。そのために保育者は日常保育の中で、子どもの夢や子どもとの会話を大切にしながら、子どもたちのことばへの関心を持てるようにする姿が見られた。そのためには、子どもとことばの出会いが必要不可欠になると考えた。</p> <p>各年齢によってことばの役割は異なってくる。例えば、3歳になると子どもは自覚していないが「うそ」を楽しむようになる。これはことばによる想像力が豊かになった証だ。しかし、3歳くらいまでの子どもは、本当の意味ではうそをついたことにはならないのではないかと。うそは現実と虚構の世界との区別がついていることが前提になるからだ。3歳まではこの区別がつかないことが多く見られる。友だちの誰かが「オーストラリアに行ってきたお土産」と言ってチョコレートをいただいたりすると、他の子が「わたしもいったよ」「ぼくだっていった」「このあおいうみみたことがある」「コアラのお人形もってるもん」などと言いながら、ほとんどの子どもがオーストラリアに行ったことになってしまうこともある。そこには強い願望や思い込みがあり、現実との区別がつきにくくなってしまっているのである。この頃の子どもは、ことばで作られた自分のイメージの世界を楽しむのであろう。</p> <p>4歳にもなると現実と虚構の世界との区別ができるようになり、自分の意思や要求を相手に話そうとする。5歳では友だちの気持ちや考え方を相手に分かるように伝えられる。</p> <p>こうした子どもたちのことばの育ちを毎日の保育実践の中でどのように生かせるだろうか。本論では、ある幼稚園の玉入れやリレーの実践をとりあげた。子どもたちがことばにした気づきや疑問を取り入れながら、それに一つひとつ応じる実践である。子どもたちのことばから、公平に友達と楽しく競うためにはルールが必要であることを理解できるように導く実践である。これは保育者と子どもとの会話から生まれた実践である。このように考えると子どもとの会話は、一対一の時も子ども集団の時も重要であることが分かる。その基本は会話であることは同じである。</p> <p>私は保育者になりたいと思っている。その際には、子どもとの会話を大切にしたい。この研究での学びを今後にも生かし、子どもと一緒に成長できるような保育者でありたい。保育者からの一方的な保育ではなく、できるだけ子どもと毎日の会話を大切にしたい。それが一人ひとりを大切にする保育につながることなのだから。</p>					

氏 名	御木 遥	学籍番号	J014037	ゼミ No.	4
テーマ	重度障がい児の自立について ～Mちゃんの自立とこれからのかかわり～				
<p>私の従妹（M ちゃん）は重度のダウン症で、自分で座ること、話すこともできない。赤ちゃんのようにオムツがぬれたりお腹がすいたりしても泣くことは滅多にない。身体を自分で動かすことも難しいため、筋力も乏しく腕や足は年々細くなっている。背筋が鍛えられていないため、一人で背もたれなしで座ることも難しい。咀嚼して食事を摂ることができないため、誤嚥を防ぐためにご飯もお茶もペースト状にして食事支援をしている。親族である私たちが願っていることは、彼女が可能なかぎり自立することということだ。しかし、このような重度の障がいのある子どもにとっての自立とは、社会的、経済的な自立ではないといえる。なぜなら、彼女にとってそれらはかなり難しいことだからだ。では、重度の障がいのある子どもにとっての自立とは何か、そして自立するためにはどのようなことが必要なのか考えた。</p> <p>重度の障がいのある子どもにとって「自立」をどのように設定することが有効であろうか。それは、自分の意志で選択すること、自分の好みを何らかの方法で、相手に伝えること、あるいは周りからの働きかけに反応することとして理解したい。この研究では「自立」を「周りからの働きかけに反応すること」と定義した。</p> <p>M ちゃんにとっての現在の自立とは少しでも、自分の意思を表情や動きで伝えることができるということである。現在、M ちゃんのできることは限られている。だが、考え方によっては私たちがそのように思い込んでいるとも理解できる。もっと、M ちゃんの可能性を信じたいと思う。M ちゃんは歯ぎしりや、表情、視線ということばではない方法で自分なりの意思表示をしている。それを、しっかり受け取れるようにし、それに応じた働きかけをすることが重要になってくる。私ができることは、まず M ちゃんの表情のちいさな変化に気づき、それが M ちゃんからのどのような要求なのか理解できるようにすることである。そのために、一つひとつの表情に違いを見つけ、それに応じた働きかけを工夫する。また、周りからのいろいろな働きかけに対して M ちゃんが反応できるようにしたい。病院での訓練だけでなく、音や光、色、形、温度などのある玩具を用いたり、働きかけを工夫して一緒に遊んだり話しかけたりすることを試みてみたい。そして M ちゃんの意識が少しでも高まり、追視から M ちゃん自身が興味を示し、手を動かしたり、音を出したり、首を動かしたりできるように働きかけてみたい。手遊びと一緒に M ちゃんの手を取ってすることも効果的なのではないだろうか。そして、いち早く M ちゃんの思いに寄り添いその理解者となることを目指していきたい。</p>					

氏 名	合田 春奈	学籍番号	J014038	ゼミ No.	4
テーマ	児童自立支援施設での実習から見た家庭支援				
<p>自立支援施設の目的は、「不良行為をなし、又はなすおそれのある児童及び家庭環境その他の下から通わせて、個々の児童の状況に応じて必要な指導を行い、その自立を支援し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行う」こととされている。児童の自立支援の延長線上にその家庭支援がある。それは、児童の自立において「家庭」は欠かせないものであるとの考えがあるからだ。児童がその家庭で育ち、その家庭から施設へ入所し、いずれ家庭に帰るとしたら当然のことである。</p> <p>そのために家庭との連携について学びの理解を深め、その支援のポイントを整理し、現場に出た際に生かしたいと考えた。これが、本研究の目的である。</p> <p>施設に入所している児童は、多くは発達障害や愛着障害を持っていた。発達障害を持つ子どもの特性のある行動が自己中心的に見えるため、周囲の大人のひんしゅくをかうことが多い。このため、過度に厳しいしつけを受けたり、拒絶されたり、あるいは干渉と拒否の入り交じった一貫性のないしつけを受けることになりがちなのが一般的である。</p> <p>このような理由からありのままの自分が受け入れてもらえない彼らは、内面的には自己評価が下がって抑うつ的になり、それが外面的には親に対する怒りとして表れる。この怒りをあからさまに表現したり、行動の形でそれを表出したりすることが多くなる。これが虐待による二次障害である。虐待による二次障害で非行に走るなどの行為から入所に至るケースが多いのだ。</p> <p>入所している児童は、幼い頃からありのままの自分が受け入れてもらえない経験を繰り返しているのである。非行は問題行動として取り上げられるが、子どもたちの言葉にならない SOS の証だと考えられる。</p> <p>性別・年齢・経験年数とは関係なく、児童は思いを敏感に感じ取る。それは、今までありのままの自分を受け入れてもらった経験が少なく、傷ついた経験の多いからだ考える。そのため、人の思いには素直になれない部分がある。しかしそれは逆に欲しているからではないか。表面に出てくる言動と、その奥にある気持ちを汲み取り寄り添うことが大切なのではないかと考える。</p> <p>自分のことをしっかり見てくれて、自分の頑張りたいことを応援してくれる、そんな環境が子どもに自信を持たせ、自分から世の中に関われるようにするのではないか。</p> <p>家庭支援とは、家庭と子どもを繋ぐ架け橋となるものである。私たちができることは、寄り添い支えることであり、最終的には家族が自らの「家族再構築」を成し遂げることが課題である。私たちは、家族の絆を信じて、可能な限り支援していきたい。</p>					



氏 名	越智 郁弥	学籍番号	J 014501	ゼミ No.	4
テーマ	待機児童についての考察				
<p>日本で長年問題となっている待機児童問題。ネット上で一人の母親が「保育園落ちた！日本死ね！」という言葉が、国会でも議論されるほど深刻になっている。今では幼児教育・保育無償化が騒がれている。私は無償化の前に解消すべきことがたくさんあるのでは？と疑問に思っている。私の家は、両親は共働きで 15 歳離れた妹がいる。妹が保育園の入所を考えたとき、姉と私がお世話になった保育園の入所を希望していた。しかし定員がいっぱいで入れないかもしれないということを聞いた。まさか愛媛県の、しかも私の地元の西条市で待機児童になってしまうことがあるのかと驚いたことを今でも覚えている。幸い、姉と私を受けもってくれていた保育士さんがまだ園に残ってくれていたためギリギリの条件で入所することができた。</p> <p>このことをきっかけに私は待機児童について興味を持つようになった。少子化も問題とされている日本だが、女性の社会進出も進み共働きが当たり前となってきている今、保育所に入れなくなると子どもを作ろうか迷ってしまうのも無理はない。少子化なのに、なぜ待機児童がいるのかということに矛盾を感じる人も多いと思うが、私もその一人である。私は 4 月から保育士として働くことが決まっているが、子どもに関する問題を見做することはできない。今の待機児童の現状としては全体的にみると少なくなっていると国は報告している。しかしゼロではない。こうした問題を調べるために厚生労働省のホームページから保育についての政策や課題を調べたり、その他の関連サイトで待機児童や保育士に関することを調べたりした。</p> <p>この卒業論文を仕上げていく中で学んだことがいくつかある。まず印象に残ったことは、待機児童問題は様々な国の問題と関連していることである。調べていく中で今まで知らなかった国の政策や、活動などがあった。そして私は保育士でも改善できることがあると考えた。それは潜在保育士・離職者の保育士復帰である。これも国が今、改善に取り組んでいることであるが、これは私たち保育士でも復帰の手助けができるかもしれない。例えば、保育の職場に復帰しやすい環境を整えることである。保育は子どもの命を預かる仕事であるので、簡単に復帰するには勇気がいる。そのため復帰を考えていても立ち止まってしまう人も少なくない。しかし、そういった人たちの気持ちが最もよくわかる私たち保育士が復帰の手助けに協力するべきだと思う。</p> <p>待機児童や子育て支援の問題は、まず自分たちができることをから改善すべきだとこのテーマを考える中で学んだ。日本の保育における様々な問題を、まずは私の愛する地元愛媛から改善し、この行動をきっかけに日本全体が一丸となって問題解決に取り組むことができるようになることを願う。</p>					

氏 名	八 束 舞	学籍番号	J014503	ゼミ No.	4
テーマ	言葉を獲得する前の乳幼児の理解と援助の方法				
1、研究の動機と目的					
<p>これまでの4年間、様々な実習を経験した。特にまだ言葉を獲得していない乳幼児との関わり方の難しさが印象的である。まだ言葉を獲得していない乳幼児が泣いたり怒ったりしていると、子どもの様子をよく見ていないと、なぜ泣いたり怒ったりしているのかが分からないことがあった。実習では一人の子とだけ丁寧に関わることができないので、複数人いる乳幼児の気持ちや思いに寄り添い理解することは正直とても難しかった。このようなことから、保育者は乳幼児にどのように関わり、どのような援助をしていくことが必要なのか知りたいと思った。そのために乳幼児の気持ちや行動の意味をもっと理解したいと思ったのがこの研究の動機であり目的である。</p>					
2、研究の方法と内容					
<p>乳幼児を理解するために、どのような対応が乳幼児のためになるのか、どのような援助が効果的であるのか、絵や色、指さし、仕草、表情、歌などさまざまな角度から、乳幼児の思いを理解する方法を考えることにした。そのために、様々な著者の本を借り、意見を参考にして研究を進め、先生から丁寧なご指導をいただいた。また、短大で行った実習記録の事例を元に、改めて事例を考察することにした。はじめは、描く絵や使う色に焦点を当てていたが、それを手がかりに乳幼児の気持ちを読み取ろうとすることは不可能であると考えた。色のもつ意味や特性を理解してしまうと、それにとらわれてしまって、子どもが使いたい色を否定してしまうことになってしまう。あくまでも参考として考えるべきだと思ったのである。そうでなければ子どもの気持ちだけでなく、その存在自体をも誤解してしまうおそれがある。</p>					
<p>そして、乳幼児の仕草や表情、行動や遊びからその気持ちを読み取るのが最もよいのではないかというのが結論である。乳幼児には身近な人と「もっと！もっと！」関わりたいという気持ちがある。それに応えることが、コミュニケーションの基礎をつくり、人への信頼を育むことになる。私たち保育者は、乳幼児に限らず、子どもの「もっと見てみたい」「もっとやってほしい」という気持ちを作り出すことが必要になる。また、</p>					
3、研究の結果					
<p>結果は乳幼児と関わる上で欠かせないのは、やはりスキンシップを図るということである。スキンシップを図ることは、乳幼児にとって言葉の代わりになる。スキンシップを図るということこそ、乳幼児の援助には欠かすことができない。</p>					
<p>乳幼児は、言葉を獲得する前からさまざまな方法で自分の思いを伝えようとしている。まだ言葉を巧みに使えない、最初の1年間に、仕草や表情を使ってコミュニケーションの基礎をつくる。そうして、1歳を過ぎてからやっと言葉を習得する。それまでの土台の上に少しずつ言葉が加わるのである。そのことによって複雑な自分の思いよりをより簡潔に伝えたり表現したりする手段を獲得し、成長していくのである。そのプロセスを見守るのが私たち保育者の役割になる。</p>					

氏 名	廣藤佳奈	学籍番号	J014032	ゼミ No.	5
テーマ	待機児童問題について				
<p><u>1. 研究の動機</u></p> <p>現在の保育現場では保育士が不足し、それに伴う待機児童問題が発生している。幼児の世話をするのに、低賃金など悪条件の労働環境で、保育の質の低下と安全性が心配されている。</p> <p>私は、定職を持たない有閑な高齢者等に免許を発行して保育現場で補助をしてもらう方法を思いついたが、すでに「子育て支援員」が 2015 年度から始まっていた。</p> <p>今回は、「子育て支援員」や待機児童の現状と対策について調べることにした。</p> <p><u>2. 研究方法</u></p> <p>子育て支援に関する資料、待機児童の現状や対策などに関する Web サイトや書籍を参考にして調べた。また、待機児童を持つ母親、現役保育士に保育現場の現状のアンケート調査を実施し、そこから考察を加えた。</p> <p><u>3. 結論</u></p> <p>日本政府は子育てに関する問題に対して、数年前から本格的に対策を取り、年次計画で幼児教育現場の環境改善を実施している。</p> <p>今の日本では経済状況の悪化により、子どもの教育費を稼ぐために共働きをする家庭が増えている。共稼ぎをする場合には、託児できる場所を探さなければならない。祖父や祖母や家族・親類など、預かる人が居る場合は良いが、居ない場合には働くことができない。</p> <p>日本では少子化対策を実施しているが、子どもを増やすためには託児場所の問題を含めて、育てる環境を改善しなければならない。これは保育だけの問題ではなく、現代の日本の問題である。待機児童の増加に歯止めを掛けるために、まず、保育者を増やす必要がある。そのためには、賃金を含めた保育現場の環境改善、地域との連携、子育て支援員の拡大が必要である。</p> <p>保育現場で働く保育士は、愛媛県の保育現場でも人手不足が発生している、子育て支援員は居てくれるほうが助かる、と回答している。少しの業務にも携わってもらうことで保育士の業務の負担が軽減する。保育士が働きやすい現場に変えていくことが課題である。</p> <p><u>4. 参考文献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松山市ホームページ、<a href="https://www.city.matsuyama.chime.jp/kurashi/kosodate/boshi/hoiku/taikijidou.html">https://www.city.matsuyama.chime.jp/kurashi/kosodate/boshi/hoiku/taikijidou.html</a>、2017 年 11 月。</li> <li>・厚生労働省ホームページ、<a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000098531.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000098531.html</a>、2017 年 11 月</li> <li>・前田正子、『保育園問題』、中公新書、2017。</li> </ul>					

氏 名	山本 詩織	学籍番号	J014046	ゼミ No.	5
テーマ	グリム童話について				
<p><u>1. 研究の動機</u></p> <p>幼少時代からグリム童話は好きだった。保育所や幼稚園には「白雪姫」や「シンデレラ」などグリム童話の絵本が置かれている。しかし、グリム童話は本質的には残酷な物語だと言われる。なぜ、グリム童話は残酷なのか、にもかかわらず、ディズニー映画の原作としてグリム童話が採用された理由などを調べることにした。</p> <p><u>2. 研究方法</u></p> <p>文献や Web 資料を参考にして、グリム童話の歴史的事実や、ディズニー映画との関係性について調べた。また、「白雪姫」と「シンデレラ」についてグリム版とディズニー版の童話内容を比較した。また、本学学生を対象に「グリム童話とディズニー映画の関係性」に関する意識調査を行い、調査結果を集計し考察を加えた。</p> <p><u>3. 結論</u></p> <p>アンケート調査の集計結果から、本学学生のグリム童話に対する印象は「明るいイメージ」の方が強く、ディズニー映画に対する印象とほぼ一致していた。グリム童話の残酷な物語は、一般的にはあまり知られていない。また、グリム童話はただ残酷な物語というわけではなく、実際にあった残酷な事実が童話に反映されているところもある。そもそもグリム童話は、これらの物語を子どもたちに読ませ、世の中の残酷さ、人生の生き方などの教訓を教えるために作られた。</p> <p>また、国としての歴史の浅いアメリカには伝統芸術が無く、おとぎ話を自分達のものにしたいと考え、ディズニーのアニメには童話が原作の作品が多いということが分かった。</p> <p><u>4. 参考文献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桐生操、『本当は恐ろしいグリム童話』、KKベストセラーズ、1998 年。</li> <li>・ 能登路雅子、『ディズニーランドという聖地』、岩波書店、1990 年。</li> <li>・ ドイツを 100%楽しむ！ニュースダイジェスト『グリム童話誕生から 200 周年』、<a href="http://www.newsdigest.de/newsde/news/featured/5416-962.html">http://www.newsdigest.de/newsde/news/featured/5416-962.html</a>、2017/11/10。</li> <li>・ WildOnes『本当は怖い！グリム童話版「シンデレラ」！』、<a href="http://wildones105.com/blog/618/2">http://wildones105.com/blog/618/2</a>、2017/12/15。</li> <li>・ 笑いと文学的感性で起死回生を！@サイ象『白雪姫は怖い？こんなに違う原作(グリム童話)とディズニー映画』、<a href="http://rhinoos.xyz/archives/10785.html">http://rhinoos.xyz/archives/10785.html</a>、2017/12/15。</li> </ul>					

氏 名	井神 礼華	学籍番号	J014201	ゼミNo.	5
テーマ	幼児期における数的理解教育について				
<p><u>1. 研究の動機</u></p> <p>大学に入学して以来、塾講師として小・中・高の生徒を対象に数学を指導してきた。数学が苦手である生徒は意外と多く、幼児期に十分な数的教育が行われていないのではないかと思った。このことを契機として、幼児期の数的理解教育について研究することにした。</p> <p><u>2. 研究方法</u></p> <p>幼児期における数的教育に関する文献や Web ページを検索し資料を収集した。「保育実習Ⅱ」「教育実習Ⅱ」「ボランティア観察実習」を利用して、幼児教育現場における数的教育の実践を行い、結果に考察を加えた。また、本学学生と短大学生を対象として意識調査を行い、その結果を集計し考察を加えた、</p> <p><u>3. 結論</u></p> <p>現場で実践した結果から、幼児期にある程度の数的教育を行うことは可能であると感じた。また、今回実施した調査の結果から、算数・数学を苦手とする学生であっても、幼児に対して数的な教育をするべきである、自分の子どもに対しては行いたい、と考えていることがわかった。しかし、現場では、数的教育を取り入れている園は少ないと感じた。私立ではセールスポイントとして売り出している園もある。公立の園ではあまり見られない。</p> <p>子どもが楽しく活動を行う中で、他者との関わりなどの五領域を大切にしながら、数字にふれあうことが大切である。数的理解教育は難しいものではなく、楽しいものである。保育者養成校での授業などを通して指導を行うことが必要ではないかと思う。自由保育・設定保育など、さまざまな保育がある中で、保育者一人一人の力、保育者同士の連携を持って、行うべきである。</p> <p><u>4. 参考文献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡部恒治・戸瀬信之・西村和雄、『分数ができない大学生』、東洋経済新報社、1999。</li> <li>・無藤隆、『幼児教育の原則』、ミネルヴァ書房、2012。</li> <li>・藤永保・斎賀久敬・細谷純、実験教育方法による幼児数概念の研究Ⅱ、1963、11－21。</li> <li>・丸山良平・無藤隆、幼児のインフォーマル算数について、発達心理学研究、1997、第8巻、第2号、98－110。</li> <li>・ベネッセ、ベネッセ教育総合研究所、高校受験調査Ⅱ受験勉強、  <a href="http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kou_jyukuken/2011/hon_08.html">http://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kou_jyukuken/2011/hon_08.html</a>  2017/7/10。</li> </ul>					



氏 名	尾崎 愛莉	学籍番号	J014012	ゼミNo.	6
テーマ	障がい児に対する効果的アプローチについて				
<p>私が以前実習させて頂いた児童養護施設には、障がいをもった子どもが予想に反して多く入所していた。その子どもたちは支援員の方々による適切な配慮により健常児とのコミュニケーションがスムーズに行われていた。次に、児童発達支援センターで実習させて頂いた時に、個々の子どもたちに対し、確実に伝わるコミュニケーションの方法とは何なのかを考えるようになった。そこで、本研究では実際に保育者と障がい児の園内での具体的な関わり方をインリアル・アプローチに基づいて記録し、子ども達からの自発的なアプローチやコミュニケーションを語用論的背景からその欲求を理解していくことを目的とする。</p> <p>インリアル・アプローチとは、子どもとのより良きコミュニケーションを目指すためのアプローチ方法である。ことばあるいは他の様々な手段をすべてコミュニケーション行動として捉えることとなっており、コミュニケーション成立には、子どもだけでなくもう一方のおとなの要因も評価していく。現代では、言語訓練においてはカードを用いてことばを教えたり、聞いてわかる日本語を話させたりする訓練はしない。インリアル・アプローチでの主流はまず、どんな手段でもよいので子どもと通じあえることを最重要視し、この点からコミュニケーションをとらえた指導を行うことが常識となっている。</p> <p>研究方法は、児童発達支援センターA園で、一卵性双生児のT君とS君の在籍する4歳児(年中)クラスを対象とし、自由遊びの時間と主活動場面を通して観察を行った。T君とS君を調査対象とした理由は、一卵性双生児の障がいの遺伝率は90%と高いといわれていることから遺伝要因について興味をもち、よりよく観察していきたいと考えた為である。</p> <p>そして、数多く観察されたインリアル・アプローチから、言語心理学的技法として捉えられる特徴的な4つの事例を抽出した。T君、S君の要求の主たる伝達はクレーンであり、その際、視線や発声が伴わなかった。今度は、自身の欲求がどのようなサインであっても他者に発信できるようになることが課題であるといえる。保育士の方々の評価として、個々の子どもの発達や理解能力のレベルに応じた言葉かけを行うようにしていた。また、子どもの行動をよく観察し、子ども同士の関わりにも気付いていくことは、子どもたちが落ち着いて遊ぶことのできる環境構成や活動を計画していくことに繋がっていた。子どもの自発的な行動に応じ、共感して、コミュニケーションが通じ合った経験を増やすことで子どもの成長、発達が促されていく。</p> <p>実際にインリアル・アプローチを行ってみて分かったことは、「大人側にかなりの力量が要求される」ことであった。障がいの重い子どもと関わる時は、子どものことばを含めて表面化する行動そのものも少ない分、大人側の思い込みや理念、勝手な解釈が入る余地が大きいのも事実だ。基本的に定型発達している子どもに好まれている事項が、「この子にはどうだろうか」と関わりを通して問いかけることが必要である。そして、子どもの伝える力が弱いほど私たち大人が、今その子は何がしたいか、サインにどんな意味があるのかを敏感に感じ取り、感度よく応じられる力を身につけていく必要がある。子どもからのコミュニケーションが成立し、大人から認めてもらい、受け入れられる経験をすることは、子どもにとって大きな自信に繋がり、さらにコミュニケーションをする意欲へと繋がる。</p>					

氏 名	中西 千愛	学籍番号	J014027	ゼミ No.	6
テーマ	児童自立支援施設での職員の役割 ～求められる職員とは～				
<p>児童養護施設や児童自立支援施設に実習に行き、これらの施設で保育者に求められる生活支援の根底にあるサポートマインドについてさらに理解を深めたいと考えた。子どもに対する社会的認知の変化によって、不良行為をなした子どもたちへの対応の仕方は時代とともに変化していった。子どもと大人の境がない時代には、子どもも大人と同様に監獄に入れられていた。しかし、子どもは大人とは違った存在であると認知されるようになって、なぜ子どもがそのようなこと（不良行為）をなしたのかという背景に焦点を置くようになった。そして現代は児童自立支援施設で職員がシフト制により子どもたちとともに生活することで、社会適応できるように支援を行っていくようになった児童自立支援施設では、職員と子どもたちが一緒に生活や活動をする事で、子どもたちに寄り添い、気持ちを共有し信頼関係を築いている。人間が生まれ、成長をしていく中で養育者の体温を感じながら、欲求を満たしてもらう乳児期を経験し、自分の事を思っ怒って（道を示して）もらう経験、甘えること（安全の確信）のできる環境が必要になってくる。この養育者との信頼関係は、母親以外の者とも形成することが可能であり、母親を含む複数人であっても問題視するものではない。子どもにとって、愛着の対象となる保育者が継続的な相互作用を通して関係を築くことが必要である。このような経験が十分でない子どもたちは人と付き合うのが苦手であったり、大人に対して不信感をもっていたり、大人の様子を窺ったりする傾向にある。また、勉強が苦手で、集中力が続かず、考えを深めていくことが苦手である。ほかに、自己肯定感が低い、無気力になりやすい、他人の気持ちを理解することが難しいといったことがあげられる。これらは成育歴の中で堆積してきた歪んだ対人関係・社会性の問題から引き起っているともいえよう。このような子どもたちが社会に出ていく事の出来るように職員として求められている「専門性のある手厚い関わり」とはどのようなものであるか、愛着障害や児童自立支援施設の歴史、実際に実習に行った児童自立支援施設の理解を深めながら研究した。</p> <p>その結果、子どもたちとたくさんの活動を共にしていくことを通して信頼関係を築くことができる。施設内では子どもたちが安定した生活を安心の出来る環境を整え、日々の生活を一緒に送り、子どもたちと真摯に向かい合い、子どもたちを受け入れ認めることが求められる。そこでは言葉によるロジックな説明ではなく行動を通した職員の背中で示す受容力が奏功する。また、子どもと実際に活動を共にしている時だけではなく、子どもたちを支える職員間の連携というものが大きく影響していると考えられた。これらすべての総合した、手厚い関わりが必要であるという結果にたどりついた。</p>					

氏 名	濱本 茜	学籍番号	J014029	ゼミ No.	6
テーマ	発達障害				
<p>近年では、発達障害という言葉聞いた事があるという人が増えている。しかし、発達障害をもつ子どもの実態やどのような支援や対策が必要なのかなど発達障害を理解している人は少ない。そこで、発達障害の特徴や二次障害、対策方法をみていく。発達障害とは、脳機能の発達の偏りによって、生活上さまざまな困難をきたし、本人が生活上の困り感を抱えてしまう状態の総称のことである。発達障害は、ASD（Autism Spectrum Disorder：自閉症スペクトラム障害）、ADHD（Attention Deficit Hyperactivity Disorder：注意欠如多動性障害）、そしてLD（Learning Disorder：学習障害）の大きく3つに分けられる。まず、ASDには、コミュニケーションの質的な障害、反復的、情動的な行動が特徴である。次に、ADHDの特徴として、多動性、衝動性、不注意がある。そして、LDは、基本的に全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。これらの特性が周囲に正しく理解されず不適切な対応を受けることがある。否定的な評価や叱責を受けた場合、自尊心が低下し、否定的な自己イメージをもつようになり、その結果、二次障害と呼ばれる状態になる。そこから、虐待やいじめ、不登校に繋がることが考えられる。そして、乳幼児期、義務教育期、高校・大学期、青年・成人期の発達段階に合わせて、様々な支援や対策の方法がある。乳幼児期には、保護者や保育者の気づきや適切な配慮、保健医療や福祉等の関係機関との連携、家族のサポートが必要とされる。義務教育期には、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。活動しやすい環境を整備するなどして校内における支援体制も行い、学校全体として対応をすることが必要である。高校・大学期には社会的自立に向けた丁寧な支援や学生相談室、学習上必要な支援等を通して学生生活を支えていくことが必要だ。障害者職業センター、障害者就業・生活支援センターなどを活用し、障害の特性に応じた職場への定着支援が必要である。会社では、同僚や上司など周囲の理解を深め、本人の適性に合う部署への配慮を考えなくてはならない。地域生活支援センターや子ども家庭支援センターなどの活用も考えられる。これらのように、対策方法が見つかり、サービスが充実するということは、発達障害の人たちにとって生きやすい社会になるということである。発達障害に関わる問題をどのように考えて、どのような対応をしていくのか、これは私たちの時代に与えられた大きな課題であるように思う。</p>					

氏 名	藤井 莉子	学籍番号	J014033	ゼミ No	6
テーマ	愛着障害について 児童自立支援施設実習での事例研究をもとに対処方法を探る				
<p>児童自立支援施設(E 学園)での実習で子どもたちの心の中と、表面的に目にするのできる様子に差を感じ、感性や情緒の基盤となる愛情を十分に受けることができなかったさまざまな児童を見てきた。そこで本研究では、「愛着障害」の理解を深め、対応方法について実習をとおして私自身のアプローチや職員の支援方法から模索することを目的とし、研究を行った。</p> <p>愛着障害とは、小児期の不十分な養育体験が原因で起こる行動障害である。本研究で注目した児童は、中学 2 年生の女子児童 2 名で、そのうち入所歴の長い 1 名を対象とした。愛着障害は、基本的特性が発達障害と似ているため、事例内の、対象児童の行動が本当に愛着の問題が原因で表面化した行動なのか、様々な要因を想定した対応をすることが必要であると感じた。</p> <p>また、学校や社会で不適応を起こしている児童にとって、大人は信頼に値しない存在であることが多く、その二次障害として非行が見られることも多い。信頼できる存在が安定しないことで自分を守る方法として居場所を求める行動に出る。これは、マズローの欲求の階層説で言及されている。本研究の対象児童で見られた他人への物理的距離感の近さ・直接的な接触の多さや、強さへの憧れから自分の意見をすぐに言葉にせず相手に合わせるといった様子から、「社会的欲求(帰属欲求)」が満たされず、孤独感や社会的不安を感じていたと考えられる。そして、学園の掲げている WITH の精神により、児童と職員のみならず、学園・分校の職員全員で連携をとることで、個人の主観を含んだ支援の回避や一貫した支援を可能にすることができる。それにより、児童たちの混乱も防ぐことができ、職員との信頼関係の構築につながると考える。</p> <p>研究結果として、実習中での児童同士・児童と職員・児童と実習生の関わりから自分なりの対応方法を見出した。それは、本人が苦手としている、または課題である事柄について達成し、それに挑戦する姿に注目する、具体的に褒める（その時・その場で）、無理な、叶えれそうにない約束は絶対にしない、会話や関わりの中で否定しない、自分に誤りがあったときはすぐに、素直に謝る等、である。</p> <p>様々な家庭背景をもつ児童がいたが、どんな問題があっても子どもたちにとっては親や家族の存在は何にも代え難く、帰りたい・愛されたいと願う子どもがほとんどだと感じた。そんな子どもたちにこれから生きていく中で少しでも、他人から必要とされ、期待される喜びや居場所がある安心感をもてるような人生を送ってほしいと願う。</p>					

氏 名	山田菊花	学籍番号	J014045	ゼミNo.	6
テーマ	子どもと絵本の関係性				
<p>私が実習で経験した子どもたちの様子を見て、絵本は子どもの発達にどのように関係しているのか理解を深めたいと思った。</p> <p>表現方法や話の構成、絵の雰囲気など子どもの年齢に応じて様々な絵本がある。絵本は子どもの発達に影響を及ぼすだけでなくどのような役割があるのか知りたいと思った。そのため、現在ある絵本の歴史を知りどのような絵本の変遷があったのか、子どもにとって絵本に内在する利点や有効性とは何なのか、絵本に求めるものが子どもの発達にどう繋がり影響を与えるのか研究する。研究方法は参考文献や参考資料を収集し研究した。</p> <p>日本の児童文化で取り上げられる二大文化のひとつである紙芝居と絵本がある。そのうち絵本を選んだ理由は、私自身が小さいころ家族から絵本の読み聞かせをしてもらっていたり、家に絵本があり絵本と触れ合う機会がたくさんあったりしたからだ。</p> <p>子どもたちは日常生活の中で紙芝居より絵本と触れ合う時間が多いと考えられる。子どもには絵本の読み聞かせや絵本と触れ合う時間がとても重要と言える。絵本を通して身近な大人や保護者などとコミュニケーションをとることができる。さらに、絵本の世界観を楽しみ想像力を育むことができ、言葉の理解・獲得、物事の理解ができる。絵本をコミュニケーションのひとつとして使うことで子どもの情緒の安定や心の発達にも繋がる。また、絵本は子どもがさまざまなものに興味をもつことができ、色々な体験をすることができるため自己肯定感も高めることができると考える。絵本による影響は子どもの集中力、生活習慣の自律、周りの人間関係の円滑化をはかることができ、社会性を身につけ発達に良い影響を与えることができると考える。子どもが絵本と出合うには、保護者や保育者は子どもの興味があるものを常に知っておく必要がある。子どもの興味関心に沿った絵本を用意することで子どもの心が豊かに育つ。そのように子どもが楽しいと感じられる絵本選びは大切なのではないかと考えた。ただ絵本を与えるのではなくその周りの環境づくりが大切で、絵本の読み聞かせをすることで子どもたちがどう育ち、より良い発達を促すことができるのか配慮して子どもと絵本と触れ合っていく必要があると考える。身近な大人の膝の上で読み聞かせをすることによって読み聞かせる大人との愛着形成ができ、また、その後世に続く子どもたちにも同じような関わりをすることが期待でき、その時代の世代間で良好な関係を続いていけると考える。絵本は子どもから大人までさまざまな世代にとって必要な存在になっていると考えられ、絵本を通して子どもと大人、子どもと子どもなどさまざまな人たちにとってのコミュニケーションツールとして世代を越えた貴重な存在として絵本を媒介として触れ合いが大切である。この研究を通して学んだことを保育者として今後につなげていきたい。</p>					

氏 名	渡部佳那	学籍番号	J014049	ゼミ No.	6
テーマ	紙芝居の移り変わり子どもが紙芝居に求めているものについて				

書店に行くと、新しい絵本が並んでいる横に、何冊かの紙芝居が並んでいる。絵本に比べて冊数はかなり少ないが今でも新しい紙芝居が発行されているのには、何か理由があるのではないかと思った。そこで、子どもたちが紙芝居を選ぶ理由や紙芝居に求めているものについて研究することにした。また、現代はハイテク文化や現代日本の「豊かさ」の背景のなかで、感情の表現が乏しくなり他の人との信頼や連携の意味が見いだせなくなり、心のつながりを失いかけているといわれている。そのなかで、保育実践現場で紙芝居を通し子どもたちの心のつながりを広げ精神世界の高揚を目指せるようになりたいと思い今回のテーマで研究することにした。方法は主に紙芝居に関する文献・論文を収集し研究した。

紙芝居には演じ手と子どもたちが、時と場を共有することで生まれる人間同士のあたたかい交流がある。世の中がどのように高度な科学と機械化で進歩しようと、また、そうであればあるほど、人間の願望としてのアナログ的な親しいふれあいを求める心をかきたて、情緒の世界を育てていくものであると考える。

紙芝居の本質は五つで「芝居であるということ」「みんなで見る楽しさ」「演者との交流」「言葉を育てる」「心のテンポに合致する」というものである。「語り」と「せりふ」によるドラマとしての紙芝居は、作品の目的をはっきり打ち出すようにできている。紙芝居は園という子どもたちの生活の場で、日常生活のひとコマの体験として子どもたちに与えられる。児童文化財には指導性と生活性が必要であるとされている。つまり、子どもが興味をそそられ、とびついてくるような魅力をもったようなものでなければならないのだ。

また、スティーブ・ジョブスはパソコンなどを開発しておきながらも、自らの子どもには成人するまでアナログの世界で勉学を強いていた。子どもの電子機器使用についての悪影響を知ったうえでのことだろうか。紙芝居のような大人と子どもがしっかりと向き合い会話ができるアナログ的な状況で子どもの養育にかかわることが大切であると考え。

研究を行い、私たち保育者が子どもの発達の観点から何ができるか考えた時、ただ、台本に書かれている内容を読むのではなく、その時々子どもたちが自分の気持を表現し大切にしたい。また、他の子どもたちの話にも耳を傾け感情や情報を共有することができるような配慮が必要だと思った。また、子どもたちは紙芝居の演じ手によって紙芝居の世界に引き込まれていく。そこで、子どもたちは今までに体験したことのない新しい世界へと引き込まれていく。子どもたちが紙芝居によりひとつでも多くの世界に出会うことができるよう今回の研究で学んだことを活かして保育実践現場で活かすことができるようにしたい。

氏 名	東村 麗夢	学籍番号	J014502	ゼミNo.	6
テーマ	障害児対応についての考察 自閉症を対象にその歴史の変容から最善の対応方法を考察する				

発達障害（ADHD・自閉症・LD・アスペルガー）と診断される者が近年増加傾向にある。それには、発達障害の診断基準の幅が広がったことや、社会的にこの特異な障害が受容されてきたことなど様々な要因がある。今後これらの発達障害者に対する支援の重要性は今以上に高まってくると考えられる。障害に応じた対応、療育法とはどのようなものであるかと考えた際、関連する数多くの出版物が発行されている。施設やデイサービスなど、現場での支援に対する療育法に焦点を当てて考えてみると、経験年数の浅い俗にいう新人職員は、臨床経験に乏しく、学習した療育法を教わったまま実践しがちであると考えられる。しかし、個別支援計画を立てて対応するという意味では、具体的支援が子ども一人ひとりに対応していても、その本質的な対応は、支援者が学習した〈障害への一療育法を、その障害をもっている子どもに当てはめている〉だけの療育になる。目の前の子どもに適した療育を選択し、おこなうのではなく。つまり、子どもを中心とした療育ではなく、〇〇療法が中心となった支援となり子どもを支援方略に合わせる傾向がある。さまざまな関わりや支援方法として、一体何が正しいのか。今も昔も障害の中核症状や、彼らを取り巻く周囲の願い、彼ら自身の幸せなどは変わっていないはずである。本稿では発達障害の《療育》に焦点をあて個々を尊重した最善の支援法を調べ考察していく。

本研究は、主に自閉症に関する考え方、またその歴史の変遷について研究をおこなった。1943年に精神科医レオ・カナーにより「早期幼児自閉症」として「自閉症」が報告され、翌年には小児科医ハンス・アスペルガーによって「自閉症精神病質」が報告される。アスペルガーが言う教育的治療は、精神医学、小児科学、心理学、社会科学、教育学で構成されている。その中でも、アスペルガーは、教育学的な支援のみが、より良い状態することができ、子どもの中の様々な発達の可能性の中から、よく考えた指導によって最も良い可能性を選ぶことができるとしている。子どもを正しく知る事が、治療教育において最重要であり、そしてそれは治療にも通じているとしている。

結果、療育の方法に《これを行えばよい》などの統一したものではなく、個々の特性に合った方法を子どもと共に模索しなくてはいけないことが分かった。最善の療育法の手掛かりは、アスペルガーが唱えているように、日常生活、仕事、勉強、遊び、要求、自発性、自由にくつろいだ状況の中で生じている無数の反応を観察し、観察者の力量を考慮した上で、個々と根気よく関わり、個々に合った療育を支援者が行うことである。



氏 名	塩崎 真世	学籍番号	J014022	ゼミ No.	7
テーマ	子どもの身の回りにある「歌」について考える				

保育において、子どもたちに「歌う」ということは日常的に取り入れられているが、ただ歌ったり、ピアノをならして機械的に歌わせたりする現場を見たことがあった。そうではなく、筆者はもっと子どもの興味や発達を理解し、子どもにあった歌いかけが出来るようになりたいと考えている。筆者が幼稚園実習で行ったS幼稚園では「わらべうた」は子どもに良い影響を与えると考え、毎日のお集りや、遊びの中に取り入れていた。また、多くの先行研究においても「わらべうた」が良いとされていた。子どもの歌には、わらべうたの他に、童謡、唱歌、手遊びうたなどがあるが、どれも良い影響を与えるのではないだろうか。本研究では、わらべうたに限ることなく、子どもの身の回りにある全ての歌が子どもたちに良い影響を与えられるのではないだろうかということを明らかにする。

第1章では子どもの生活の中にある音と表現の果たしている役割についてまとめ、第2章では保育現場で取り扱っている歌について分析し、第3章ではわらべうたの特徴と良さについてまとめた。

終章では、わらべうたに限ることなく、子どもの身の回りにある全ての歌が子どもに良い影響を与えると考え、その理由を述べた。わらべうたは子どもによって歌い継がれてきたため、子どもの言葉に即した音楽であり子どもが楽しめる歌である。しかしながら、今の時代と共に、様々な音楽が作り出され、多様化もしている。情報が多い社会の中で、子どもたちに良い音楽を提供するには、子どもたちの感性を高め、保育者が子どもたちにとって良い音楽を提供することが必要なであろう。音楽の好みは人それぞれあるが、保育者として子どもに必要な音楽（もちろん静寂も含めて）は選択しなければならない。子どもの感性を育てるためには、保育者の感性も育つ必要があると考える。また、子どもが自然と表現したくなるようにするためにはそのための環境を構成しなければならない。子どもたちの周りに美しいとされるものや、本物を置いたり見せたりすることによって、子どもたちは自然と良さを理解し、その良さを共有しようとする。子ども自身が表現することを楽しむようになるためには、子どもにとって良い環境を整えることが保育者の役割である。

子どもたちにより良い音楽を伝え、子どもと一緒に音楽を楽しむようになるためには、保育者としての聴く力を育て、感性を高めた上で、良い音楽の選択ができるようになることが必要である。そのうえで、子どもに強制するのではなく、子どもが自らやりたいと思えるような環境を構成することが求められると考える。

氏 名	近藤 礼奈	学籍番号	J014019	ゼミNo.	8
テーマ	女子大学生の恋愛観・結婚観 ～松山東雲女子大学・子ども専攻の学生を対象として～				
<p>一、はじめに 近年日本では最重要課題のひとつとして少子化の問題があげられている。なぜ少子化が進んでいるのか。原因としてあげられるのは、結婚出産に対する意識の変化、不景気による経済状況の悪化、長時間労働。そのなかでも最も大きな原因として、女性も大学への進学や、社会進出による晩婚化、未婚化である。</p> <p>二、研究の目的と方法 現在松山東雲女子大学に通っている、子ども専攻の学生を対象に、恋愛と結婚は別という前提で意識調査を行い、恋愛観、結婚観についてどのように考えているのかを明らかにする。</p> <p>三、研究結果 I 女子大生の恋愛観について P&amp;G の全国一斉調査によれば、愛媛県は「彼氏のいない独身女性が多い都道府県ランキング」では 73.3%で 1 位である。松山東雲女子大学子ども専攻の学生も 70.0%の人が恋人がいないと回答している。そこで恋人がいる人にはどこで出会ったか、恋人がいない人にはなぜいないのかを聞いた。また、恋愛対象、結婚対象となる人に求める条件について、19 項目から最も当てはまるものを 3 つ選択してもらい、回答人数が最も多かったものから順にグラフで示した。上位 10 項目の共通点として、共に「優しい」という回答が上位に上がった。相違点は「経済力がある」という回答が結婚対象では、「優しい」を上回り、一方、恋愛対象では 14 位の「家庭的である」という回答が結婚対象となると 6 位である。これらのことから、現代における女性の独立志向とは異なり、男性への依存的傾向が残っていると考えられる。また、結婚に対して現実的な生活を見ていると考えられる。</p> <p>II 恋人の有無による考え方の違いについて 8 項目について恋人の有無による考え方の違いを見た。結果は、結婚への意識にはっきりと差が現れた。恋人がいる人は結婚願望がある人 100%や、恋愛の延長線上に結婚があると考ええる人は 82%であった。一方、恋人のいない人は、いる人に比べ「結婚すると仕事がしにくいと思う」と答える人が 24%上回っており、結婚への意識にはっきりと差が出ていることが分かった。</p> <p>III 現代的な恋愛についての意識 現代によく見られる恋愛について 9 項目で質問をし、賛成か反対で回答してもらった。賛成が多いのは「年齢差のある人との交際」「同性同士の交際」「芸能人との交際」であり、反対が多いのは「既婚者との交際」「一度あるいは一時的な付き合い」「複数の人との付き合い」などすべて複数の人との付き合いを表していることがわかった。</p> <p>IV 現代的な結婚についての意識 現代によく見られる結婚について 11 項目で質問をし、賛成か反対で回答してもらった。賛成を多く得たものとして「共働き」「家事分担」から女性の社会進出が増えていることがわかった。また、反対が多いのは、「浮気や不倫」と複数の人との付き合いを表しているものであった。これは、恋愛も結婚も共通の意識であるということが分かった。</p> <p>P&amp;G 全国一斉調査 <a href="https://nosh.media/archives/616">https://nosh.media/archives/616</a></p>					

氏 名	坂本 結奈	学籍番号	J014020	ゼミ No.	8
テーマ	なぜ赤ちゃんは可愛いのか				

はじめに

近年、虐待を受ける子どもが増加している。その中でまだ生まれたばかりの乳児虐待も例外ではない。虐待をしてしまう理由の一つとして「子どもを可愛いと思えないから」という事が挙げられる。では何故、可愛いと思うことができないのだろうか。もし可愛いと思うことができれば、乳児虐待が減ることに繋がるかもしれない。その糸口を見つけるために本研究では、可愛いと思わせる乳児の力や、乳児と関わることで本当に大人の気持ちに変化しているのかを調べることにした。

第一章 なぜ赤ちゃんを可愛いと思うのか

① 視覚の点から

② 嗅覚の点から

③ 触覚の点から

第二章 乳児虐待の現状について

① 乳児虐待数の推移

② 虐待の理由

第三章 まとめ～乳児虐待を招かないために～

赤ちゃんを可愛いと思うのにはたくさんの理由があった。生まれたばかりの赤ちゃんには自分ひとりだけで育っていく力が備わっていない。その代わりにベビースキーマという容姿、ミルクなどを連想させる甘い匂い、思わず触りたくなるような柔らかくぷにぷにとした身体で、大人に「可愛い・守りたい」と思わせる力を持って生まれてくるのだ。

しかし一方で、そんな赤ちゃんを可愛いと思うことが出来ず虐待をしてしまう親がいるということも事実である。乳児に対する虐待は年々増加傾向にあり、平成 15 年から平成 25 年の 10 年間で虐待数は約 2 倍になっている。

可愛いと思えない理由の一つとして、赤ちゃんの生態や関わり方が分からないという事が挙げられる。生後間もない赤ちゃんを泣き止まないからとバスタオルでくるんだり、あやすつもりが揺さぶり死を招いてしまったという事件がその例である。特に父親は、出産を経験した母親より母性が出にくい上、接し方も良く分からない人が多いだろう。

そこで、赤ちゃんの可愛いと思わせる力を生かした、ベビーマッサージなどのスキンシップをとる方法があることを発信したい。それにより親が赤ちゃんの可愛さに気づきやすくなり、虐待防止に繋がるのではないかと考えるからである。

これ以上虐待によって傷つく親子を増やさない為に、赤ちゃんとの触れ合い方や子育てについて悩む保護者を、保育士という職業を通して支えたい。

氏 名	富谷 香那	学籍番号	J013030	ゼミNo.	8
テーマ	「ミニマリスト」から探る現代社会の特徴 ～なぜ「ミニマリスト」という生き方が流行っているのか～				

1. 研究の動機

現代は大量消費社会と言われているのにも関わらず「ミニマリスト」という「必要最低限の持ちモノで暮らす人」が増えてきている。なぜそのような人が増えているのか、その流行の背景とそこから見える現代社会の特徴の一端を明らかにしたい。

2,. 先行研究と本研究の意義

「ミニマリスト」に関する文献は単行本を含め、18 件見つかった。これらの結果から、未だ本格的な研究対象となっていないことがわわかり、「ミニマリスト」と「幸せ」が関連していることが分かった。この関連性についての研究は現代社会の特徴の一端を明らかにすることにつながる。

3. 研究の方法

「ミニマリスト」と名乗る人の「ミニマリスト」になったきっかけと、「幸せ」の考え方を調査し、現代社会の特徴に関する新聞や雑誌の記事、若者の消費動向についてのデータ等を参考資料として現代社会の特徴を考察する。

4.研究結果の考察

「ミニマリスト」になったきっかけとして、すっきりとした環境の中で生活することで、しがらみやストレスから解放される暮らしを手に入れるために「ミニマリスト」になった人が多いことが分かった。

「ミニマリスト」という言葉は、アメリカから世界に広まったと言われており、発信した人物、世界への拡散の一役をかったと言われる人物の存在が明らかになった。また、「ミニマリスト」が広まる以前に起きた世界金融危機「リーマンショック」も影響していると言われている。これらのことから考えられる現代社会の特徴として、インターネットが普及した、若者が「モノ」消費をしない、伝統回帰社会、ストレスを感じやすい、ということが分かった。

また、「ミニマリスト」が考える「幸せ」とは、「モノ」より「コト」に時間やお金を費やすことで、自分を高める。自分を変えるならば、まず、自分の一番身近にある「モノ」との付き合い方を考えることである。新しい物が生み出される大量生産社会の現代、ストレスをためず心穏やかにゆとりをもって生活していくためには「モノ」について考え、本当に必要な「モノ」を選択していく力が必要だと感じた。

〈参考文献〉

『ミニマリストという生き方』 辰巳渚 宝島社 (2016)

『ぼくたちに、もうモノは必要ない。』 佐々木典士 ワニブックス (2015)

『消費者庁 平成 29 年版消費白書 第 1 部 第 3 章 第 1 節「若者の消費行動」』

[http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_research/white\\_paper/2017/index.html](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/2017/index.html)

氏 名	小笠原 由莉	学籍番号	J014010	ゼミ No.	9
テーマ	記憶を呼び起こす「想起手がかり」 写真立ての制作を通して				
<p>一般に記憶とは、時間が経つに連れ忘れられていく傾向がある。記憶は、嗅覚、聴覚、視覚などに支えられ貯えられている。それらは一度経験した記憶を呼び起こすための「手がかり」となるものとも言える。今回は、視覚に関する「想起手がかり」に注目した。筆者の学生生活を振り返ると、沢山の思い出(記憶)がある。筆者同様に思い出(記憶)を大切にしようとする人たちにとっても記憶を繋ぎ止める手がかりになるものを意味のある提案をできないかと考えたのが本研究の出発点である。</p> <p>ドイツの心理学者であるエビングハウス(1850～1909)は「人間の脳は忘れるようになっている」と唱えている。実際に、人間は記憶したことを一日後には七割以上忘れてしまうと実験で証明されている。ではなぜ思い出すことができるのだろうか。それは、人間の記憶は大きく二つに分類することが出来るからだ。短期記憶と長期記憶という二つの貯蔵庫がある。言葉の通り十秒くらいの短い記憶と年単位に渡る長い記憶のことである。長期記憶にはエピソード記憶、意味記憶、手続き記憶というものにも分けられる。今回はその中でもエピソード記憶、手続き記憶に関する写真立てを制作した。それは記憶を呼び覚ますための装置である。</p> <p>作品は、一般的に売られていない物、見て楽しめる物、インテリアにもなる作品を制作した。今回は全部で四つの写真立てが完成した。①一つのフレームで沢山の写真を入れることが出来るアルバム式の写真立てや、②光を使って見え方を工夫する写真立て、③普通では見たことがないであろう水を使った写真立て、④子どもでも簡単に作れる壁に掛けられる写真立てを制作した。使った材料は、どれも身近なもので制作できるものにこだわった。どの作品も使う材料の良い点、悪い点を考慮した作品となった。</p> <p>記憶は消えゆくものだが、「手がかり」さえあれば思い出すことは可能だということを写真立ての制作を通して検証してきた。これは想起手がかりによる記憶の回復と同じものだと考える。しかし、記憶を思い出すことが必ずしも正しいということではない。人間には思い出したくない事を忘れるという機能に助けられることも多々あるからだ。その機能に身を委ねることで一歩先に進むための心の糧になるだろう。そして、記憶は時間が経つにつれ美化されるものでもある。このような記憶の塗り替えも自身を守り、自分が前に進むためには時に必要なものになる。しかし、本当に大切なことは失敗した経験に向き合うための思い出をあえて残し、行き詰った時にそれらを思い出すことで自らを戒め、自身の成長の手助けとなるきっかけにすることだと考える。</p>					

氏 名	高谷 桐子	学籍番号	J014024	ゼミ No.	9
テーマ	思い込みと想像力				
<p>「想像力」とは、絵を描くときの自由な発想のもとになるものである。本稿ではこの想像力と錯覚・遠近法に着目した。これらについて深く知り、また実践したいと考えた。筆者が描画の方法に工夫を施し、想像力を身に付ける事で、子ども達がひと味違う楽しさや興味・関心を味わう事を可能にするのではないか。そうすることで、保育の環境構成、又は遊びの展開に繋げていくことを目的とした。</p> <p>制作に用いる描画材料にはスケッチブック・ペン・ポスターカラー・水彩絵の具・色鉛筆・コンパス・定規がある。これらの材料は仕上がり等に影響を与える可能性があり、使用する上で道具の性質・特徴や使い方を把握する事が重要である。これらを使い、実際に制作をすすめる中で描画方法について調べ、検証をおこなった。</p> <p>まず錯覚について考察した。錯覚とは「脳が騙されていること」・「幻を視ること」だと言えるだろう。大まかに7つに分類できる。「奥行き」・「階段」・「曖昧性」・「平面と立体」・「アンビグラム」・「写真」・「新しい工夫」がある。また、こうした錯覚を起こさせる作品には遠近法が多く使われている。これについても実制作を通じて確かめていった。錯覚と遠近法を踏まえた上でさらに「トリックアート」について述べた。これは、実際に目に見えている景色や様子が正しく見えていない状態を利用したアートである。こうした表現を理解するために多くの芸術家の作品を模写してその原理を確かめた。私たちは視覚的に簡単に騙され、思い込むことが多々ある。</p> <p>思い込みにより錯覚を起こさせられた私たちは「想像力」によって作品を発展させることができる。「想像力」は、自由な空間や世界を創る事にも繋がる大切な力となる。</p> <p>制作を進めていきながら、子どもたちと絵を描いていく場合にどのようなアプローチの方法があるかを考察した。家族の似顔絵を描く活動や、モダンテクニックなどの簡単な技法を用いて色彩の特性などを知り、楽しく取り組むことも考えられる。想像力を養うためには絵本等を読み、自由な発想で自分の世界を創り出すことや、キーワードを与えてそこから絵画制作に導くなどの方法があるだろう。子どもたちのイメージを引き出すことに努めながら、絵を描く楽しさや想像する事の面白さを伝えていきたい。色彩の良さや線と色が交わってできる表現のバリエーションを伝えていけるようになりたいと考えている。</p> <p>筆者は今後、現場に出てからも、今回学んだことを基に想像力を養うつもりである。自身の想像力を高めつつ描画活動についてさらに理解を深め、子どもたちと豊かな想像力あふれる製作の時間を実現していくことができる保育者を目指していきたい。</p>					

氏 名	原 真衣	学籍番号	J014030	ゼミ No.	9
テーマ	ジオラマで見る平安の暮らし				

昔に比べると現代の人々に暮らしは快適になってきた。しかし、この快適な生活のなか労働に時間を費やし、忙しく過ごしている人が多くいると思えた。そして、その快適な生活と忙しい時間の流れが反比例しているような現代に矛盾や息苦しさを感じた。

平安時代の人々の暮らしは、現代の人からすると快適とは言えないものであっただろう。しかし、平安時代の人々の暮らしは優雅なものだというイメージをもつ人は少なくないはずだ。筆者も平安時代はゆったりと時間が流れて優雅であるというイメージをもっていた。また、寝殿造という平安貴族の家屋に惹かれ、住んでみたいという思いや憧れがあった。その平安時代の暮らしを再現して当時の時間の流れを体験できないかと考えた結果、寝殿造のミニチュアのジオラマを制作することにした。

実際の平安時代とはどのような時代であったのか。ジオラマを制作するために平安時代について調べた。文献からは、貴族同士の権力争いや京内の臭いなど、考えていたよりも酷い面がある平安時代が見えてきた。また、文献だけでなく現地を見て感じたり、考えたりすることも重要だと考えた。そして、平安時代といえば京都だろうと考え、京都へ取材旅行に行くことにした。京都では、龍安寺をはじめ計 11 か所の寺院や博物館へ行った。その結果、昔の人の苦労や工夫、思いなどを見聞きして感じる事が出来た。また、平安時代は平安京が首都であったため、そこが 1 番栄えており、人や物が集まり、多くの情報が行き交ったからこそ、現在の京都に多くの資料や史料が残っていることを知った。

研究を進める中で、自分が思い描いていた平安と実際の平安の姿で異なる点や似ている点が少し見えてきた。平安時代について、現代社会のように忙しく時間が流れて息切れしてしまうことはなく、四季を感じながらゆったりと余裕のある生活をしている時代だと考えているところがあった。けれども、平安時代の暮らしにも現代とは違うけれど息苦しさがあった。それに比べて、時間の流れについての筆者の考えは最初のものから変わらなかった。京都散策や制作で体感したことから、生活の忙しさや慌たらしさが、感じる時間の流れを早め、逆に余裕のあるゆったりとした生活では感じる時間の流れも遅くなることが見えた。京都では、忙しく時間が流れる現代社会で、平安時代のゆったりとした時間の流れを体感できた。筆者が制作したジオラマは完璧ではないが、平安時代の暮らしや時間の流れを感じ取ってもらえればと考える。



氏 名	升田 彩花	学籍番号	J014034	ゼミNo.	9
テーマ	幼児教育における文字への興味関心を育む試み				

筆者は、小学生のころから書道を習っており現在は書道教室で書道を教えている。習い事として幼児に文字を教え込むのではなく、親しみを持って身に付けてもらう方法はないだろうかと思えながら模索を続けてきた。そのことから幼児にとって文字への興味や関心はどこにあるのかと考え、書道を環境設定と表現活動の面から研究することにした。

主な書道用具として「筆」「硯」「文鎮」「半紙」を制作して1つ1つの仕組みについて理解していく。「硯」は菊間瓦粘土を使用し丸型、魚型の硯を制作した。「筆」は身近にある素材であるスポンジや毛糸、刺繍糸を使用し制作した。「半紙」は手漉き和紙の作り方に倣い、牛乳パックで制作した。その書道用具を実際に筆者の通う書道教室にて幼稚園児と小学生に使用してもらい感想を聞く。書く時の子ども達の気持ちの変化を聞き取りの形で調査した。そこから子どもに受け入れられるような書道の道具のありかたについて模索し、今後筆者が使うことが出来るような書道用具を制作した。

実際に筆者の通う書道教室で使用したところ、絵を描くことが好きな子どもは、書道用具を画材として使用する様子を見られた。高学年の子どもの中には、硯の素材やどのように制作を行ったのかを聞く子もいた。普段は使ったことがない手作りの書道用具を見た子どもの姿は普段毛筆が好きではない子どもも楽しんで使っている様子があった。

松山市のS幼稚園年長クラスで書道による表現活動の指導案を制作し、保育を実施した。同様に東温市のH子ども園年長児クラス、四国中央市で子どもとその保護者に書道のワークショップを開き活動を行う。幼児にとって文字を書くという事はどのような気持ちであるか、一般的な書道用具を使用すると、普段とは違う活動にどのような意欲を持てるのかどうかということについて輪の中に入って観察した。

参加した子どもに感想を聞いたところ、自分の名前だけではなく家族の名前を筆者に教えてくれる幼児もいた。この活動をきっかけとして、身近な取りかかりから、文字に興味を持つことが出来れば、進んで文字を知りたいと思えるようになるのではないかと推測した。

文字の基礎を学びながら字を書くことは書写の狙いである。しかしその中に興味を持って楽しむ気持ちが含まれていなければ、書道の本質的なところには到底近づくことが出来ないだろう。ただ字をきれいに書くことだけではなく、楽しむ気持ちや慈しむ気持ちを持って臨むことで、より味わい深い文字を書くことに繋がり、芸術表現に近くなるのではないかと考える。

氏 名	森岡 朋音	学籍番号	J014040	ゼミ No.	9
テーマ	ごっこ遊びの魅力～幼少期の経験と人間形成～				
<p>子どもの遊びの中に「ごっこ遊び」と呼ばれるものがある。例えば、お店やさんごっこやままごとに代表されるものであり、それは子ども自身が役割を決め、そのものになりきる遊びである。筆者は、自身の経験から幼少期の製作体験やそこから生まれた作品を使った「あそび」は、人間形成に大きく関与していると考えた。</p> <p>本研究では、ごっこ遊びについての定義や年齢ごとの特徴について調べた。また、現場実習などで得た事例を改めて考察し、ごっこ遊びの魅力や子どもの育ちにどのような影響を与えているのか考えることとした。</p> <p>現在の子どもたちは、普段の生活で様々なことを経験し、その経験を遊びの中に取り入れている。しかし、ごっこ遊びに対する捉え方は、1人ひとり違っており、同じ遊びをしていたとしても、演じ方やイメージが違ってくる。それは、子どもたち1人ひとりの感じ方や経験の影響が大きいと考えられる。つまり「ごっこ遊び」とは、単に周囲の様子や動きを理解しまねるだけの遊びではなく、他の子どもや大人との関わりや自らの興味関心を通して成立する遊びであるといえる。「ごっこ遊び」と言っても、ままごとや劇あそびなどに代表されるように様々なものに分類されている。それは、子どもたちが日々の生活の中で感じることや、大人のすることや職業の模倣の形をとり、種類が多岐にわたっているということのあらわれである。</p> <p>年齢によって子どもの遊び方や子ども同士の関わり方にも違いがある。遊び方に関しては、年齢が進んでいくにつれて、道具に対する本物志向が高くなり、それに加えて、「自分で物を作る」器用さも育ってくる。そして、友達同士の関わりに関しては、年齢が上がってくるにつれて、友達という概念が育ち、他者を認識し、興味を持ち始める。そのため、「個人」から「集団」になり、遊びにも幅がでてくる。</p> <p>子どもたちは、日々様々なことを経験・体験し、自分自身の目で見て少しずつ成長している。そのことから、ごっこ遊びが幼少期に自分自身で考え、行動する力を身につけることに有効で、子ども時代に必要不可欠なものであるという見方を確かなものにしている。また、ごっこ遊びには幼少期の経験が大きく影響しており、それは子どもの育ちにも影響を与えている。子どもの興味・関心を理解した上で、考えたり協力したりするための仕掛けを準備してあげつつ、1人遊びだけでなく、友達同士のコミュニケーションを含めた保育が子どもの育ちには必要だといえる。</p>					

氏 名	山下 風姫	学籍番号	J014044	ゼミ No.	9
テーマ	漫画で伝える私の世界				
<p>筆者は小さい頃から多くの漫画を見て育ち、今も漫画が大好きで趣味で絵を描いたりもしているサブカルチャー世代である。漫画を描くことで筆者の思い描く世界観を分かりやすく表現することができると考えた。</p> <p>小学生の頃に読んだ漫画で座敷童子の存在を知った。座敷童子はそこにいるだけで人を幸せにするという妖怪でそのコンセプトが筆者の人生に影響を与えたと考えられる。これを切り口にして筆者の作品の題材とした。</p> <p>友人たちに座敷童子について聞いても詳しく知らなかった。筆者は多くの人に座敷童子の存在や、どのような幸運をもたらすか伝えようと考えた。本研究では座敷童子という民間伝承にある妖怪を、現在の社会に知らしめるための一つの手段として漫画というサブカルチャーの方法を利用し、『もう一人ぐらし』という作品を制作した。</p> <p>キャラクター設定のラフスケッチを行ない、筆者がイメージしている座敷童子をどのように描きたいかイメージしながらコマごとにネームを描いていった。原稿用紙にブルーのシャープペンシルで下描きをし、マルチライナーでペン入れをする。ペン入れをしたら画面にメリハリをつけるためトーンを貼る。最後にキャラクターのセリフをふきだしに貼る写植を行なって完成である。</p> <p>昨今では SNS 等を使ってインターネットで気軽に作品を発表することができる。インターネット上では筆者の顔も名前も性格も知らない人たちに対しての発表となる。筆者自身がどんな人間か知っている人たちに対して発表することで筆者のイメージにある座敷童子とともに「私の世界」が伝わりやすくなるのではないだろうか。</p> <p>『もう一人ぐらし』を読んだ人たちには、話や絵の良し悪しより先に「目には見えないものを信じている日本人の感性」を感じてもらいたい。一般に多く人は「神頼み」をする。座敷童子も幸せを与える妖怪であるため、こうした観点では人間の行動規範を左右する存在だといえる。そんな座敷童子を身近に感じることができるこの作品は「筆者らしさ」が出た作品ではないだろうか。</p> <p>今後日本のサブカルチャーを広めていくには、日本の漫画が好きな外国人には親しみやすさ、若年層には手に取りやすさが重要となるだろう。漫画には世の中を変える力があると考え。昨今で問題となっている海外との言葉の壁ももしかしたら今後、漫画（絵）が変えていくかもしれない。漫画はサブカルチャーの中で最も入りやすい切り口である。海外の人たちに日本の文化の核心に触れるところを分かりやすく伝えつつ幅広い世代に受け入れられるメディアとしてのサブカルチャーを今後も次の世代へと繋いでいってほしい。</p>					

氏 名	山本 未来	学籍番号	J014047	ゼミ No.	9
テーマ	絵本の在り方ー文字なし絵本についてー				

文字なし絵本というものがある。通常なら絵本には絵と文字があるが、絵のみで構成された絵本がこれである。本研究では、その有用性や可能性について調べた。そこで、筆者は絵を中心とした、対象年齢関係なく楽しめる絵本はないかと考えた。また、文字なし絵本は発達にどのような影響を与えるのであろうか。

本研究では、各年齢の特徴や発達段階における絵本の役割を調べ、文字なし絵本の長所や短所を明らかにしたうえで、対象年齢を選ばないような作品を模索することを目的とした。

各年齢の絵本の特徴は、未満児の場合は単色が多く、あまり細かく描かれていないことがわかった。以上児になれば、絵は細かく描かれており、複数の色が使われていることがわかった。発達段階に合わせてカタログ的な絵本からストーリー性のある絵本になってくる。絵本が幼児の発達に与える影響としては、イメージを膨らませる想像力が身につく、感情を豊かにさせることである。さらに、ストーリーの理解をすることで絵本の登場人物や内容と自分とのストーリーと結びつけていくような発達に影響すると考えられる。

文字なし絵本の有用性や可能性は、絵を隅々まで見ることができる観察力や自分で自由にストーリーを創り出し、新たな絵本の世界を楽しむことができる。そして、大人が子どもに文字なし絵本を読み聞かせするときに、あまり細かいことにとらわれずに、いろいろな読み方をすると、子ども自身が想像することの面白さを知ることにもなる。

筆者は、幼稚園教諭と保育学生4年生を対象にどのような絵本を好んで使うか、また、使いづらいと感じているかというアンケート調査を行った。結果としては、双方ともに大きな違いは見られなかったが、内容と絵が大切であるという認識が双方に共通していた。

作品としての「文字なし絵本」を制作する際に、子どもや大人にとって四季は馴染み深いものであると考え、情報を処理するのに難しさを感じさせない四季をテーマとした。そして、使用する子どもたちや他者に興味・関心を持ってもらえるように色彩や作風、一つひとつの物に対して工夫をすることができた。

文字あり絵本、文字なし絵本それぞれに良し悪しがあることを確認できたので、子どもたちに読み聞かせをするときには交互に使用したい。そして、対象年齢にとらわれることなく作品として素晴らしいものは読み聞かせをする機会を増やし、子どもたちと楽しい時間を作ることを何よりも大切にしていきたい。読み聞かせをして終わりではなく、きちんと余韻を楽しめる空間や時間を作り、子どもにとって“この絵本好き”と思ってもらいたいということが筆者の願いである。

氏 名	渡部 なるみ	学籍番号	J014051	ゼミ No.	9
テーマ	背景が育む創造性				
<p>★はじめに</p> <p>筆者がドラえもんワクワクスカイパーク（札幌）に行った時、アニメや漫画では感じられない世界観がそこにあり、登場人物になったかのような感覚を味わうことができた。それは壁一面に描かれた背景が感覚的に錯覚を起こさせ、世界観を感じさせるという【背景の効果】だと考えた。背景はただの絵で、存在感が無いようにも受け取られがちだが、登場人物を引き立てる重要な存在でもある。観る側に【状況が「見える化」する】ように描かれているのではないかと考え、実際に大きな絵を描き、背景について様々な角度から考えてみた。</p>					
<p>★研究方法</p> <p>文献による調査をおこない、実物から体験したことをまとめた。自身でも大きな作品を制作し、その効果を検証した。</p>					
<p>★制作について</p> <p>違うテーマで段ボールとベニヤ板を使い2作品描いた。</p> <p>自分よりも大きい画面に描くことは大変であるし、また背景だけで作品として見せることも難しい。作品としての背景は「視界いっぱいに見えるような大きな画面」に描くことでその絵の世界観を味わうことができるようになる。それには、季節や周囲の物との調和が大切な条件になることがわかった。条件が調和できてこそ「活きた背景」になる。</p>					
<p>★まとめ</p> <p>実際に大きい絵を描いたことで、背景の重要性や効果について確かめることができた。描く上でのさまざまな工夫を試す機会にもなった。まだ、筆者の表したいことに届いているわけではないが、得るものが大きい制作となった。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針の【表現することのねらい】にもあるように、感じたことや考えたことを自分なりに表現したことで創造性が豊かになりつつあると感じた。今後保育の現場でも壁面装飾など様々な【状況が「見える化」する】試みを行うことで、子どもたちの創造性が五感を通じてよりよく育まれていくのではないだろうか。</p>					

氏 名	野口 結女	学籍番号	J012043	ゼミ No.	1 0
テーマ	気になる子・障がい児が「生きやすくなる」保育の考察				

**1.背景** 障がい児の線引きは年々難しくなり、国の制度や指針も次々に変化が見られる中、保育園や幼稚園ではその変化についていけない園と従来通りでなかなか変化しきれない園に分かれてきている。気になる子、障がい児を理解し、彼らが「生きやすい」環境を作るために自分になにができるか、どのような保育を自分が目指すべきなのかに興味を持ち、この研究テーマを選択した。

**2. 歴史的変遷** 1950 年代から障がい児のみを対象とした分離保育から始まり、1970 年代には障がい児と健常児を共に保育する統合保育の必要性が叫ばれ始めた。統合保育が浸透してくるにつれて、ノーマライゼーションやインクルージョンの理念が確立してきた。この理念が確立されたことによって障がい児に対する偏見がよくないということが浮き彫りとなった。

**【内容と考察】**

**1. 障がい児の分類と特徴** ①自閉スペクトラム症（広汎性発達障がい）②注意欠如・多動症（ADHD）③限局性学習症（SLD）④知的能力障がい群⑤肢体不自由⑥重症心身障がい⑦気になる子ども⑧問題行動である。これらの障がいを含めた子どものバックグラウンドを理解し、早期に最善の対応によって支援することで、その子どもなりの成長・発達を見ることができる。

**2.子どもたちへの理解** 一人ひとりが尊重され、違っていいということ。みんな大切なかけがえのない存在として生きているということ。根本にこの考えを持って声かけの方法を決めるべきだと考える。

**3. 保護者への理解** 同じように障害を抱えている子どもの保護者との交流の場を作ることには大きな助けになることがあると考える。そのような親の会では、クラスの保護者には言えない悩みなどを話し、共感しあえることで気持ちが楽になる可能性がある。

**4. 園全体での取り組み** 障がい児に対応する方法の検討会を開くことで今後の見通しが立てやすくなる。また、担任や全職員に報告することで情報の共有をすることで連携がとりやすくなると考える。

**【結論】** 障がい児の問題行動をその子どもの個性として受け止め、偏見なく助け合う環境を作ことは、歴史的な背景から考えてもまだまだ始まったばかりであるし、理解を広めるにはさまざまな壁がある。その壁を乗り越えるためには、園全体での取り組みが必要であるし、職員も共通認識として知識を深め、かかわっていくことに逃げないことが必要である。子どもたちの保護者に障がいを理解してもらい、障がいに対する差別的な偏見を持たれないようにする努力も必要である。障がいとその子どもの個性ととらえ、差別することなく子どもたちが助け合い、障がいの有無にかかわらず共に生きていくための社会づくりに寄与していける保育環境の整備が、今望まれている。

氏 名	伊賀上 真有	学籍番号	P014001	ゼミNo.	10
テーマ	メイクアップが与える心理の変化				

【はじめに】本学内でメイクセラピー検定のポスターを見る機会があり、大変興味を持った。そこから、資生堂が震災の時に「ビューティ支援活動」というものを行っていたという記事にたどりついた。心身共に疲れている時に外見を気遣う意味はあるのか、メイクセラピーとは何なのか、メイクが人の心理にどのような影響を与えるのかについて分析していく。

【第1章】 メイクセラピーの歴史

現代のメイクはおしゃれの為や、社会的マナーの為にされていることがほとんどだが、そのようなメイクの目的はいつから根付いているのかを明らかにしていく。結果、流行りの傾向から飛鳥奈良時代、戦国時代から始まったと分析した。また、メイクと心理の関係性の研究が始まったのは最近のことであるが、その研究に切っ掛けにならないのが資生堂の存在であることが判明した。

【第2章】 メイクセラピーの概要

メイクセラピーという名前では不確かなように聞こえるが、科学的根拠がある。心が前向きになる、脳でドーパミンが分泌されストレスホルモンが減る握力の衰えが少なくなる、発語機能への変化が見られるなどの効果が実証されている。また、メイクセラピーは薬を使用しない為、誰でも取り入れることが出来る。

【第3章】 メイクセラピーにおけるカウンセリング

メイクセラピーとはメイクとカウンセリングとで成り立っており、その内のカウンセリングについて説明する。その結果、オーダーカウンセリングというメイクセラピーの導入部であるもの、メインカウンセリングというクライアントの否定的な思い込みを解消し、肯定的にしていくもの、フォローカウンセリングという外見だけでなく内面も理想の姿に近づけるのが目的のものがあることが判明した。このことから、カウンセリングはメイクアップの後押しをする存在であると分析した。

【第4章】 メイクアップ

メイクセラピーのメインは名前通りメイクである。メスを用いない施術なのでどのように変化をもたらすかを調べた結果、スキンケアを始め、顔のパーツバランス別に錯視効果を取り入れる事、色の持つイメージを利用した色を選ぶ事、クライアントにあったパーソナルカラーを取り入れる事、コスメティックの持つ質感がもたらすイメージを利用するなどの技術があることが判明した。

【まとめ】 メイクアップと心理の関係性は科学的に実証されていることが分かった。また、メイクセラピーとは何なのかについての当初の疑問には、カウンセリングとメイクアップから成る心理療法であるということが分かった。結果、今後はメイクのメリットを押し出し、メイクを取り入れやすくするのが課題だと分析した。

氏 名	上森愛香	学籍番号	P014010	ゼミNo.	10
テーマ	日本庭園の歴史と夢の住宅庭園図				

はじめに 私は農業高校の出身で在学時には造園を専攻していた。この経験により、もともと好きだった庭園がさらに好きになり、自分の家に「こんな庭があったらいいな」という想像をすることが多くなった。そこで、本研究では、この夢の住宅庭園を実際に図面に描くことを目標に、日本庭園の歴史や様式、樹木などを調べることにした。そして、現在持っている知識や技術をより深く探求するとともに、新しい知識や感性を身に付け、より素敵な住宅庭園図を描きたいと思う。

第1章 造園の目的と領域 造園の目的は人に心地よい緑地環境の創造や保全を図ることである。また、現在の造園が対象とする領域は、庭園や公園の創造だけでなく、都市と自然風景地の計画や歴史的風土の保全に至る極めて広い範囲になっている。

第2章 日本庭園の歴史と様式 飛鳥・奈良時代に中国や韓国の造園様式の影響を受けた庭がつけられた。この様式は、海洋風景を縮小して池や島で表現することを特徴としており、その後、平安時代の寝殿造り庭園に受け継がれた。室町時代になると水を用いなくて海や山河を象徴的表現する枯山水式庭園が生まれ、安土桃山時代には茶席に至るまでの実用庭である茶庭が加わり、江戸時代には池を中心にした広い敷地に展開される回遊式庭園が発展した。

第3章 庭園における水景施設 日本庭園における水景施設には池や滝、流れ、蹲踞などがある。滝は流れの中で最も視線を集めやすい景観である。そのため、滝の意匠は、作る側の造園に対する姿勢がはっきりと表れる重要な部分となる。

第4章 庭園施設 石組み、飛石、石灯籠についてまとめた。石組みとは、組み石に適する数個の石を使つての組み方をいうが、慣習情、1個の石を使う景石の場合であっても石組みと呼ぶ。飛石は、庭を歩くために配置された石のことであり、日本庭園独特の敷石の一種で、雨後のぬかるみを避けるために茶庭に作られたものが起源とされている。石灯籠は最初神仏の献灯として用いられ、やがて茶庭などの照明の役目を経て庭園の装飾的な添景物として用いられるようになった。

第5章 造園緑化材料 第5章では、一般的な造園樹木を樹高や葉の形状、着生状態、鑑賞部位などの特徴ごとに分類をし、まとめた。

第6章 まとめ 第6章では、これまでに調べたことを参考に私の理想とする住宅庭園の図面を平面図と透視図で描いた。枯山水式庭園と回遊式庭園の特徴を強く取り入れた夢の住宅庭園は、広い窓ガラスのあるリビングから一望することができ、また、飛石を配石してあるため歩いて楽しむこともできる。そして、季節を感じさせる樹木の区域や寒水石を用いて禅の世界を表現した区域、広い芝生が植栽された区域、滝石組みと樹木で深山をイメージした区域と、様々な雰囲気を楽しむことができる。また、私の一押しポイントは7・5・3で植栽したドウダンツツジである。



氏 名	佐藤 麻衣子	学籍番号	P014014	ゼミNo.	10
テーマ	仮想経験ノスタルジア ～近代から現代にかけて残る日本の生活と文化～				

【はじめに】昨今「フォトジェニック」「SNS 映え」という言葉が流行している。SNS に投稿する写真がより映える場所、人、物のことを指す言葉である。その舞台として現在「レトロ」が注目を浴びている。昔懐かしい場所や物を写真に収め SNS に投稿する人が増えているのである。また、昭和 30 年前後の時代背景をモチーフとした商業施設や商品、映画やドラマが増えている。なぜ現代になって昭和を感じさせる商品が注目を集め、流行しているのか。また、なぜ昭和を知らない現代の若者が昭和モチーフの商品を見て「懐かしい」という感情を抱くのか。本研究では、この二つの疑問を課題として研究を進めていく。なお、2000 年代から人気となっている 1950 年(昭和 25 年)以降をレトロの定義とする。

【第一章】 懐かしさとノスタルジア

本章では、懐かしさとノスタルジアの違いについて説明する。まず懐かしさとは慣れ親しんだものや人に対する感情を意味するポジティブな言葉である。次にノスタルジアとは故郷を遠く離れた所に居て、さびしさに苦しみ、故郷を恋しがることを意味する言葉である。しかし、昨今ノスタルジアの意味はあたたかさ・古風・子ども時代・切望といったポジティブな感情へと変化している。これを踏まえて、課題とした二つの疑問を明らかにしていく。

【第二章】 なぜ「懐かしい」ものが流行するのか

消費者行動研究の観点から懐かしいものが流行する理由を解明していく。ノスタルジアの商品に触れることによって、歴史の延長線上に自分を位置付けて、アイデンティティを確認することができるのである。また流行する理由として考えられるのは、単純接触効果による好意的感情の向上と、懐かしさが持つ本来の機能である。

【第三章】 仮想経験ノスタルジア

仮想経験ノスタルジアとはレトロを売りにしている商品のことである。本章では仮想経験ノスタルジアが現代の若者に「懐かしいものである」と認知される原因について研究する。

【結論】懐かしいものが流行する原因が、「懐かしさ」が持つ本来の機能と、人間が好意的に思うメカニズムによるものであった。懐かしいものを一つの刺激として、その刺激を反復して受けることによって、人間は「懐かしさ」への好意的な感情を持つことができる。よって懐かしいものが流行することになったとされる。若者が昔懐かしいものを「懐かしい」と感じる原因は、社会的・文化的な記憶として過去の物が現代の人々の記憶に残り、懐かしいものであると認知されたまま文化的な記憶を共有しているからであった。それらは知識としてこれからも人々の記憶に存在し続けるのである。

氏 名	浜村 夕衣	学籍番号	P014020	ゼミ No.	10
テーマ	ソフトテニスにおける心理的競技能力				
<p>スポーツにおいて、「心・技・体」という 3 要素は、競技力向上のために重要なものである。そのためトレーニングを重ねるのだが、最高のパフォーマンス発揮には、心が一番重要だと考える。中でもソフトテニス競技は心理的影響が大きく、心理状況が勝敗を決めることもある。そこで心に注目し、ソフトテニスにおける心理的競技能力について研究することとした。</p> <p>本研究は、ソフトテニス競技者の心理的競技能力の特徴を明らかにすることにより、実力発揮に必要なトレーニングを明確にすることを目的とした。</p> <p>第 1 章では、ソフトテニスのパフォーマンス関連要因や心理的要素の重要性、現在の課題などについて述べている。</p> <p>第 2 章では研究方法について述べている。本研究では、ソフトテニス競技者にアンケート調査を行った。最終的な調査対象者は、2017 年現在、日本ソフトテニス連盟に所属し、定期的に練習及び競技会に参加している、中学生・高校生・大学生の男女ソフトテニス競技者とした。質問紙は、徳永(1996)の心理的競技能力診断検査 (Diagnostic Inventory of Psychological-Competitive Ability for Athletes.2) を参考に作成したものに加え、競技経験年数や技術等級、競技及びメンタルトレーニングの実施状況、メンタルトレーニングの理解について回答してもらう事とした。</p> <p>第 3 章では調査結果に基づき、対象者の特性を明らかにした。その結果、ソフトテニス競技者は自己コントロール力、リラックス能力が低い傾向がみられた。仕草や表情で相手に意図を読まれてしまうソフトテニス競技は、自己コントロール力やリラックス能力が必要であり、優先して向上させる必要があると考える。そのため、第 4 章ではトレーニング方法などを記している。</p> <p>本研究の結果から、心理的スキル強化に関しては、競技の特性を考慮しながら向上させるべきスキルがあり、男女及び競技年数や競技レベルによるそれぞれの特徴を把握したうえで行う必要があると分かった。ここで示した特徴が今後のトレーニングの方向性を定める資料として貢献できることを期待するが、選手の心理的スキルの特徴がパフォーマンスや競技成績に与える影響までは明らかにできていない。今後は対象者を広め、ソフトテニス競技者の一般的特徴、心理的スキルと競技パフォーマンスとの関係などを研究し、競技力向上に向けたトレーニング計画を提案することが求められる。</p>					

氏 名	田村 円夏	学籍番号	P014022	ゼミ No.	10
テーマ	妖怪になった女性たち				

私の卒業研究のテーマは「妖怪になった女性たち」である。本論では3人の女性の妖怪に焦点を当て、彼女たちの共通点・思想心理を怪談落語より読み取り、研究していく。女性の妖怪に焦点を当てた理由は2つある。1つ目は多くの人の妖怪・幽霊のイメージで女性が多いからだ。2つ目は、研究対象を絞ることで、より深い研究ができるからだ。

研究対象は、「飴買い幽霊」・「東海道四谷怪談」のお岩さん・「番町皿屋敷」のお菊さんを選んだ。彼女たちを選んだ理由は、知名度の高さと、彼女たちの怨念に注目したからである。彼女たちの研究材料は落語を通じて研究した。落語になぜ多くの怪談があるのか、それが我々に伝えていることは何かが鍵となる。

「飴買い幽霊」は、子供を思う母心、お岩さんは女性としての価値、お菊さんは侍女という低い身分がそれぞれの物語のポイントである。これが怪談とその時代背景とをリンクさせるのだ。

では、なぜ怪談落語というものができたのか。怪談は、江戸時代の悪行への対抗手段だったのだ。庶民たちは怪談で幽霊を作り出した。このことから、3人の妖怪たちがどのような救世主であるかを読み解いていきたい。

まず「飴買い幽霊」である。彼女は「子ども」の救世主であると言える。この話の設定の慶長では、人口爆発の制御として「間引き」をしていた。江戸時代中期以降、領主の禁令や教諭にもかかわらず、乳幼児の殺生が行われていたのだ。当時7歳以下の子供は神の子とされ、それまでならいつでも「神にお返しできる」とされていた。この人工調整の時代に「飴買い幽霊」という存在はまさに「間引き」に対する反感だったのだ。次に「東海道四谷怪談」のお岩さんである。彼女は女性、特に容姿に自信のない人たちのヒーローである。お岩は、あばた面で不器量と言われていた。この「あばた面」という表現は、江戸時代の感染症問題を物語っている。江戸時代には、感染症の麻疹以上の死亡率の高い病気が大流行していた。死亡リスクが高く、仮に生き残ったとしても、全身にひどい「あばた」のようなものができる。これのあるなしで美人か醜女かを見定められていたのだ。彼女の幽霊は、疫病で苦しみ虐げられた庶民たちの怒りの声だったのだ。最後に「番町皿屋敷」のお菊さんである。侍女であったお菊が、強い権力の下に命を失った。そんな彼女が幽霊となり権力者を震え上がらせたのは、彼らの拍手喝さいを得たことだろう。女中殺しが盛んに行われていた時代には、権力者に対抗する唯一の希望だったのである。

この3人の女性の妖怪を通し、この時代のメッセージを読み取ることができ、命の大切さ・差別・格差というその時代の社会問題が見えた。彼女たちの訴えは、現代にも関係のないものではない。怪談から今も続くこの問題を考えることができるのだ。

氏 名	田良島 清香	学籍番号	P014023	ゼミ No.	10
テーマ	進化を遂げるミュージカル				
<p>2014 年に公開した映画「アナと雪の女王」が主題歌の「Let it go」とともにヒットしたことにより、近年多くのミュージカル映画作品が公開されておりが流行しつつある。映画作品以外にもテレビ番組でミュージカル特集が組まれていたり、劇団に足を運ぶ人の数も年々上昇している。今後ミュージカルが今のようない人気を維持するためにどのようなことが大切になるのか考察している。</p> <p>第 1 章ではミュージカルの歴史からはミュージカルの発端から現代の作品の現状を欧米と日本で分けてまとめている。欧米編では、オペラからどのようにミュージカルという分野が確立されたのか。当時ブロードウェイで上演された作品と歴史的背景の関わりに視点を当てて調査している。日本編では、本場ブロードウェイからどのように同じ作品を日本に持ち込むのか、日本のミュージカルを牽引した東宝、劇団四季の歴史を調査している。</p> <p>第 2 章ではミュージカルのビジネス規模の大きさや、ニューヨークとロンドンのミュージカルの制作費の比較、ブロードウェイで作品を作るうえでかかるコストなどに着目をしている。ブロードウェイで長く上演することがいかに難しいか、一つの作品を作ることにリスクがあるということが理解できるだろう。</p> <p>日本は少しずつミュージカルの概念を変えてきている。第 3 章では今日本で実際に上演している形態の新しいミュージカルについて調査した。今までは日本人が海外でミュージカルを観劇することはあっても、その逆は少ないイメージであったが、日本のカルチャーや歴史にちなんだミュージカルを行うことで観光客が日本でミュージカルを観るという例も増えてきている。</p> <p>第 4 章では海外のミュージカル、の本のミュージカルの相違点を述べる。上演形式、雇われ方、キャスト事情などもともと欧米から伝わったミュージカルも日本流のルールができており、海外と日本のミュージカルの違いができています。</p> <p>これまでの章から日本ミュージカルが今後も伸びていき、海外でも影響を与えられる作品を作るにはオリジナル性、キャスト、プロモーションの 3 点をさらに強化していくことが必要であると感じられた。作品は停滞している時期であるが、新しい作品でミュージカルがさらに盛り上がることを期待したい。</p>					

氏 名	平野 瑞稀	学籍番号	P014030	ゼミ No.	10
テーマ	子ども療養支援士とチャイルド・ライフ・スペシャリストの比較 ～国家資格になるために～				

本研究では、日本よりも先んじて米国で活躍しているチャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）と、近年誕生した子ども療養支援士の比較を行い、国家資格であるCLSから学ぶものについてみていく。

まず、子ども療養支援士とは、子ども療養支援協会が創設したものである。病気のため入院している子どもと、その家族への支援を行う。子どもが治療から受けるストレスを緩和し子どもらしさを守ることという大きな役割を担っている。そして、病気の子どもの1番近い存在であることが「子ども療養支援士」に求められる。一方、CLSは、子ども療養支援士誕生のモデルとなったものである。日本の先に行く小児医療のモデルとして、「子ども・家族中心医療」を目指し支援を行っている。

第1章、第2章では、両方の成り立ち、役割、支援方法について述べている。これらをもとに、第3章は両方の比較を行い、子ども療養支援士がCLSから得られるものを探っていく。大きく3つのことが比較より分かった。

1つ目は、歴史の長さである。CLSの歴史の長さは70年以上あるが、子ども療養支援士はほんの6年ほどである。長い歴史から、CLSが積み上げてきたものは大きいと考える。2つ目は、両方の支援で目指すものが違うということである。CLSは「子ども・家族中心医療」を挙げているのに対し、子ども療養支援士は子どもの権利を守る医療にすることを挙げている。このことから、支援方法にも違いが出ていたことが分かった。さらに3つ目は、国家資格か否かである。欧米では国家資格として認められているが、日本ではほど遠い現状にあるといえる。しかし、CLSをモデルとしている子ども療養支援士も、国家資格となり得る可能性があると考ええる。

そこで、第4章では子ども療養支援士が日本で国家資格として認められるために必要なこと探り、述べた。第3章で述べた、3つの見解がその大きなヒントではないかと考えた。長い歴史で積み上げた土台や、情報量の豊富さ、また人材育成の制度がより整っていることから、CLSが国家資格として成り立つことができたと考える。日本では、それらが依然として大きく進まず難しい状態にあり、そこから変えていくことが必要である。

本研究を通して、小児医療の今後について考えた。病気と闘う子どもや家族のために、たくさんの情報を発信し支援する場を広げていくこと、医療を受ける子どもや、受けた子どもの笑顔を守る存在であること、国家資格として認められ、より多くの子どもと家族を救うことが今後の子ども療養支援士には必要だと考える。

そして、1人でも多くの子どもや家族の未来が明るくなる支援に発展していったほしいと願う。

氏 名	藤本絵里加	学籍番号	P014033	ゼミ No.	10
テーマ	現代日本における結婚について ～晩婚化と少子化問題～				
<p>第 1 章 研究理由、晩婚化・未婚化の現状 高齢化、少子化と同様、世間を騒がせているのが、現代日本における未婚・晩婚・非婚化問題である。生涯未婚率は、2035 年に男性 3 割、女性 2 割に達すると推計されている。そもそも、なぜ未婚化が進んだのか。また未婚・晩婚・非婚化問題は少子化と密接になってきていると思う。少子化問題との関係についても深く調べる。晩婚化が進み、特に 25 歳～34 歳までの結婚適齢期の女性の未婚率が大幅に高まり、ここ数年では高止まりしている傾向がみられる。2020 年には平均初婚年齢は男性が 31.6 歳、女性が 30.0 歳に達する見込みである。未婚化・晩婚化が進んでいる原因は、収入が不安定、女性の社会進出、進学率の増加などがある。これらの原因により、未婚化・晩婚化は進んできている。</p> <p>第 2 章 晩婚化がもたらす少子化問題 晩婚化は妊娠・出産に大きな影響を及ぼす。また現在、女性が社会進出しているため、キャリアを中断しないために働きながら子育てできる職場環境や、育児施設の充実を図らなければ、少子化問題は減っていかないだろう。少子化は経済にも大きな影響を与えていく。将来の労働人口の減少、可処分所得が減り質素な生活をしようとする、物が売れずメーカーや小売店の収益が減る、子供関連のビジネスも縮小、高齢者の年金問題、教育への財政支援の不足問題といった問題が起こる。</p> <p>第 3 章 アンケート調査及び結論 今は結婚したいと考えている人でも、社会に出て働き出すと考えが変化することが判明した。アンケート結果から男女とも結婚後夫婦共働きでのライフスタイルを望んでいる。そうになると働きながら子育てできる保育サービスの整備、雇用環境の整備等を見直さなければ若い世代の晩婚化は減少しないだろう。女性の社会進出が目立つ今、まず、仕事と家庭を両立できる社会を作り上げていくことが重要である。育児休暇などの制度だけではとても十分とはいえない。子どもを産み会社に復帰した女性が周りの支援なくしては、2 人目、3 人目も産みたいとはとても思えないだろう。これには、主に企業側の理解が必要となるが、子育てをしている側の立場に立った職場体制を整えていく必要がある。短時間労働、時差勤務や男性の子育て休暇取得などを整備し、地域による働く女性の子育て支援なども積極的に行うことも重要だろう。子育てしながら働く母親が集まる場所の提供をし、気軽に相談ができる機会を設けたらよいだろうと結論付けた。</p>					

氏 名	眞鍋美希	学籍番号	P014040	ゼミ No.	10
テーマ	マンガ『サザエさん』からみる昭和と平成の変遷				

**第 1 章：はじめに**

本研究の題材として『サザエさん』を選んだきっかけは、長く愛されている国民的アニメの原作に興味があったからである。原作の 4 コママンガは 1946 年から 28 年間にわたって新聞に掲載された。アニメは 1969 年から始まり、現在も放送中である。終戦後から描かれたマンガが現代も皆から愛される理由について探してみたい。

**1-1 長谷川町子～紹介～**

『サザエさん』の原作者である長谷川町子の紹介である。出身地や代表作、子供の頃のエピソード、受賞歴について述べている。

**1-2 マンガ『サザエさん』の生い立ち**

『サザエさん』一家の生まれたきっかけや、連載先について述べている。

**第 2 章：女性教育の始まり**

女子大学の始まりや男女の進学率についての変化について調べ、現在男女差がないことが分かった。

**第 3 章：女性の社会進出**

戦前の日本社会では、夫が外で働き、妻は家事や育児に従事する「専業主婦」が当たり前だったが、戦後、アメリカの文化が入ることにより、女性の社会進出が増えてきた。この中では、マンガによく出てくる「婦人週間」のことや、女性の就業率や管理職の割合について調べ、女性が社会進出することのメリットとデメリットを考えている。

**第 4 章：結婚と子育ての変遷**

厚生労働省の統計をもとに、婚姻率、出生率、平均初婚年齢の推移を調べてみた。婚姻率、出生率共に戦後が最も高く(第一次ベビーブーム)約 20 年後の第二次ベビーブームが終わると、下がり続けている。初婚年齢についても、1950 年には夫 25.9 歳妻 23.0 歳だったのが 2016 年には夫 31.3 歳妻 29.4 歳となっている。婚姻率の低下や晩婚化は、少子化の一因となり、社会構造全体の負荷の要因となっている。

**第 5 章：高齢者問題**

現在、高齢者問題は深刻である。マンガの中でも 1 人暮らしのお年寄りや物忘れがひどくなったお年寄りが度々登場してきている。

**第 6 章：まとめ**

『サザエさん』が現在でも愛される理由として、登場人物 1 人 1 人の個性や、「磯野家」という家族としての普遍性があげられると思う。

氏 名	山田 姫李亜	学籍番 号	P014044	ゼミ No.	10
テーマ	色が人に与える影響				
<p>本研究では、色が持つ不思議な力でどんなことが出来るのかを研究し、日常生活にどう役立つのかを考えた。対象にした色は、赤、青、黄、緑、紫、黒、白、茶、ピンク、オレンジ、グレーの 11 色。様々な状況の中で、どの色が一番適しているのかを導き出すための研究材料として、80 人にアンケートを実施し、色のイメージ調査を行った。このアンケート結果と次に述べる色が見える仕組みや、色にコントロールされるわけを明らかにし、色の効果的な使い方をまとめた。</p> <p>まず色を見るために必要なものがある。それは、光である。色をみるということは、光、または物体から反射された光をみるということ。物体にぶつかった光は、ある色は吸収され、ある色は反射される。物や色を見るために必要な光は、380～780nm という範囲の電磁波である。この光は、性質の違いによって、大まかに短波長、中波長、長波長の 3 つにわける事ができる。短波長が多い光を見た時に「青い」と感じ、中波長が多いと「緑」を、長波長が多いと「赤」を感じる。</p> <p>更に、この色によってコントロールされていると感じる理由には 2 つあり、1 つは、視覚からの情報である。アメリカの心理学者アルバート・メラビアンが、人の第一印象は、3～5 秒で決まり、その情報の大半は、視覚情報から得られると述べている。人は、視覚からの情報に最も影響を受けている。2 つめは、皮膚からの影響である。皮膚は第二の目、と角謙二（2014）が述べている。1910 年にシュタインという人が実証し、光線を当てた筋肉が緊張、弛緩と変化することを数値化した。視覚からの情報だけではなく、皮膚も色を感じ、人間の体や心に影響を与えていることが分かった。以上の 2 つの影響から、人は色にコントロールされていたのだ。この色の力を用いて各場面で活かしていけることを、「スポーツ編」、「仕事・勉強編」、「ファッション編」、「生活編」に分けて考えた。色を味方につけるためには、色の長所、短所を知ることが大事である。色の力をうまく使うことが出来たとき、100%ではないが、自分も人もコントロールすることが出来るのである。</p> <p>最後に、「学校」にもっと色を取り入れていくべきだ。学校が嫌いな人や不登校の人から見た学校は、どんよりしているのではないか。この色のプラスな力を利用し、少しでも明るいイメージを持たせ、ストレスを軽くしていくと良い。これから、行き詰った時や、何か変化をつけたいときには、日常生活に色を取り入れ、意識していくと良いのではないだろうか。</p>					



氏 名	渡邊 紗弓	学籍番号	P014702	ゼミNo.	10
テーマ	「収集癖」の心理学的分析と価値観				

様々な趣味や性格を持った人がいる中で、一部にはなかなか理解されない「収集癖」というものがある。そういう人たちの事を、一般には「収集家」や「コレクター」と総称されている。彼らが集めているものは、生活必需品とは異なる、生活するうえではあまり必要とされていない物の場合が多いと考えられる。私自身もコレクターだったのだが、集めたコレクションの中には「どうしてこんなものを買っていたのだろうか」と思ったものもあった。いくつかは自分の中で「欲しい」と思って手に入れたものも確かにある。それでも自分の手元にあることに疑問を持っているものがあるのには、何か原因があるのではないかと思い、研究を進めることにした。

コレクターが物を集め続けることについての心理学的分析と、そこから関連付け、医師の診断が予想される病気と障害を挙げた。本論では、気が付けば物を買うことだけが目的になってしまう買い物依存症と「買わなければいけない」「集めなければならない」等の強迫性格が特徴の強迫性障害を述べている。

次に、男性コレクターと女性コレクターの収集の仕方や保存の仕方の違いに気が付いた。主に鑑賞するために集めている男性コレクターと自分を飾るために集める女性コレクター。しかし、双方の収集方法はともに絶対そうであるとは言い切れないことが、私自身の経験と周囲の収集方法からわかった。

更に、コレクターの物に対する特別な価値観について考察した。コレクターは、物の豊かさのみを求めて収集をしているわけではない。物を手に入れることから得られる心の豊かさと物に対して芽生えた特別な価値観を求めていたのではないのかと分析した。

では、物を集める事で得られる価値観とは、一体何なのか。葛飾北斎の「北斎漫画」を収集している古美術商の浦上満氏は、趣味で集めた北斎漫画の冊子を、全国の美術館等に展示の為に提供している。全国民の目に触れることで、認知され、研究が進んでいく。一人の収集家によって、認知がプラスに変わることがある。では私たち一般のコレクターは集めることで何がプラスになるのか。実は私たちは浦上氏と同じ経験をしたことがあることに気が付いた。それは、「コレクターのコレクションの物の貸し借り」である。私もコレクションの一つである漫画や小説を、それを持っていない他人に貸したり、借りたりすることがしばしばある。このことから私は物を集めることは、同時に知識を蓄えることだと考えた。そして知識は教養となり、そこから得られる周りとの深い人間関係を築くことができる。コレクターは、その収集した「物」を通じて社会における様々な「知識」と「社会性」を身につけ、それを他人に与えることができるのだ。

氏 名	山下 理家子	学籍番号	P014043	ゼミNo.	11
テーマ	The Changing Role of Disney Princesses				
<p>Many girls and young women today love Disney Princesses because princesses are beautiful and brave. However, Disney Princesses have not always been brave. Past Princesses could not save themselves; they had to be saved by their prince. However, modern princesses fight for themselves. Disney Princesses can be divided into three groups: Classic, Renaissance, and Modern Era Princesses. This paper first examines the different princesses and their eras and then compares Aurora, and Moana, in order to better understand the changing roles of princesses. Finally, it investigates the effects that Disney princesses have had on girls and young women.</p> <p>There are twelve official Disney Princesses. In January 2000, Disney created the “princess” brand, “the largest girls’ franchise on the planet” (Orenstein, 2006, December 24).</p> <p>Sleeping Beauty represents the classic princess. She is beautiful and has a beautiful singing voice. The only thing she does is wait for a prince who will choose her. The Prince is courageous, and he fights the witch who put the spell on Sleeping Beauty. She cannot do anything to save herself. The prince saves her. Moana, on the other hand, does not wait for a prince. Someone must go search for food, but only Moana is brave enough to go. She has courage, and she saves her island’s people.</p> <p>According to the results of a questionnaire, many girls and women like Disney princesses, but they do not want to become a princess. Adult women like the Classic Era princesses, but young women like Renaissance and Modern Era princesses better.</p> <p>In conclusion, Disney princesses have changed over time. The first princesses were incredibly limited. Girls learned from these princesses that they should be pretty and passive (Hains, 2014, p.2). Modern princesses have gained more power, and they give power to girls. However, according to Hains, “in the market place the princesses who are often pushed the most are still classic princesses, like Cinderella, and Sleeping Beauty, who were passive and valued for their appearances” (2014, p. 16). Hains goes on to say, “Little girls born in the 2010 decade are growing up immersed in decades-old stories with outdated messages about women’s roles in society and culture, about who can be a princess” (2014, pp. 16-17).</p> <p>It is important for children to learn how to view media critically, “so that their experiences are rich and engaging, rather than passive” (Hains, 2014, p. 21). As Orenstein says, “there is power—magic—in awareness” (2012, p. 192). With awareness, Modern Era princesses can affect women’s lives in positive ways.</p>					

氏 名	三好 凜	学籍番号	P014041	ゼミNo.	12
テーマ	「アサーション技法の身に着け方について」				
<p>私たちは、普段様々な人とコミュニケーションを取って生活をしている。だが、コミュニケーションが上手くいく時とそうでない時がある。そもそも人間は十人十色の生き物だ。言葉の受け取り方ひとつとっても人それぞれである。だから会話の中で、コミュニケーションが上手くいかない時があるのは当然のことだ。しかしだからこそ人間は、どんな人とも円滑なコミュニケーションを行いたいと思っている。本稿はそれを実現する一つの手立てとして、アサーションについて研究を進めた。</p> <p>第一章ではアサーションの意味について考えた。自他尊重表現の意味を持つアサーションはコミュニケーションを取るうえで、自分の事も相手の事も大切にしている。つまり、自分の意見を伝えながら相手の事にも配慮をしていくものだ。しかしこれは容易なことではない。私たちは他者と会話をする時、自分の意見が言えず我慢をしてしまう時や、反対に他者を怒鳴りつけ、攻撃的に接してしまう時がある。アサーションの用語では、前者をノン・アサーティブ・タイプと呼び、後者をアグレッシブ・タイプと呼ぶ。これらとは違う私たちが望む、最も理想的でコミュニケーションを円滑にしてくれる自己表現がアサーティブ・タイプである。実は全ての人は、この三つの自己表現を兼ね備えている。つまり、人によってその比率は違っても、誰しもが少しはアサーティブなコミュニケーションを行えているわけだ。だからアサーションを一端身に着ければ人はアサーティブな自己表現の比率を大きくする事が出来るはずだ。</p> <p>そこで第二章では、具体的なアサーションの身に着け方について述べた。そもそも自分の意見を伝えながら他者の事にも配慮することなど本当に出来るのだろうか。そのためには、具体的な提案と事実の共有が必要である。具体的な提案とは他者と意見が食い違った時に、歩み寄る形で、最も良い案を互いに決め合うという事だ。人は誰しもが、自分の事を受け止めて欲しいと思っている。だからこそそ一方が意見を押し付けるのではなく、双方にとってより良い解決策を互いに考えていくべきなのだ。それと共に必要なのが事実の共有である。感情に任せた会話をするのではなく、事実に基づき、話し合うべきなのだ。感情のままに会話をしてしまうと、他者に配慮することはとうてい難しい。つまり、より良いコミュニケーションを行うためには、決して自分の事も相手の事も犠牲にしてはならないのだ。</p>					

氏 名	市川真希	学籍番号	P014704	ゼミNo.	12
テーマ	『はてしない物語』は現実逃避の物語か				

1. 研究の目的

若年層を主な対象としたライトノベルについて言及されるとき、主人公が現実逃避をしているとして、M・エンデの『はてしない物語』がしばしば挙げられる。『はてしない物語』は本当にただの現実逃避の物語なのか、ストーリーを追いながら考察した。

2. 『はてしない物語』のあらすじ

読書好きの少年のバスチアンはある日、古本屋で「はてしない物語」という本と出合う。彼は店主の目を盗んで本を持ち出し、学校の物置に隠れて読み始める。本の舞台であるファンタージェンという世界で必要とされている救世主が自分であると知り、彼は本の中からの呼びかけに応じてファンタージェンを訪れ、その世界を救った。

バスチアンはファンタージェンの女王からなんでも望みを叶える力を授けられていた。便利なように思えたその能力は、実は彼の現実世界での記憶を代償としていた。願いを叶えるたびに元の世界の記憶を失い、それと共にバスチアンは次第に傲慢になっていく。彼は元の世界に戻るべきだという友人の忠告に耳を貸さずに暴走し、ついにはファンタージェンの支配者となる野望を抱く。しかし、その企みは失敗した。

失意の中訪れた街で、ファンタージェンに留まり続けて現実世界の記憶を全て失った救世主たちの悲惨な末路を目の当たりにし、バスチアンは現実世界へ帰ることを決意する。そのためには彼の真に欲すること、つまり真の望みが何なのか知り、それを叶える必要があった。彼は残り少ない記憶を慎重に消費しながら旅を続け、ついに「人を愛せるようになりたい」という真の望みを見出し、そうした人間となって元の世界に帰還した。

現実に戻ったバスチアンは真っ先に父親に会いに行く。母親が亡くなってから冷え切っていた親子関係は、バスチアンが人を愛せるようになったことにより、自然と改善した。

3. 考察

バスチアンはファンタージェンでの経験を通して精神的に大きく成長した。彼のファンタージェンでの冒険は、現実世界で彼を取り巻く理不尽な現状を変えようと一歩踏み込む勇気を得るために必要なことだった。

『はてしない物語』はたしかに現実逃避の物語であるが、同時に、現実逃避を介して現実と向き合う物語でもある。主人公が現実世界から別の世界へ逃れるという一側面だけを捉えて、現実逃避への批判材料にするのは、『はてしない物語』の真の意味を理解していないということになる。

氏 名	石崎 麻耶	学籍番号	P014002	ゼミNo.	13
テーマ	性格理解と場面による性格の適応性				

はじめに 私は幼い頃転勤族で、突然の環境の変化に適応することが難しかった。年齢とともに適応能力は向上したが、人間関係を築いていく中である疑問が生まれた。気の合う友達や苦手と感じる友達では、何が違うのか。何がそう感じさせるのか。これらの疑問を明らかにするため、このテーマを取り上げた。

第一章 誰もが知識への欲求を持っていて、自分や他人を知りたいと思うことは、無意識に自分の人生に役立てられると考えている。性格を知ることによって自分や他者を理解することには、行動の理由や原因を説明できるということと、行動を予測できるということの二つの側面があることがわかった。

第二章 性格について、定義、遺伝、変化という主に三つの観点から見解を述べた。20 世紀の心理学では遺伝論と環境論が対立していた。しかしその長い戦いは、20 世紀末に誕生した行動遺伝学という分野により打ち破られ、新たに生まれた様々な心理学の分野によって進化を遂げていった。性格に影響を与える要因として、遺伝と環境どちらかだけという結論に至ることはなく、性格形成においてはどちらも非常に重要な要素であることがわかった。

さらに、成人になってからでも性格は変わりうるということがわかり、その性格変化には「性格変容」と「多面性格」の二通りのパターンがある。性格変容とは、取り巻く環境の劇的かつ不可逆的な変化である「ライフイベント」によって、元には戻らない性格の変容を積み重ねていくことだ。一方、多面性格とは、日常生活での複数の違った環境に合わせて、それぞれの環境でうまく適応できるように、いくつかの性格パターンを使い分けることである。

第三章 誰でも周りにいる人々をイメージから勝手に「この人はこういった行動はしないだろう」と考えてしまいがちである。しかしその人がそのイメージ通りの行動をとるのは、その人の中に特定の行動傾向がすでに存在しているからだということがわかった。そこで面接場面での行動や性格の表出を例として取り上げると、面接者と被面接者の距離感、そして人の心や成り立ちそのものに関わる事柄を扱うため、大きな責任が課せられるものであることが結果としてわかった。

おわりに 全章を通し、性格とはどのようなものかというところからはじまり、他者との関わりの中で生まれる「相手を知りたい」という欲求は、知ることが自分の生活や他者との人間関係を築いていく上で何かしらの役に立つと考えられるからだということがわかった。遺伝や環境といった条件との関係性や、心理学などの専門的な角度から見た「性格」というものも考えてきた。その中で、人は場面によって性格を変化させていることや、相手や状況によって性格を適応させることで、場面ごとで相手に与える印象に差があるものであると結論付けた。

氏 名	稲垣 安佑	学籍番号	P014006	ゼミ No.	13
テーマ	就職活動における大学生の職業意識と企業が求める能力 —学生と企業のよりよいマッチングを目指して—				

【背景・目的】

筆者は愛媛県若年者就職支援センターという愛媛県が運営をする就職支援施設でアルバイトをしてきた。この施設は平成 18 年 7 月の機構設立以来、約 7 万人の相談者を迎え、相談を行ってきた。多くの若者が訪れる姿を見る中で、若者は納得のいく就職ができているのだろうか、納得のいく就職のためには何をすればいいのかという疑問を持った。また、早期離職者の増加が「社会人基礎力」と関係することが指摘されている。一体何が原因でそのような現象が起こるのか、また若者だけでなく、企業側は何をすべきなのかという疑問を持ち、研究することとなった。

【内容・方法】

現在の大学生の就職活動状況を把握し、就職活動をする学生側の問題と企業側の問題、また企業の若者に対しての声、定着のために行っている支援について、インターネット調査を含めた文献調査を行った。さらに、実際に就職支援を行う大学や専門機関が実施している事例をキャリアコンサルタントへのインタビューを行い、調査した。

【結果・考察】

改めて、多くの若者の「社会人基礎力」不足により、学生と企業の「不一致」が起こるという現状が見えた。また、双方が考える「社会人基礎力」の認識の違いがあるがために、実際に採用の際の気づかぬ間に「不一致」が起こることも分かった。

一方、そのような大学生の「社会人基礎力」不足を補うために、支援を行う機関は多い。大学では「学びの幅」を広げ、社会で役立つ力の育成に力を入れる大学が増えつつある。また、国や県が動き、専門の就職支援機関も学生、若者の育成を行っている。また企業側は、社員の育成、定着のために、労働環境の見直し、スキルアップのための支援など、実際に行動している企業も存在する。

さらに、これらの「社会人基礎力」の不足や企業が求める力の不足、また早期離職の理由には、「自信を持てない」若者が多いという社会的、個人的な背景の影響があることを、文献調査だけでなくインタビューから一層実感することができた。まずは「学生に自信」を持たせ、苦しくて大変な思いや経験をさせることが必要なのである。学生と企業のよりよいマッチングのためには、学生に自信を持たせ、社会人基礎力をつける。そして、その力を踏まえた学生の能力と意識を企業側はきちんと把握すべきであることが分かった。

しかし、入社後の社内での雇用条件や人間関係のトラブルなど、雇用側と労働者側の溝はまだ深い。実際に現場で「働く人と環境」が変わらなければ、日本の企業、日本経済は決してよくならない。「すべての人」が働きやすい・生きやすい」社会にするために、考え、行動に移す勇気が、今の日本には必要なのである。

氏 名	岩本 ひとみ	学籍番号	P014009	ゼミ No.	13
テーマ	「日本とヨーロッパの犬と人間の共生について」				
<p>【背景】 幼少期の頃から動物が好きで、懇願し続け五年前にやっと我が家に犬がやってきた。疲れて帰ったときや、嫌なことがあり落ち込んでいるときも関係なく駆け寄ってきてくれる愛犬に癒され、何度も助けられた。私たち家族にとってなくてはならない存在だ。毎日の餌やり、散歩、遊びなどを通して犬にも愛情が伝わり、関係が保たれている。可愛らしい動き、威嚇する顔、毎日一緒に居ても見たことのない表情を見せてくれ、笑顔にしてくれる。卒論は、「犬と人間の共生」というテーマに決定した。</p> <p>【目的】 今の自分を支えてくれた犬の人間との共生がどのように始まり、今があるのか。また、ペットブームの始まりと飼い主のペットに対する責務について見直してみると、犬と人間の関係は今後どうあるべきか。さらに、人間の都合で動物たちを苦しめないための解決策とは何か。これらを目的として、犬の人間の関わり方の歴史と法律、ペットブームを中心に、様々な文献を基に調べた。</p> <p>【考察・結果】 犬は、人類最古の家畜の一つとして他の動物とは違う家畜の役割を与えられていた。中石器時代は、番犬や愛玩動物としての役割が主だった。しかし、やがて優れた嗅覚や追跡能力が認められ、狩猟の助手として使われるようになった。</p> <p>次に、西欧と日本の動物法の違いについて比較すると、動物愛護の点で、2009 年の日本で議論が始まった「個体としての動物保護」に関する基本的なルールが、イギリスではすでに 19 世紀前半には一定の法律化として完成したという点で異なっていた。</p> <p>さらに、日本では 1970 年代後半からペットブームが始まった。ペットブームのはじまりと変化、飼い主にとってのメリット・デメリット、さらにペットと人間が気持ちよく共生するための飼い主の責務について改めて考え直すことができた。</p> <p>この論文を書き進める中で、飼い主のペットを飼うための心得がしっかりできていないことが分かった。例えば、都道府県別の犬の登録頭数と予防注射頭数等の表を見ると、飼い主に義務付けられている狂犬病予防注射の実施率に 92.3%～50.1%まで開きがあり、70%以上に達している県が 47 県中 27 県という状況だ。飼い主への予防注射の必要性についての浸透度が弱まっていることも考えられる。注射率がさらに低下すれば、ペットを飼う時の責任感が足りないことの一つの目安になる。このことから、自分自身にも言えることだが、全ての人にペットを飼う時の責任と覚悟が必要なことを十分に知ってもらうことが、動物と人間がより良い方向で共生していくために考え直さなければならないことだと感じた。</p> <p>最後に、法律の面では、ヨーロッパと日本で、動物の虐待の防止に関する法律の始まりの時期はあまり変わらないことが分かった。刑法数でいうと日本は少ないのかもしれないが、世界にも負けず、動物を守りたいという気持ちは、日本でもヨーロッパでも人々の気持ちに共通してあったのだろう。</p>					

氏 名	白石 瑛穂	学籍番号	P014016	ゼミ No.	13
テーマ	100年時代に私たちはどう生きるか				

少子高齢化が進み長寿化の進展で超高齢化社会になると考えられる今、人生 100 年時代に生きる私達はどのように立ち向かっていくか真剣に考えなくてはならない。この変化に対し、個人の人生モデルのあり方や社会・企業の対応力などが課題になる。

### 第一章 100年の人生

2050年までに、日本の100歳以上の人口は100万人を突破する見込みだ。2007年に生まれた子供の半分は107歳以上、50歳未満は100年以上生きる時代と予想されている。この間の社会変化、とくに情報化が進み変化する中で、組織的に発展し多様な人材を育成していくためには、従業員に幅広い知識や技術、高い専門性が求められるようになり、職場で連携、協力して行う仕事が多くなると見通す企業が増えている。企業規模別の特徴では、「従業員のより高い専門性」、「部門を超えた全社的なコミュニケーションの活発化」などコミュニケーションに対する期待が大きく、人工知能の発達でさらに職種や生活環境が変わっていくと考えられている。

### 第二章 多様な生き方とは？

では、私達は働き方や生き方の考え方をどう変えていくべきだろうか。退職が70歳に延び、長いライフスパンに向き合って有意義な生き方をするには、自らの人生設計が重要になる。ほとんどの女性が働いている今、女性は主婦に限らず様々な社会との関わり方や選択肢が存在する。これからは、自分にとって最適な選択肢を主体的に選び取れる時代であるといえる。また、自らの生活を豊かに循環させていくには、ライフスタイルへの希望と実際の行動の間にある「環境」を整えることが大切になる。人間は困難な状況でも、自力で乗り越えられる人がいれば、助けを必要とする人もいる。前者の人々を増やすための人材育成、後者の援助システムづくり、また困難な状況自体の解消など、この分野において政府や行政、地域の力が多いに期待される。

### 第三章 考え方で変わる

アドラーは、人生の問題のほとんどは自分と他人との関係性に起因し、その関係性は『自分という個人』と関係する『相手』（一人か複数人であるかを問わない）という存在であるとする。人間は対人関係によって目的や行動が変わり、それらを観察することで人間性を理解することができる。ライフスタイルは自己概念、世界観、自己理想で構成されており、ライフスパンを豊かにするための循環を生むには、自分自身の捉え方や周囲の人間と環境のあるべき姿をイメージし行動することが大切という。

### 第四章 考察

今後、様々なものが発展し私達の生活が大きく変化していくと予兆される中で、対人関係を軸に自他の人間性への理解を深め合い、自分に合うライフスタイルを探求しながら、自ら考え行動をして良く生きるための循環をつくっていかなければならない。



氏 名	竹内 遥歌	学籍番号	P014019	ゼミNo.	13
テーマ	ファストファッション～ファッションの現状と未来への展望～				

本研究では、近年ファストファッションが流行していることに着目し、ファストファッションとはなにか、ファストファッションがなぜ流行っているのかについて調べた。大枝・佐藤・高岡（2013）が、「若者のファストファッションに対する意識調査」について、大学生および大学院生 392 名に対して行ったアンケート調査では、若者はファストファッションに対して興味を持ち、購入経験者も多かった。また、対象者の中で女性を取り上げてみると親しみやすい・流行の・カジュアルな・若々しい・安価な・気軽なというイメージを強く抱いており、ファストファッションのコンセプトとマッチしていることが分かった。

そこで、ファストファッションを作る中でこれらのイメージを実現させている SPA（製造小売）について調べた。また、SPA を採用しているブランドの中でも代表的なユニクロ、ZARA、H&M の 3 社について取り上げ分析した。

以上より、ファストファッションのメリット・デメリットについて知ることができた。メリットとしては、先ほども挙げられた中から主に「速い・安い・流行」という点が挙げられる。デメリットには、大量生産・大量消費による資源問題や不当労働問題という点がある。そこで、メリットの裏に潜むデメリットに目を向け、解決策を考えた。

そこで、更にリサーチを進め「エシカル・ファッション」について知った。「エシカル・ファッション」とは、オーガニックコットンなど環境への負荷の低い素材を選んで使用し、フェアトレードなど児童労働の撤廃や人権に配慮した生産や流通過程を目指す取組みから始まった運動であり、長期的改善策とした最も注目されている。簡単に言うと、「人と地球に優しいファッション」ということだ。

筆者は、ファストファッションに潜む問題点を解決する鍵は「エシカル・ファッション」にあると考えた。ファッションは、私たちに個性を表現する楽しさや喜び、また、日々の生活を通して人々の「心の豊かさ」を表現できる世界を与えてくれる。流行や価格だけを重視して購入した商品は自分の個性を表現する楽しさや、喜びとはかけ離れてしまっている。では、エシカル・ファッションのみ購入すればが良かったらうか。それも違う。重要なのは、「流行」や「安さ」を服選びの判断基準にしないことではないだろうか。たとえ、ファストファッションで服を買ったとしても、自分がその服が好きで、来年も再来年もこの服が着たいと感じられれば、環境や服作りに携わる人のことも考えたエシカル（倫理的）なファッションだと言えるのではないだろうか。私たちは、自由にファッションを楽しめる時代であるからこそ、自分の個性を大切にし、限りある資源を大切にしながら、エシカルな消費を目指すべきである。

氏 名	中村 玲奈	学籍番号	P014024	ゼミ No.	13
テーマ	在宅介護者の負担軽減について －住宅環境の改善の現状と課題－				

序論

現在、高齢化が進んでいる日本で、介護と向き合っている人は少なくない。実際、筆者も小学生のころから、親が病気で倒れた祖母の介護をしている様子を目にしてきた。そのため「介護」や「高齢社会福祉」は小さいころからの身近な言葉の一つである。そのとき以来、自分が知識を持っていたら高齢者を少しでも助けることができ、効率的な老後を送る手助けができると考えていた。筆者が在宅介護を卒業研究で採り上げたいと思った理由の一つは、こうした経験からだ。

第 1 章 介護保険制度の現状

第 1 章では、介護保険制度の現状と問題を述べた。厚生労働省の資料から、要介護認定を受ける人の数が増える一方で、在宅サービスの支給額が少なすぎるのが現状であることが分かる。よりよくサービスを受けるためにも、納める年金保険料を上げることが解決への近道だろう。

第 2 章 高齢者の住宅環境

第 2 章では、高齢者の住宅環境について述べた。お年寄りが居宅で最も事故をしやすいう場所が居間だと分かった。居宅で最も生活しやすくする方法として、家をバリアフリーにする方法があるが、普及率は半数にも満たない。そのためにも、家の改修費の補助金制度を受けやすくすることが今後の課題であろう。

第 3 章 在宅介護の現状と問題

第 3 章では、在宅介護問題の現状について述べた。現状として、老老介護問題が発生している。家族が一丸となり介護ができることが一番望ましい状態だ。しかし、仕事をしたり、家庭を持ったりしながら介護をすることは、介護者の人材不足や、保育者の確保が難しいなど、今の段階では難しく、結果としても離職する人が多いということが分かった。

おわりに

筆者は、多くの資料を読み在宅で介護をする大変さへの理解を深めることができた。介護を受ける側は最期を自宅で迎えたいという者が大多数だった。その望みを叶えて多くの人に満足してもらうためにも、まず支える側の支援をしっかりとしていくことが大事だろう。筆者は、こうした家族や近親者が今より介護の負担軽減をするために、在宅介護をする人のためのマンションや団地を作るというのも一つの案と考える。そうすることにより、家族やお世話をしている人同士が悩みや問題を解決したいと思えば話し合ったりすることが出来、ストレスの軽減にもなり、介護の負担軽減につながると期待する。

氏 名	林 智実	学籍番号	P014028	ゼミ No.	13
テーマ	サーバント・リーダーシップの有効性について				

序章 はじめに

近年、企業をはじめとする組織を取り巻く社会が複雑化してきており、また、情報化やグローバル化という大きな社会変化の中で、この新しい時代に対応できるリーダーの在り方について問われることが多くなった。本稿では「サーバント・リーダーシップ」に着目し、論理的に調べていく。

第Ⅰ章では、リーダーシップの歴史や変遷について概観する。次に第Ⅱ章では、1970年に提唱されたサーバント・リーダーシップについて特性や従来のリーダーシップとの違い、サーバント・リーダーが大切にしていることなど調べた。その後第Ⅲ章では、サーバント・リーダーが企業を取り巻く問題に対して、どういった必要性があるのかについて調べた。

第Ⅰ章 リーダーシップ理論の変遷

1900年代初頭を創世する初期のリーダーシップ研究である特性理論、行動理論では、主にリーダーが有する資質、能力、行動に焦点があてられ、リーダー個人に着目した研究が進められていたことが分かった。

第Ⅱ章 サーバント・リーダーシップ理論

サーバント・リーダーシップとは、「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後相手を導くものである」というリーダーシップ哲学である。サーバント・リーダーの「目的」は自分が信じる大義のあるミッション・ビジョン・バリューを実現させることであり、奉仕や支援を通じて周囲から信頼を得て、主体的に協力してもらえ環境を作る。SLの根底には、利他的で個々を尊重していると考えられることが分かった。

第Ⅲ章 サーバント・リーダーシップの企業への必要性和課題

サーバント・リーダーの存在は今の時代の「現実」に対応できるものであり、企業や社会にとって、必要な存在であると言える。この複雑な時代に、従来のリーダーシップで対応するのは難しく、むしろコントロールをせず、メンバーを支え、力を引き出し、有機的な相乗効果を生むSLが最適であると考えられる。

終章 おわりに

本研究を通して、これから世界がますます複雑になる時代において、サーバント・リーダーの存在はとても重要だと感じた。サーバント・リーダーが成長することは歴史の必然であり、リーダーの在り方について今まさに発達段階にある。今日の研究を通して、SLに関するスキルを身につけ、人との対話を大切にする訓練や自分に自信をつけることなど、日常でできることを日々取り入れて、これからの生活に活かしていきたい。

氏 名	松本 麻佑	学籍番号	P014038	ゼミ No.	13
テーマ	動物愛護における日本と海外での取り組み —現状と今後の課題について—				

はじめに

ほとんどの動物は家族からの愛情を受け幸せに生きている。しかし、その裏側では目をつぶりたくなるようなことが起こっている。平成 28 年度の環境省の調べによると、殺処分される犬・猫の数は約 5 万 6000 頭もいることが分かった。なぜそのような動物がいまだなおいるのだろうか。何か解決策はないのか。本稿では、日本と海外の動物愛護の現状と課題について研究を行った。

第 1 章 動物愛護における法律（動物愛護管理法）

日本の動物愛護管理法について紹介した。この法律は、人と動物とが共生する社会の実現を目的としている。法律の内容としては、飼い主の責任や動物取扱業の規制、罰則など様々なことが定められている。

第 2 章 日本での動物愛護の取り組み

熊本市では、13 年間の間絶えず活動を行い、2014 年に殺処分 0 を実現した。取り組んだ内容として、保護動物の公示書の詳細化や動物を捨てようとしている飼い主に対しての対応、迷子札の運動など先駆的に取り組んでいることが沢山あった。この裏には、愛護センターの職員、地域の人々たちの動物に対する強い思い・信念があったからだと分かった。

第 3 章 海外での動物愛護の取り組み

ドイツの歴史は古く、ドイツ帝国（1871）の時代から法制度になるほど人々に動物愛護の精神が根付いている。そのため、動物（犬）が人々の生活の中に当たり前のよう溶け込んでいる。また日本にはない犬税やペットパスポートなど変わった取り決めもある。殺処分場が存在しないドイツには、保護施設が 500 以上ある。その中でヨーロッパ最大の動物保護施設ティアハイムは、ボランティアや募金などで支えられている。そこでは、譲渡を受ける際、飼育環境等の審査を設け、独自の譲渡方法により譲渡率 9 割を達成しさらに、病気等で譲渡できない動物の保護も手厚く行っている。

考察・おわりに

日本とドイツの最大の違いは、国民がどれだけ協力しているかだと分かる。このことから日本の今後の改善点としては、①ペットを買うのではなく、保護施設から譲り受けること、②動物愛護法をもっと厳しくすること、③動物愛護に対して積極的になること、以上の 3 つだと考える。

日本でも、もっと気軽に動物保護や愛護ということが語られ、進んで行動できるようになればと思う。また個人としては、小さなことからでも自分にできることをしたい。そして、人間と動物が幸せに生きていける世の中になってほしいと願っている。

氏 名	宇都宮 歩 芦刈 杏実	学籍番号	P014701 P014703	ゼミ No.	13
テーマ	化粧とファッションの魅力				
<p>序章 はじめに</p> <p>人はなぜ化粧をするのだろうか。なぜファッションにこだわるのだろうか。現代の女性たちにとって化粧やファッションはなくてはならない存在となっている。</p> <p>第Ⅰ章では、一番女性が気を遣うであろう化粧の文化史、その魅力や役割、化粧品の機能について調べた。次に第Ⅱ章では、ファッションと人との関わりについて移り変わりの背景や必要性、似合うもの似合わないもの、ファッションが社会に人々にどのような影響を与えているか調べた。その後、第Ⅲ章では、自己表現や他者との関わりの部分で化粧とファッションがコミュニケーションにどう結びつくのかを調べた。</p> <p>第Ⅰ章 化粧とは</p> <p>化粧とは、「ある美意識に基づいて顔やからだに意図的に手を加えて、外見的にさらには内面的にもそれまでの自分とは異なる自分になるための行為」という意味である。それは、服飾とも共通するものがある。自分らしさを他人に伝えたい、自信をもって日々の生活を過ごしたいという思いの表現と言えることがわかった。</p> <p>第Ⅱ章 ファッションが人に与える影響</p> <p>現代の女性にとってファッションは切っても切り離せないものになっている。ファッションはこれまでにさまざまな変化を遂げてきた。それは女性が生活を送る上で化粧や被服を含むファッションが必要不可欠であるからだと言える。その中で SNS や人とのコミュニケーションを通じて女性は日々自分に似合うものを探し求めている。</p> <p>第Ⅲ章 化粧やファッションにおけるコミュニケーション</p> <p>化粧を施した結果がその個人の心理面に与える効果として一貫して認められるのは「自信」や「満足感」の上昇である。「知己」ということばが親友を意味するように、自己を一番よく知っているのは一番近い他者であり、その他者から私たちは自分がどのような人間であるかを教えられている。自分のファッションや化粧に気を配ることによって自分もステキな人間へと成長でき、周囲との関わり方がうまくいくようになる。</p> <p>終章 おわりに</p> <p>本研究ではコミュニケーションと社会心理学の観点から化粧とファッションについて考察した。現代を生きる私たちの社会では、人とのコミュニケーションをとるために化粧やファッションは時代とともに変化していることが本研究を通してわかった。外見魅力が期待される職種では、仕事の能力の低さを外見魅力でカバーしようとする傾向があることも理解できた。最後に卒業研究を振り返り、日常生活を送る中で化粧やファッションが面倒なものではなく、多くの女性に楽しんでもらえるようになって欲しい。</p>					

氏 名	石丸信恵	学籍番号	P014501	ゼミ No.	14
テーマ	共生ケアの効果とプロセスについて				
<p>この卒業論文は、デイサービス池さん（以下、池さんとする）において、共生ケアにどのような効果があるのかについて明らかにすることを目的とする。</p> <p>第1章では、共生ケアの始まり、共生ケアの意義・定義などについて述べている。中でも共生ケアとは、小規模な居場所で、高齢者・障害者・子どもが障害の有無関係なく、その場で展開される多様な人間関係を共に生きるという営みである。</p> <p>第2章では、調査方法、調査結果である「池さん」の仕組み・共生ケアの効果などについて述べている。職員5名に対し聞き取りを行った結果、「池さん」の共生ケアのプロセスは、次の7つから成り立っていることが分かった。(1)ひとつの大きな社会と捉えた「池さん」という社会であること、そこは(2)スタッフを含め生き方について考える場所であり、(3)様々な人が一般社会と同じように普通の暮らしをして、(4)みんなが折り合いをつけるというルールを守りつつ生活している。そして援助者として、(5)ケアの柱となる一人の人として向き合うことやその生きてきた過程を大切にしながら利用者の生活を支えるという実践を行うこと、(6)スタッフの細かな気付きや配慮等の経営努力によって、(7)多様な効果が生まれるというプロセスであった。その効果は、種別問わず「役割が生まれる」、子どもは「子どもの教育・成長」となり、障害者は「社会を知る」「無理なくいられる」こと、高齢者は「能力を引き出す」「生きていくことをあきらめない」「生きていることを喜んでいる」こと、スタッフにとっては、「成長させてもらえる」「成長したくなる」などである。</p> <p>第3章では、考察を述べている。「池さん」での共生ケアは様々な要素が影響し合い、様々な種別に効果が生まれるプロセスであった。多様な効果を生むプロセスは、ソフト面を徹底して貫くことが重要だと考える。「池さん」においては、次の4つに見られ、(1)スタッフも含め「共に生きる」こと、(2)「社会」と捉えること、(3)「家に近い・家庭に近い」環境で、家族の代わりに一瞬一瞬を大切に最善の関わりをしていること、(4)スタッフのその場の利用者の空気を整える調整力が、ソフト面の重要なポイントであると考え。その中でも、池さんの共生ケアのプロセスにおいて、「家に近い・家庭に近い」環境が多様な効果を生む重要な概念であると考え。</p> <p>以上により、高齢者にとって「生きることをあきらめない」などの希望を生み出す効果や障害者には「無理なくいられる場」であったり、スタッフにとっては、「成長したくなる」要素となっているということが明らかとなった。</p>					

氏 名	長田幸子	学籍番号	P014011	ゼミ No.	15
テーマ	大学生の孤独感について				

我々の生活の中で、孤独感と関連した社会問題が近年増え続けている。例えば、孤独感から生まれる社会的問題として、工藤・西川(1983)では、アルコール依存症、自殺、青年の非行があげられている。本研究の目的は、青年期に焦点を当て、主に大学生の孤独感に関する先行研究を調べることにより、孤独感が引き起こされる内的要因と外的要因についてまとめ、孤独感への対処方法についてまとめることであった。

氏原・成田・東山・亀口・山中(2001)によれば、孤独感とは、他者との望ましい相互作用が欠如した状態で生じる不快であり、コミュニケーション行動への動機づけともなる一方で、持続すれば抑うつや無気力の状態にも陥るとされている。また、物理的な他者との隔絶状態において生じるだけでなく、自己の価値や存在意義が他者に認められない状態でも高まると述べている。

孤独感の要因として、内的要因と外的要因についてまとめた。内的要因とは、行為者の性格、能力、態度、意図といった行為者本人に関するもので行為者本人に原因があるという考え方である。外的要因では、行為者以外、例えば状況や環境に関するもので行為者以外に原因があるという考え方である。広沢(1985)、広沢(1986)、広沢(2001)は、孤独感を引き起こす内的要因は、対人関係に対して積極的に行っておらず、人に対してネガティブな思考や他者との考え方の相違・自分自身の性格に問題があると報告している。また、広沢(1985)、広沢(1986)、広沢(2001)は、孤独感を引き起こす外的要因は、他者に対する主観的な考え方を作りだしていたり慣れ住んだ場所を離れたりして、親しい人がいないといったことであるとしている。

広沢(2002)、針生・瀬戸(2011)によれば、孤独感の対処行動とは、娯楽や趣味、嗜好といったもので孤独感をまぎらわしたり、逃避したりすることであった。また、対人接触を行わずに独りでやり過ごす方法も報告されていた。広沢(2001)では、男子と女子の孤独感の対処方法について述べられていた。男子は、孤独を肯定的に受け入れ積極的に対処する方法が有効である。また、女子では、自己開示や対人コミュニケーションで対処する方法が有効であると報告されている。

近年、若者の孤独を背景として社会問題が増加している。青年のライフスタイルは時代と共に変化していると考えられる。そのため、青年の孤独感に関する変化を踏まえ、孤独感の原因や孤独感の対処方法を調べる必要があると考えられた。

氏 名	藤上友里	学籍番号	P014031	ゼミ No.	15
テーマ	抑うつが時間認知に与える影響について				
<p>1. 問題と目的</p> <p>「楽しい時間は早く過ぎる」、「退屈な時間は過ぎるのが遅い」というような気分や感情による時間の経過感覚の違いを感じたことはないだろうか。本研究では、先行研究を元に抑うつ気分や感情が時間認知にどのような影響を与えるのか、また実験の改善点についての検討を目的とする。</p> <p>2. 抑うつと時間評価について</p> <p>抑うつとは、その人にとって相当なストレスがかかっている状態である。また、抑うつ気分からうつ病まで程度は様々で、程度によっては生活に支障が出てしまうこともある。時間評価についてはこれまで様々分野で研究されてきている。森田（2011）の実験では、快・不快という感情価が時間評価に与える影響について検討した。結果、快条件と不快条件では、不快条件のほうが長く時間を評価した。しかし、不快条件の時間評価は実際の呈示時間に近かった。</p> <p>3. 抑うつ気分と時間認知の関わりについて検討された先行研究について</p> <p>森田（2012）は、実験参加者を2群に分け、快・中性・不快条件の画像を刺激とし、フィラー課題なども交えながら実験を行った。結果、抑うつ群と非抑うつ群の時間評価に差はあったが、非抑うつ群は感情価によって時間評価の有意な差異が見られなかった。板垣・武智（2012）は、抑うつ気分誘導を行う群と行わない群にわけて実験を行った。結果、抑うつ気分がうまく喚起されず、仮説は一部しか支持されなかった。2つの先行研究は共に抑うつ気分誘導や感情喚起が十分でなかった。</p> <p>4. 先行研究の実験方法と改善点について</p> <p>3つの先行研究を比較すると、次のような改善点が挙げられた。1つ目は実験参加者の気分や感情の状態を測る回数やタイミングである。また、一般感情尺度などの感情状態を測る質問紙や生理的な指標を用いて客観的に検討することが必要と指摘されている。2つ目は気分誘導や感情喚起の方法である。気分誘導を効果的に行うためには、イメージのしやすさが重要である。</p> <p>5. まとめ</p> <p>本研究では抑うつ気分や感情が時間認知にどのような影響を与えるのか、また、先行研究の改善点について検討することが目的であった。結果、3つの先行研究から抑うつ気分や感情が時間評価に影響を与えることが示された。しかし、実際の呈示時間より長く評価されたわけではなく、抑うつ気分誘導を行わなかった群に比べて長く評価するということがわかったのである。今後は実験の改善点も取り入れ実験する必要がある。</p>					



氏 名	石原 優美	学籍番号	P014003	ゼミNo.	16
テーマ	日本の公的年金を取り巻く現状と若者の意識 —若者の年金不安払拭への一試論—				

1、問題意識・背景

近年、日本の公的年金制度に対して、給付水準の妥当性や制度の持続可能性等の問題についての議論がなされている。特に後者の制度の持続可能性については公的年金制度自体のも危惧されている。厚生労働省が 2013 年に発表した「若者の意識に関する調査」においても、全体の 45.1%が「日本の未来について明るいとは考えていない」と回答しており、その回答理由として「医療や年金等給付の減額、税金や社会保険料等の負担額の増加」が最も多いことは注目すべき点である。このことから、年金に対して不安を抱えている若者は少なからず存在するということが分かる。また、内閣府の発表した『平成 28 年版高齢社会白書』では、2060 年には高齢化率は 39.9%に達し、現役世代 1.3 人で 1 人の高齢者を支える社会が到来する、と予想されている。以上のことから、少子高齢化が更に進むことにより、年金の財政の抛及及び、その確保が難しくなる可能性もある。

2、目的・研究方法

本研究の目的は収集した書籍・論文をもとに文献調査を行い、若者の年金不安の払拭という視点から、(1) 少子高齢化の現状や公的年金制度の抱える問題を明確にすること、及び(2) 最低生活保障といった場合の基準の程度の問題や、公的年金制度の財政健全化について検討することにある。

3、考察・結論

本論では日本の公的年金制度の成り立ちと制度の概要を整理した上で、保険料の負担および年金給付額に関する問題と、公的年金制度の財政健全化について、それぞれ取り上げた。現行制度の問題点としては、(1) 年金保険料の上限の妥当性と社会保障費全体の膨張傾向、(2) 低所得者に多く見られる保険料未納問題と、それによって生じる生活保障機能の低下等といった問題が明らかとなった。

そのための対策であるが、本研究ではスウェーデンの年金制度を参考にした公的年金制度の一元化と、そして財政に関する問題は所得税から財源を抛出することについてそれぞれ考察を行った。前者については払った保険料に見合う給付がなされ、かつ最低生活の保障がされるという点においてスウェーデンの制度は有効であるといえる。年金制度一元化を実現するためのハードルは高いが、上述した 2 つの問題への対策として今後さらなる検討を行う価値はあるだろう。後者は所得再配分という観点から、所得格差を埋める形での徴収の方が妥当であり、増税した所得税の社会保障目的税化の是非について考察を行った。国民全体の負担を公平的にし、消費税以外の財源を確保することで、公的年金制度の持続可能性を高めることができると思われる。

氏 名	河野 涼香	学籍番号	P014013	ゼミ No.	16
テーマ	ひとり親世帯の現状から見えてくる子育て支援事業の課題				

1 背景

厚生労働省が 2015 年に発表した「ひとり親家庭等の現状について」では、「全国母子世帯等調査」をもとに次のような分析が行われている。つまり、1988 年度から 2011 年度の 25 年間で母子世帯は 84.9 万世帯から 123.8 万世帯へと約 1.5 倍に増加し、父子世帯は 17.3 万世帯から 22.3 万世帯へと約 1.3 倍増加しているという。改めて論ずるまでもなく、子どもの生活保障や健全な成長・発達にとって家庭生活がどれほど大切なものであるかについては、ふたり親世帯でもひとり親世帯でも同じである。しかし、社会規範として、ふたり親世帯が当たり前とされ、かつ特定のタイプの家庭生活の中でしか子どものウェルビーイングが達成されえないとしたら、子どもの権利が平等に保障されているとはいえないだろう。

2 目的・研究方法

本研究の目的は、世帯構成が多様化していくなかで、なぜ近年においてひとり親世帯が顕著な増加をみせているのか、またなぜひとり親になったのかといった論点に着目しつつ、ひとり親世帯の現状とそれらの世帯が抱える問題点を考察することにある。また、それらを踏まえたうえで、そのひとり親世帯に対してどのような支援事業があるのかについても整理し、それぞれの支援事業の現状と今後の在り方についても検討した。なお、研究方法としては厚生労働省や内閣府などの各種調査・統計を収集したデータをもとに文献調査を行った。

3 考察・結論

ひとり親世帯の増加要因は「生別」の比率の上昇であり、そのうちの 8 割を離婚が占めていた。そして、ひとり親世帯はふたり親世帯と比べて、就業、経済面で不利な状態に陥りやすいことは、厚生労働省の「全国母子世帯等調査」における就業率や平均年間就労収入などの比較分析から明らかとなった。以上に関して、様々な支援事業が展開されていることも確認できる。特に母子世帯については、就業率・世帯収入が低い傾向にあるため、手厚い就業支援が必要となってくる。

他方、父子世帯については、父親と子どもの関係が希薄であることを指摘できる。その要因として、父親の長時間労働・残業の問題が労働政策研究・研修機構の「働く保護者の労働時間」などのデータを用いた分析によって明らかとなった。そのため、父子世帯への対応としては、親と子どものコミュニケーションがしっかりと取れるよう、仕事と育児が両立できるような働き方改革も必要になってくるだろう。このように、様々な問題を抱えるひとり親世帯に対して、包括的な支援はもちろん、それぞれの世帯傾向に合わせた個別的な対の更なる充実が今後求められるのではないかと。

氏 名	藤田 莉圭	学籍番号	P014032	ゼミ No.	16
テーマ	日本における児童虐待問題の現状と課題 地域における母親の育児・子育て支援の重要性				

①背景

「1.57 ショック」以降の日本においては、少子化問題への対策が重要な政策課題となっている。日本の出生数は第二次ベビーブームから減少傾向にあり、2016 年にはついに 100 万人を割り込んだのである。

そのような状況のなかで、他方において子どもを生み、育てること、あるいは「適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られること」(児童福祉法第 1 条)の重要性も増してきている。児童相談所での児童虐待対応件数とその推移に着目すると、1990 年度では 1,101 件だった児童相談所での児童虐待相談対応件数はその後、2016 年度の速報値で 122,578 件まで増加した。

②目的・研究方法

本研究の目的は、大きな社会問題となっている児童虐待の背景と要因を明らかにし、虐待を防ぐための対策、支援について考察することにある。なお、研究方法としては、収集した書籍・論文・各種統計などをもとに文献調査を行った。

③考察・結論

児童虐待に至る現状と要因を分析した結果、虐待者別で半分以上を占めているのは実母であることが明らかになった。また、「虐待に至るおそれのある要因(=リスク要因)」のうち、保護者側のリスク要因でも実母に関わる項目が多く見られた。ただし、独立行政法人労働政策研究・研修機構などの調査データによれば、虐待は様々な世帯で起こる可能性がある。いずれにせよ、児童相談所への相談経路などから、児童虐待の背景として地域や近隣住民とのつながりが十分でないことは指摘できる。他方で、行政 機関と公私の相談窓口で整備されているにもかかわらず、それらの認知度は低い現状にある。

以上のことから、母親が困った時に頼れる場所や機関について普及啓発をさらに進めていく必要がある。児童相談所全国共通ダイヤルである「189」や、オレンジリボン運動などが以上に該当しよう。それらに加えて、児童虐待問題はしばしば多義的で多岐にわたるため、専門的できめ細やかな福祉的対応が求められる。だからこそ、社会福祉協議会などに所属している社会福祉士が中心になって、母親の育児・子育てを総合的に援助出来る体制を地域ごとに構築していくことも、考慮に値する。さらにいえば、学校を拠点として福祉的支援を展開しているスクールソーシャルワーカーが子ども自身の異変に気付き、学校と地域・行政機関をつないでいくことなども、児童虐待問題の解消に向けた対策の一つとして考えられる。

氏 名	本郷 里沙	学籍番号	P014034	ゼミNo.	16
テーマ	長寿国日本における高齢者の生活状況と健康のあり方				

①背景

現在の日本では、「国民皆保険制度」により社会全体で医療費を支える制度が整備されており、保険証があれば全国どの医療機関でも医療行為を受けることのできるフリーアクセスが確立している。多くの人が当然のように利用している制度であるが、先進国の中にはアメリカのように民間保険を中心として制度を構築しており、無保険の国民を多く抱える国も存在している。それぞれの国において、社会経済状況や文化的背景、あるいはまた平均寿命や健康寿命、医療技術の進歩などから、その国に適した制度となるよう改正が行われているのである。

そのことを念頭に置きつつ、日本の医療を取り巻く状況に改めて目を向けると、2015年度の国民医療費の総額は42兆3,644億円であり、そのうち65歳以上の高齢者の総額は25兆1,276億円であった。また、超少子高齢化社会である日本では労働力人口が減少しており、今後における労働力の確保という観点からも、比較的年齢の高い高齢者であっても社会で活躍することが求められつつある。

②目的・研究方法

本研究の目的は、現代の日本社会が抱える様々な課題のなかでも、とくに高齢者の生活状況と健康に着目し、国や自治体はどのようなことに取り組んでいるのか。また、国民には何が求められているのかなど、高齢者が生き生きと生活できる方策を明らかにすることにある。なお、研究方法としては、社会保障に関する新聞記事・書籍・論文等をもとに文献調査を行った。

③考察・結論

日本は諸外国にみられない勢いで高齢化が進んでいる。本論における分析の結果、日本の医療供給体制や社会保障制度の充実がその高齢化率の上昇に繋がっていることを明らかにした。ただし、高齢化は今後も進展すると推測されており、医療費全体の膨張が懸念される。他方において、平均寿命・健康寿命の差は拡大傾向にあり、高齢者の生きがい充足といった観点からも、健康を維持することの重要性は極めて大きい。

そのような中、地域の独自の取り組みの一つである「静岡県高齢者コホート調査」では、高齢者の健康には運動・栄養・社会参加といった様々な要因が関係しており、また健康であることは高齢者の生活の質の向上に繋がることを明らかにしている。健康であることの重要性をどのように国民に理解してもらうか、いかに健康を維持しながらその人らしく生き生きとした生活を送るかは、長寿国日本の大きな課題であるといえる。そして、都道府県別にみて健康寿命が長い静岡県や愛知県の実践事例は、健康を維持するためには行政や関係機関、住民等が連携し合い、誰もが積極的に健康づくりに取り組める環境を整える必要があることを示唆しているのである。

氏 名	松本和香子	学籍番号	P014039	ゼミ No.	16
テーマ	長時間労働が及ぼす心身への影響				
[背景]					
<p>日本において「1 週間の法定労働時間の短縮」が実現し、現行週 40 時間への変更が着手されたのは、1987 年の労働基準法の改正においてであった。また、直近の 2008 年の同法の改正では「時間外労働における法定割増賃金率の引き上げ」が各企業に対し新たに課せられた。しかし、以上の同規定はあくまでも努力義務に過ぎず、日本人の「働きすぎ」問題の解決に対する政策的な効果は限定的であったといえる。その理由としては、「働きすぎ」問題の一つの帰結としての過労死や、勤務問題を原因の 1 つとする自殺者数の推移の減少がみられなかったことがあげられる。また、2015 年に過酷な労働条件によって電通の社員が自殺した事件は、大きな社会的問題となった。以降、長時間労働について改めて問題視されるようになってきている。</p>					
[目的及び方法]					
<p>過労死等の防止としての政策が進められてきている中で、なぜ過労死や過労自殺は起きてしまうのか。以上の問題意識のもとで、本研究の目的は関連白書や統計、研究論文、書籍などの文献調査を通じて、(1) 長時間労働問題と、それによって引き起こされる過労死・過労自殺問題の背景と要因について明らかにすること、(2) 政策のさらなる見直しの必要性について考察することにある。</p>					
[結論]					
<p>日本の労働時間に関する OECD の統計データによると、2016 年の平均年間労働時間の長さは 1,713 時間で、労働時間の基準となる 1,800 時間をすでに下回っている。さらに、その労働時間は近年減少傾向にある。しかし、これに大きく関係してくるのが、雇用形態の多様化である。その中でも、特に短時間労働者としての非正規職員・従業員の増加によってもたらされたものに過ぎないことが本研究を通じて明らかとなった。その為、「雇用形態」の変化に対して、今後どのように対応していくのかを長時間労働という観点からも改めて考える必要がある。</p> <p>また、日本において長時間労働が問題視される要因となっているのが、長時間労働と健康問題の関係性である。長時間労働は、過重な労働負荷と他方における睡眠・休養時間だけでなく、家庭生活や余暇の時間の減少をもたらす。これらによって、蓄積されていく疲労は心身への影響を及ぼし、やがて健康問題、ひいては過労死・過労自殺問題へとつながっていくのである。</p> <p>日本において長時間労働が蔓延する背景には、企業側と労働者側それぞれの「働き方」に対する意識の在り方も関係してくる。労働者各人のワーク・ライフ・バランスの実現のためにも、長時間労働問題に対する企業・労働者双方の意識改革が必要不可欠となってくる。</p>					

氏 名	宍戸 留佳	学籍番号	P014045	ゼミ No.	16
テーマ	教育格差からみた子どもの貧困				

1. 問題意識

文部科学省は『平成 21 年度版 文部科学白書』において、親の収入と子どもの学力の関係性に関する調査の結果を公表した。この調査の示唆するところは、子どもの学力は親の学歴や所得と密接に関わっていることである。そして、親の学歴や所得と子どもの学力の関係性は、子どもの貧困問題について論じるうえでも重要な論点となりうる。子どもの貧困を表すものとして、日本の子どもの相対的貧困率は 13.9%であり、約 7 人に 1 人が貧困となっている。学力が低い子どもについて問題視する意義は、子どもの頃の学歴が将来の職にも繋がるという意味で極めて重要であり、学力が低い子どもは不安定な就業に陥りやすいということにある。それは日本の貧困問題や社会保障制度などの安定性・持続性にも結びついていく。

2. 研究の目的

以上の問題意識のもとで、本研究ではまず親の学歴や所得と子どもの学力の相関性に着目し、(1) 親の所得が高いと子どもの学力も高く、また親の所得が低ければ子どもの学力も低いのか、(2) 親の収入によって子どもの学力はどれだけの影響が与えられるのか、といった点について科学的根拠に基づいてそれらの関係性を明らかにしたい。そして、そこから生じる子どもの貧困についても分析し、教育格差解消に向けた改善策を論じる。

3. 考察・結論

本論において親の所得と子どもの学力の相関性について分析を行った結果、両者の関係性は認められるものの、経済的側面のみならず非経済的側面も関係があることを明らかにした。後者についてはとくに、非認知能力を高める効果としての就学前教育や、しつけの重要性が明らかとなった。そして、学力が低い子どもの要因として「貧困の連鎖」の問題を析出した。

これらをふまえ、教育格差の改善という視点での子どもの貧困対策としては、例えば学習支援のさらなる充実の必要性を指摘できる。これは日本の各地域で実施されており、すでに顕著な成果を出している。しかし、ボランティアの活用を想定しているということもあり、人員確保が難しい現状にある。結論としては、全国レベルの政策制度の充実に加えて、そのような学習支援のあり方を根本的に見直し、各地域において行われている独自の支援を実施していくことが求められるのではないかと考える。

氏 名	篠森 莉音	学籍番号	P014015	ゼミ No.	17
テーマ	チョコレート の 歴史				
<p>現在、チョコレートは世界中で食されている。なぜチョコレートが世界中で食べられるようになったのか。本論文では、どのようにしてカカオがヨーロッパに広まり、現代のようなチョコレートが作られるようになったのかを明らかにした。また、近年カカオ豆生産国で起きている児童労働についても調べた。</p> <p>1 章の前半では、日本人のチョコレートの消費量、カカオ豆の生産・貿易について紹介した。日本人の1年間のチョコレートの消費量は平成 28 年で 2.07kg だった。後半は、カカオの木の特性について述べた。また、クリオロ種、フォラステロ種、トリニタリオ種の 3 種類のカカオ豆の違いについて述べた。</p> <p>2 章では、ヨーロッパにおける飲料としてのココアの普及について述べた。カカオ豆は南米のアマゾンで自生していた。その頃はマヤ社会、アステカ社会で飲料として飲まれていた。しかし、飲むことができるのは社会上層部に限られていた。その後、アメリカ大陸が発見され、スペインによってアステカ王国は滅ぼされた。スペインが自国にカカオを持ち帰ったことからヨーロッパ中に広まっていくことになる。宮殿や貴族の間で飲まれていたココアが一般の人々でも飲むことができるようになったのはイギリスでは 17 世紀前半で、フランスでは 17 世紀後半であった。イギリスではコーヒー・ハウスが誕生した。コーヒー、茶、たばこと共にココアも飲まれていた。コーヒー・ハウスは、常連客の情報交換の場として利用されるようになった。また、フランスのカフェではアイス・ココアも飲まれていた。ここでのアイス・ココアはシャーベット状にしたココアである。</p> <p>3 章では、固形チョコレートの誕生について述べた。固形チョコレートが誕生したのはイギリスで 1847 年の事だった。イギリスでは、水力タービンや蒸気機関が開発された。これにより、カカオ豆の圧搾が簡単になった。そして固形チョコレートが誕生した。本章では、固形チョコレートが誕生した後にイギリスを代表するチョコレート会社になっていくフライ家、キャドバリー家、ロウントリー家についても述べた。後半では、時代と共に変わっていくチョコレート消費者に合わせた広告について述べた。また、日本でもよく見かけるキットカットの誕生について紹介した。</p> <p>4 章では、近年カカオ生産の現場で行われている児童労働について紹介した。例えば、ガーナでは、小規模農家が狭い土地でカカオを栽培することが一般的である。子どもが労働させられるのは、農家も貧しいため安い賃金で人を雇いたいからである。</p> <p>チョコレートの歴史には、植民地化や奴隷貿易などが背景にあった。近年では、児童労働の問題もあり、暗い部分もある。</p>					

氏 名	高岡 名奈	学籍番号	P014018	ゼミ No.	17
テーマ	SNS 利用とそのトラブル ～ネット上での炎上といじめ～				

現代社会では、インターネットや SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）が広まったことによりいつでもどこでも様々な情報を入手することができ、話題性の高い写真や動画を世界中に拡散共有することが可能になった。しかし、SNS 上では顔や名前、連絡先の知らない他人とのコミュニケーションが当たり前になされるため、歯止めが効きにくく、冗談のつもりで言った言葉が他人を傷つけてしまうこともある。やがて暴言や行き過ぎた行動が犯罪につながる可能性もある。

本論文では、SNS 利用状況や関連事件を通して SNS 上でのトラブルの実態を考察した。

第 1 章では、SNS 上でのトラブルの種類と現状について論じた。第 1 節では SNS 上でのトラブルの種類について述べた。ネットいじめ、ネットストーカー、なりすまし、スパム、荒らし、といったトラブルについて説明した。第 2 節では SNS 上でのトラブルの現状について述べた。総務省の『情報通信白書』（平成 27 年）のデータを参考に、SNS の利用状況を調べた。最近約 1 年以内に利用した経験のある SNS の利用率は、LINE、Facebook、Twitter ではおよそ 3～4 割という状況であった。また、それぞれ実名と匿名のどちらで利用しているかでは、実名利用率が高かったのは、Facebook と LINE であり、低かったのは mixi と Twitter だった。実名利用率が高い Facebook や LINE は、親しい友人や知人に情報発信できるが、配慮の足りない発言でトラブルを起こしやすい。一方、匿名利用率が高い mixi や Twitter は、友人や知人だけではなく見ず知らずの人に広く自分の意見や情報を発信することができるが、ちょっとした発言が本人の知らぬ間に流れていることがある。実名より匿名を利用すると炎上のリスクが高いということが考えられる。

第 2 章では、SNS 上でのトラブルの事例について紹介した。第 1 節では「土下座強要事件」の事例について述べた。客が店員に向かって土下座を強要したところを撮影して SNS に投稿した事件のニュース記事を見て迷惑行為を面白がる Twitter 利用者の実態が明らかになった。匿名利用率が高い Twitter で悪気のないつもりで投稿した発言が炎上を招いた事件であった。第 2 節では「LINE はずし」や「既読スルー」の事例について述べた。LINE は実名利用率が高いコミュニケーションツールであるため、トーク内容や個人情報が漏れると取り返しのつかないトラブルになる恐れがある。第 3 節では SNS 上での炎上のメカニズムを論じた。少数派より多数派の意見が優勢になるため、多数派が正義で、少数派が悪者扱いされることもある。注目されたいという軽い気持ちで動画や写真を投稿したことで引き起こした炎上と「LINE を早く返さなきゃ」という強迫観念が SNS 利用者を苦しめている。SNS の使い方をもう一度考える必要があるのではないだろうか。



氏 名	中山 未香子	学籍番号	P014025	ゼミNo.	17
テーマ	日本における化粧の歴史について				
<p>私たちは、自分を美しく表現するために化粧を行っている。一体、化粧は、いつ頃から始まって、各時代でどのように変化してきたのだろうか。以上のような問題意識から本稿では、日本における化粧の歴史を具体的な時代背景と共に考察する。</p> <p>第 1 章では、古代から中世の歴史について論じた。古代においては、化粧の始まりは、「赤の化粧」と「黒の化粧」の 2 色であった。化粧の仕方に男性と女性では、それほど差がなかった。次第に、大陸の文化や様式を真似て、「白の化粧」が現れた。化粧は、顔や体に塗った「赤の化粧」、眉やお歯黒の「黒の化粧」、そして、白粉の「白の化粧」の 3 色を基本として形成された。中世では、大陸の文化や様式を変化させ、日本独自の化粧が築かれた。「黒の化粧」「白の化粧」「赤の化粧」の 3 色の基本が受け継がれると同時に、色や形は変化しながら発達していった。また、天皇や公家、武家の男性の間では、高い身分や地位にあることを示す階級表示の意味を持ち、そうした化粧が社会に定着した。</p> <p>第 2 章では、近世の歴史について論じた。近世では、「白の化粧」「赤の化粧」「黒の化粧」の 3 色の化粧として受け継がれてきたものが、それぞれ発展していった。「白の化粧」では、色白が美人の条件だったため、スキンケアに力を入れるようになった。「赤の化粧」では、紅は、華やかで顔に彩りを添えるもので、金と同じぐらい貴重であった。「黒の化粧」では、お歯黒は、基本的に女性の元服に際して行われるようになった。一方、眉化粧は、上流階級と庶民の身分差をはっきりと示すためのものであった。また、江戸では、化粧が庶民の間にまで広まっていたのである。しかし、身分秩序を重んじる封建社会であり、化粧においても身分や階級、未婚の区別などが表されていた。</p> <p>第 3 章では、近代から現代の歴史について論じた。明治時代になると、「黒の化粧」「白の化粧」「赤の化粧」の 3 色の化粧以外に、海外から化粧品や化粧法が入り、化粧の西洋化が始まった。大正時代になると、女性の社会進出が進み、女性が化粧をする機会が増えた。太平洋戦争が終わると、アメリカの消費文化が大量に流入し、化粧の洋風化が一気に進んだ。高度経済成長期になると、人々がより豊かな暮らしを求めて、欧米式のメイクが大衆化した。昭和 50 年代や昭和 60 年代になると、個人が自分らしいメイクを選び、「個性化」を重視するようになった。平成時代になると、化粧できれいになることは隠すことではなく、美しさを獲得する努力のプロセスを含めて、見せて語って賞賛されるものへとさま変わりした。</p> <p>最後に、日本における化粧の歴史を通して、私たちは、自分を美しく表現するためだけに化粧を行ってきたわけではなく、身分や階級を表すためにも化粧を行っていたことが分かる。化粧は、各時代の社会を映す鏡でもある。</p>					

氏 名	原田 真子	学籍番号	P014029	ゼミ No.	17
テーマ	日本語と日本人				

日本人は、「よく謝る」「すぐ謙遜する」「意見をはっきり言わない」などと言われる。こういった話し方をするのは、日本が歩んできた歴史と文化が大きく関係していると思われる。

本論文では、日本語からわかる日本人のコミュニケーションの取り方の特徴について述べた。

第1章では、日本語の曖昧さについて取り上げた。曖昧な表現として、「ぐらい」「ばかり」「ほど」がある。その曖昧さをもたらす社会的・文化的背景として、日本人のコミュニケーションは良好な関係を保つための手段であったこと、序列意識が強く慎重な言葉使いをしなくてはいけなかったことなどが挙げられる。また、助詞の省略や言い切らずに文を終わらせる文形式など、日本語の形式自体が曖昧な表現になる原因としてある。更に和語の語彙が少ないために意味がよく分からないまま漢語や外来語を使ってきたことも原因として挙げられる。例えば刈（2011）は、日本人がコミュニケーションを取る時に一番重視するのは、「和」であると指摘している。和を保つために自分の意見だけを強く主張するのではなく、相手も自分もお互いに気持ちの良い結果になるように、曖昧な表現をするのである。

第2章では、「すみません」という言葉について取り上げた。「すみません」という言葉ひとつで謝罪や感謝、依頼や呼びかけなどたくさんの意味があるため、日本人の会話の中で多用されている。多用されるようになった背景として、他人と深く関わり協力しなければいけない環境にあったこと、共感性が高いこと、自分の非を認めて謝る潔さをよしとする美学があること、賠償責任を負う可能性が低いことなどが挙げられる。また、この言葉にも和を保つ効果や相手を思いやる機能があり、良好な人間関係を築いたり、物事をスムーズに運ばせる大事な役割がある。

第3章では、現代の日本語の表現について取り上げた。「なる」や「～のほう」といった言い方は、より丁寧に言おうとして使われ、敬語のように広まっていった。「なる」には客観的事態はすべて人間に先行して成立しており、人間はそれを与えられているという発想からきたもので、日本人の遠慮深い面やはっきり言わない性格を表していると言える。「～のほう」も同様で日本人が好む間接的な言い方であり、当事者の意図や相手への配慮が含まれている。

日本人は、和を大切にして、良好な人間関係を保つために曖昧な表現や「すみません」を多用し、現代では丁寧すぎる言葉使いが多くなった。しかし一方で、和を大切にするコミュニケーションは、親しい仲間ではない人や意見をしっかりと言う人達を排除してしまう冷たいものになる可能性があり、その点を私達は意識しなくてはならない。

氏 名	松澤佳奈子	学籍番号	P014037	ゼミ No.	17
テーマ	昔話の分析				
<p>現在でも世界で多くの昔話が語り継がれている。絵本やテレビでも昔話を見ることが多く、印象的な登場人物も数多くいる。しかし、昔話には非現実的、非合理的な話が多い。なぜこのような昔話が、多くの人に今でも愛され語り継がれているのか。昔話には人間の無意識が表わされているという考えもある。</p> <p>本論文では、昔話にみられる人間の無意識について述べた。</p> <p>第 1 章では、昔話と心の深層について述べた。ユングは、世界の昔話に共通して、典型的なイメージが存在することを指摘した。人間の無意識の深層は人類に共通の普遍性を持つとし、そこに一つの元型の存在を仮定した。ユングの説は、時代や文化の差を超えて、類似のテーマや内容を持つ昔話が存在していることを示している。神話においても、素材が元型的なものであることに変わりはないが、一民族、一国家のアイデンティティの確立に関係するもので、意識的、文化的な彫琢が加えられている場合がある。神話や伝説も昔話と同様に扱うことがあるが、神話、伝説の方が意識的な統制を受けているものとして考える必要がある。昔話は、元型的な素材の中核部分のみを残している可能性が高い。</p> <p>第 2 章では、グレートマザーについて述べた。グレートマザーとは、母なるものの優しさと恐ろしさを持ち、生と死の両面性を持つ母親像である。産み育てる肯定的な面と全てをのみこんで死に到らしめる否定的な面を持っている。人間の母親も内的にはこのような傾向を持っている。肯定的な面はすぐ了解できるが、否定的な面は、子どもを抱きしめる力が強すぎるので、子どもの自立を妨げて精神的な死に追いやる状態のことである。両者に共通する機能は、「包含する」ことであるが、生にも死にもつながる両面性を持っている。具体的な昔話の例として、「トルーデさん」を取り上げた。</p> <p>第 3 章では、アニムスについて述べた。アニマが男性の心の中の女性像の元型であるのに対し、アニムスは、女性の心の中の男性像の元型のことである。女性が女らしい特性を身に付けていく一方、アニムスは無意識の中でだんだんと力を持ち、その影響を女性の自我に与えるようになる。ユングは、アニマは男性にムードをかもしだし、アニムスは女性に意見を主張させると述べている。アニムスの力が強くなると、女性は「…すべきである」「…でなければならない」と主張し始める。具体的な昔話の例として、「つぐみひげの王様」を取り上げた。</p>					

氏 名	黄 昕垚	学籍番号	P014503	ゼミ No.	17
テーマ	日系自動車メーカーの中国戦略				
<p>人口が世界で第一位である中国は、自動車販売台数や生産台数も一番多い。現在、急速に経済成長している中国ではあるが、先進国のアメリカ、日本、ドイツなどと比べ、自動車保有台数はまだ少ない。中国では、自動車の需要はまだまだ高まると考えられる。欧米で人気のある日系自動車は中国での販売台数が他社より少ない。中国では、品質やアフターサービスなどで高く評価されている日系自動車ブランドの販売台数はいずれのメーカーもフォルクスワーゲン社より少ない。また、中国のWTO加盟以来、世界中の様々な自動車メーカーが中国市場に参入した。世界最大の自動車市場である中国では、たくさんの自動車メーカーが激しく競争している。また、中国政府はエコカーの普及に努力している。中国市場向けのEV車の開発は日系自動車メーカーにとって新しい課題になっている。</p> <p>本稿では、日系自動車メーカーの中国戦略について論じた。</p> <p>第一章では、中国における自動車市場について考察した。第一節では、世界中での自動車生産台数、中国での自動車販売台数、また、年々成長している国民消費水準などのデータを基に中国の自動車の国内需要について考察した。中国では、自動車への旺盛な国内需要があると考えられる。第二節では、日系自動車メーカーとその他の海外の自動車メーカーを比較した。その結果、日系自動車メーカーにとっては、競争環境が厳しいと分かった。第三節では、中国での環境意識の高まりと自動車市場の関係を述べた。また、中国でのEV車の導入政策や、シェアカーの流行について紹介した。</p> <p>第二章では、中国市場での日系自動車メーカーの戦略と今後の課題について論じた。第一節では、日系自動車メーカーは他の自動車メーカーより、現地化率がまだ低く、価格が高いことを指摘した。第二節では、価格が高いが、日系自動車の品質やアフターサービスなどが高く評価されていることを述べた。日系自動車は高所得層が多い沿岸部で人気がある。品質で差別化してきた日系ブランドは消費者に信頼されている。第三節では、日系自動車メーカーの今後の課題について述べた。一つは、低収入層が多い内陸部でのシェアの拡大の必要性を指摘した。内陸部でのシェアを増やすために、コストを削減しなければならない。高い品質や良いアフターサービスを保証したうえで、コストを削減することは日系自動車メーカーの今後の課題である。次に、中国の環境政策に対応し、日系自動車メーカーはEV車の技術の開発や、またシェアカー市場への参入などで努力する必要がある。日系自動車メーカーが今後中国での市場シェアを拡大していくためにはこうした課題が残されている。</p>					

氏 名	蘇 雅格	学籍番号	P014504	ゼミ No.	17
テーマ	中国と日本における箸の歴史				
<p>箸は東アジア地域の人々の特別な食器であり、東アジアの食文化のシンボルでもある。箸は中国で誕生してから、長い年月をかけて、その材質や形を変化させてきた。そして、中国と隣国の交流が盛んになるに従って、箸は日本にも伝わってきた。箸は簡単な道具だが、そこには長い歴史がある。箸はいつごろ誕生したのであろうか。箸はどうやって日本に伝えられてきたのであろうか。また、中国と日本で箸はどのように発展してきたのであろうか。箸の歴史を考察することを通じて、日中の食文化を深く理解することができると思われる。</p> <p>本論文では、日中における箸の歴史について研究した。</p> <p>第一章では、箸の機能や箸を使用する際のマナーについて論じた。時代とともに変化してきた箸を表す漢字からはその時代の箸の材質や機能を読み取ることができる。中国で箸の意味に用いられてきた字は「箸」、「挾」、「筴」などがある。漢字の偏と冠は箸の材質を表していて、「挾」は箸の「挟む」機能を示している。日本では箸は「はし」と発音されて、物と物をつなぐ意味があると言われている。箸を使う時、中国や日本にもマナーがある。例えば、食事をする時、箸で皿や茶碗を叩くのはいけないことである。箸先を口に含み、噛み、声を出すのは下品な行為とされる。これらのマナーから、日中における共通する食文化の一端を窺い知ることができる。</p> <p>第二章では、中国における箸の起源と歴史を考察した。今まで出土した文物の研究から、箸の起源は中国だと推測することができる。中国では、少なくとも約 3000 年前の殷代から青銅器製の箸を使用していた。その後、戦国時代になると、木製や竹製の箸が多く使われた。さらに、唐朝になると、金製や銀製の箸も出現した。現代では、プラスチック製の箸も多く使われている。箸の形は当初の円筒形から漢代には六角柱になり、さらに、元代には箸先が丸く頭が四角形の形になった。</p> <p>第三章では、日本に伝来した箸についての歴史を論じた。弥生時代末期、箸は中国から伝来したと推測される。日本の最も古い箸は今のようなものではなく、ピンセットのようなものであった。8 世紀以降、箸は一般的に普及し、日本人の飲食習慣や生活習慣にふさわしい形になった。さらに、西欧からの公衆衛生の理念が広まってからは、割り箸が大量に使われるようになってきた。日本で誕生した割り箸は中国にも伝わり、広く使われるようになった。</p> <p>箸は私たちが食事をする際にほぼ毎日使っている欠かせない道具である。箸の歴史を探てみると、各時代の文化的な特徴が見られた。箸は中国で生まれ、日本にも伝播し、日本の食文化に合うような形に変わっていった。また、日本で普及した割り箸は中国にも広まった。文化は起源地からほかの地域に単一方向に伝わるだけでなく、その逆の流れがあることも箸の研究を通じて確認できた。</p>					

氏 名	井上 詩織	学籍番号	P014008	ゼミNo.	18
テーマ	カップケーキ画像の色加工が人の食嗜好性に及ぼす影響				

【はじめに】我々の生活の基本である「衣食住」では、その直接の目的や機能だけではなく、色や形といった視覚情報も重要な意味を持つ。その中でも食においては、「色が食欲に及ぼす影響」が先行研究において検討されてきた。しかし、検討結果は常に同一ではなく、「食欲」を「食に対する意識（以下『食嗜好性』と表す）」に拡大した場合、「色が食嗜好性に及ぼす影響」については未検討の部分が多くあると考えられる。現代では、技術の発達により一般人による画像加工と共有が可能となった。例えば、Instagramなどで多くの人に共感されるような加工された食品画像は、「食欲」とどまらない「食嗜好性」を捉えていると考えられる。しかしこうした画像の色加工と食嗜好性の関連性は、まだ未検討である部分が多いと言える。

【目的】カップケーキの画像の色を加工することによって、食品の色と画像全体の色が、人の食嗜好性にどのような影響を及ぼすかについて検討することにした。

【方法】松山東雲女子大学・短期大学に在学する女子大学生 40 名（平均年齢 23.00 歳， $SD=6.67$ ）が参加した。Scheffe の一対比較法により，2（カップケーキの色：赤系・緑系） $\times$ 5（画像の色：無加工・赤・黄・緑・青）の 10 種類の刺激を，左右入れ替えを含むすべての組み合わせで 90 通り提示した。刺激提示と反応の回収は，PsychoPy（ver.1.82.01）で作成したプログラムを用いた。実験終了後に嗜好性のアンケートを実施した。

【結果】分散分析の結果，刺激の要因に有意差が認められた（ $p<0.01$ ）ため，ヤードスティック法を行った。差の検定を行った結果，食嗜好性の順位は組み合わせ（カップケーキの色\_画像の色）ごとに次のようになった。「赤\_黄」 $>$ 「緑\_赤」 $>$ 「赤\_無加工」 $>$ 「赤\_緑」 $>$ 「赤\_赤」 $>$ 「緑\_無加工」 $>$ 「赤\_青」 $>$ 「緑\_黄」＝「緑\_青」 $>$ 「緑\_緑」。

【考察】画像の色加工が食嗜好性に影響を及ぼすこと，特に次の 4 点が明らかとなった。(1) 食品画像を見たときに形成される食嗜好性は，画像の色よりも食品自体の色に強く影響されることが考えられる。しかし例外もあり，食品自体の色と組み合わせる画像の色によっては，食嗜好性を左右する場合もあることが示唆された。(2) 画像の色加工は，必ずしも食嗜好性を高める効果があるわけではなく低くする可能性があることが示唆された。(3) 色調の濃度が食嗜好性に影響を及ぼすことが示唆された。(4) 食嗜好性を形成するプロセスに影響を及ぼす要素として，「色」以外に，評価対象物の「存在感」があることが考えられる。また，評価対象物の要素以外に，個人の要素も含まれることが考えられるため，プロセスそのものを対象とした研究が必要になることが示唆された。

氏 名	田岡 沙耶	学籍番号	P014017	ゼミ No.	18
テーマ	LINE スタンプのもたらす感情伝達促進効果が チャットコミュニケーションに与える影響				
<p>【目的】昨今、多くの人がスマートフォンを手にする時代となり、LINE を含めた SNS (Social Networking Service) の利用率も高まっている。中でも LINE の普及は急速であり、その理由としてスタンプの導入が挙げられる。LINE スタンプは、従来使用されてきた顔文字や絵文字などのエモティコンに比べ、感情伝達の効果が高いと考えられる。そこで、LINE によるチャットコミュニケーションにおいて、スタンプが感情伝達にどのような影響を与えるのかを、コミュニケーションツールとしての特性とあわせて検討した。</p> <p>【方法】松山東雲女子大学・短期大学の学生 41 名（平均年齢 22.56 歳，<math>SD=6.60</math>）が実験に参加した。各感情において 2 種類ずつの文章を用意し、感情 4（喜び・悲しみ・怒り・不安）×エモティコン 4（なし・顔文字付加・絵文字付加・LINE スタンプ付加）の組み合わせで作成した 32 通りのチャット場面から、それぞれどの程度感情が伝わってくるか、1（全く伝わらない）～10（非常に伝わる）の 10 段階で評定を求めた。実験は PC で行い、刺激の提示と評定は PsychoPy で作成したプログラムを使用した。</p> <p>【結果】感情評定値に対して、感情とエモティコンを参加者内要因とする 2 要因分散分析を行った。分析の結果、次の 4 つが明らかになった。1) 喜び条件ではエモティコンの付加によって感情評定値が有意に増大し、中でも LINE スタンプの感情評定値が有意に増大した。2) 悲しみ条件ではエモティコンの付加によって感情評定値が有意に増大したが、エモティコンの種類による有意差は認められなかった。3) 怒り条件ではエモティコンの付加によって感情評定値が有意に増大し、中でも LINE スタンプの感情評定値が有意に増大した。4) 不安条件ではエモティコンの付加によって感情評定値が有意に増大したが、エモティコンの種類による有意差は認められなかった。</p> <p>【考察】LINE スタンプの持つ感情伝達の役割は、感情によってその効果の大きさに違いが見られることが明らかとなった。喜び、怒りの感情ではエモティコンの付加によって受け手に対する感情伝達が促進されていることが推測され、特に LINE スタンプでその効果が顕著に見られた。悲しみと不安の感情では、LINE スタンプの感情伝達への影響度は、従来のエモティコンと同等程度であることが明らかとなった。この結果から、悲しみ、不安の感情において、LINE スタンプの付加は誠実性や真実性を低下させることが示唆されたと考えられる。非対面型コミュニケーションがより身近なものとなった現代において、効果的に感情を伝達できるエモティコンは便利なツールである。しかし、状況によっては送り手が伝えたい感情と、受け手が読み取る感情に齟齬が生じる可能性があることを理解する必要があるだろう。</p>					

氏 名	石丸 萌美	学籍番号	P014004	ゼミ No.	19
テーマ	小学校防災教育の重要性～松山市の現状と課題～				

東日本大震災をうけて日本の防災教育への意識は大きく変化しているように思う。本論文では松山市の小学校防災教育の現状と課題について考察を行った。

第 1 章では、なぜ日本は地震が起こりやすい国なのか「日本」と「愛媛県」にわけて考察した。日本全体でみると過去大きな地震が度々発生しており、日本自体がプレートがぶつかり合う大陸で地震が多い。しかし、愛媛県に焦点を当ててみると他都道府県に比べ、地震の発生回数が少ないことが分かった。

第 2 章では南海トラフ地震の被害予想と阪神淡路大震災と東日本大震災の違いについて考察した。まず、平成 25 年 12 月に愛媛県が発表した「愛媛県地震被害想定調査結果(最終報告)について」をもとに、南海トラフ地震における愛媛県の被害予想を概観した。南海トラフ地震が発生した場合、冬深夜、強風の想定で死者数は 16,032 人（内松山市：715 人）に上る。次に阪神淡路大震災と東日本大震災を比較した。阪神淡路大震災では死傷者の 9 割以上が家屋倒壊による火災が原因で、東日本大震災はほとんどの死傷者は津波が原因で命を落とした。発生する場所、時間、気候によって被災の種類が変わることが分かった。日本全国が同じ防災をするのではなく、地域それぞれに合った防災をしていかなければならない。

第 3 章では学校防災教育のねらいを「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（文科省、2010）から考察し、釜石地区の小学校と、大川小学校を比較して防災教育の重要性の再確認を行った。防災教育では知識の定着はもちろん大切であるが、それ以上にいざという時、主体的に避難できる力を養うことも大切だと考えた。

第 4 章ではまず、防災教育に関する松山市ホームページの情報と松山市の防災教育を論じた論文（二神・井出・今西 2015）に基づいて、教育内容を座学⇔体験、児童が受動的に受けられるものか⇔能動的に受けられるものかに分けて図を作成した。この図より、能動的且つ体験的な教育を行っている学校が少ないことが分かった。そこで現状を詳しく知るべく、Y 小学校に聞き取り調査を行った。Y 小学校は学級数が 20 クラス、全校児童数は 458 人で教職員は 30 人の松山市内でも比較的大きい小学校である。この Y 小学校の現状は避難訓練をメインに行っていた。学校だけで防災教育を進めることは難しく、家庭と地域の協力が必要不可欠であるが、Y 小学校は松山市中心部に位置していることから人の移動が激しく、地域の横のつながりが田舎の学校に比べ薄いことが課題の一つであると考えた。この調査に対応してくれた校長先生は防災に対する「意識」が最も重要な課題であると述べていた。松山市は自然災害がほとんど起こらないことから自然災害への危機感があまりないように感じる。親の「意識」、子の「意識」まずはこの「意識」をどこまで高められるかが松山市防災教育の最大の課題であることが分かった。



氏 名	梶原 あい	学籍番号	P014012	ゼミNo.	19
テーマ	「もったいない」の今				

本研究では、かつての循環型社会であった時代とは質が変わってきている、今日の日本人の「もったいない」という考え方について考察を行った。

第1章では、循環型社会であったと言われている江戸時代から、大量生産・大量消費の時代を経て、変化してきている日本のモノに関する歴史を見てきた。こうした流れの中で、人々のモノに対する「もったいない」という考え方も変化し、さらにモノの循環は個人のライフスタイルにも影響を与えていることを、特に衣服に注目して考察した。流行遅れになったら捨てる、衣服の耐用年数が全体として短くなっていることから、日本人の「もったいない」意識は薄れてきていると考えた。

第2章では、2009年に行われた既存研究に基づいて、今日の20代若者の「もったいない」意識と実際の行動の特徴について考察した。そこでは、「もったいない」という意識に比べると、男女ともに実際に行動している割合は低く、その理由としては、「面倒くさい」が最も多い。さらに、日常生活における「もったいない」意識や実際の行動には、「家庭内生活慣習」の有無が影響していることが判明した。

第3章では、松山東雲女子大学の学生を対象として行ったアンケート調査の結果に基づいて、現在の若者の意識はどう変化しているのか、「断捨離」などの新たな視点を加えて考察した。その結果、今日の若者のモノに対する考え方は、量の多さより質の良さを重視する傾向にあり、「断捨離」も注目されていることが明らかになった。今日の日本人にも「もったいない」という考え方が残っているとも考えられる一方で、近年「断捨離」に注目が集まり、捨てることが推奨されているのはなぜなのか。

終章では、「断捨離」に焦点を当て、日本人のモノに対する考え方について考察した。日本人は、物を大切にせる教育がされてきたが、その「もったいない」とはモノを粗末にせず、大切に扱うことであった。しかし、高度経済成長期以降、モノを買う消費そのものが求められるようになった。そうして消費に慣らされた現代人は、「もったいない」という考え方が根強く残りつつ、モノへの執着から逃れられなくなった。その結果、多くのモノを抱えたまま、捨てられないという状況に陥っている。溢れかえるモノで生活空間が狭くなり、持ちすぎること心まで窮屈になってしまう。そうした状態に困り果ててしまい、モノへの執着心から逃れる方法を求めたため、「断捨離」に注目が集まっているのではないだろうか。

ここに見てきたのは、二つの対立する「もったいない」、すなわち執着する「もったいない」と、モノを愛おしむ「もったいない」である。これらによって問題を抱えてしまい、どちらを選択するかによっても、暮らしは変わってくるだろう。私は後者を大事にし、入ってくる要らないものは断ち、要らないモノを捨てることで、モノへの執着から離れ、空間や時間、心にも余裕を持った社会に向かってほしい。

氏 名	玉井なつみ	学籍番号	P014021	ゼミ No.	19
テーマ	仕事の成功機会と美貌の関係 「美貌格差」を考える				

はじめに

近代社会において、人種や性別、出自のような属性で待遇を変えることは差別として禁止されている。生まれてから死ぬまで基本的に大幅に変わらない容姿もまた、属性に分類され、それによつての差別はしてはいけないのではないか。しかし今日、社会生活を送るうえで容姿、特に顔の「良し悪し」が重視されている風潮が強まっている。そこで、本稿では、近代社会における人の容姿による機会の違いを取り上げて考察した。

第1章 働く現場での「美貌格差」の実態

人の容姿と仕事に関係性があるのか、企業が行った既存の二つのアンケート調査を手がかりとして、働く現場での「美貌格差」の実態を考察した。その結果、「正直なところ、見た目採用はある程度あると思いますか」という質問に対して、「とてもそう思う」「ややそう思う」と答えた採用担当者は68.5%にものぼった。日本では、就職活動の際に「見た目」による評価や採用は存在していると考えた。

第2章 「美貌格差」について

美貌とその経済的影響、アメリカの経済学者、ハマーメッシュ（2011）の議論を中心に考察した。また、日本の社会学者、小林ら（2016）の論文から日本のデータに基づく研究として男女の収入と容姿との関係について考察した。それらに基づいて、人の容姿は客観的な評価をすることが出来、美しさにも一定の基準があること、また仕事を行ううえで、容姿が良いほど男女ともに収入が高く、この「美貌格差」は特に女性よりも男性の方が影響を強く受ける結果がでることについて述べた。

第3章 日本で働くうえでの「美貌格差」の対策

このように現実には容姿による不平等がある日本で働くうえで、そうした不平等な評価をある程度受けずに働くにはどうしたら良いか考察した。イギリスの経済ビジネス誌のデータと小倉（1998）を手がかりにして、韓国と日本の美容整形手術に観点をおき、まず日本人の美意識を再確認した。その結果、日本人は、韓国人のような外科的な整形の手法ではなく、メスを使わない非外科的的手法が多く行なわれていた。つまり、日本人は、韓国人のような人工的な美よりも自然な美を良いとしているのではないかと考えた。一方で、日本人は体型維持やメイク技術などの個人の努力で自分の容姿を良くすることを隠さない文化である。そのため、容姿を良くするためにスポーツジムや化粧技術の向上、印象管理などの努力を熱心に行うことは良いとされ、仕事の評価に加算されると考察した。そして、日本人が求めている美とは、努力で得られた自然で健康的な美しさではないかと結論を出した。つまり、日本人が好ましく感じる美とは、個人の頑張る姿を高く評価し、努力で手にいれた属性のことなのである。

終わりに

日本人は美人が好きだが努力し続ける人を尊敬し好意をもつ特性がある。私たちが日本で働く限り、美しくなる努力を惜しまない人が仕事のチャンスをもつかみ成功していくのだと考える。

氏 名	灘岡優	学籍番号	P014026	ゼミ No.	19
テーマ	離婚の要因について 離婚の寛容性と結婚の質より探る				
<p>本研究では昔、日本でタブーであった離婚が身近になってきたことから、日本の離婚の現状とその背景にある要因について考察した。</p> <p>第 1 章では全国、東京都、および愛媛県の離婚統計を用いて現状を見た。離婚率はごく近年は減少傾向になっているが、1960 年頃と比べると離婚率は高く、また都市部・地方部では離婚率の違いはあるものの推移としては全国平均と同じであることが判明した。また、1950 年から 2015 年の同居期間別離婚件数から、1990 年頃から 20 年以上の同居期間の離婚率が増えていることにより様々な年齢層が離婚を選択している事や、年度替わりの 3 月に離婚件数が多いことから離婚が日常化してきたことを考察した。</p> <p>第 2 章では、まず既存の資料から経済的要因との関連性を考察した。1970 年から 2013 年の離婚件数と景気の関連性から 1980 年代から 2007 年頃までは離婚と景気が連動していたがそれ以前とそれ以降は非連動だということを確認した。そこで、次項では、経済的要因以外について、離婚の寛容性と結婚の質に視点を置き考察をした。離婚に関する世論としては厚生労働省等の調査に基づき、1980 年以降から離婚に対して否定的な考え方が減ってきており、世間の離婚に対しての寛容性は寛大になってきていることを確認した。また、皆婚規範としては内閣府が 2014 年に調査した結婚観に関する調査から「結婚しなくてもいい」という考えが増えてきている事がわかった。また、1920 年から 2010 年までの生涯未婚率を見ても 1985 年頃から男女ともに高くなっており、皆婚規範が弱くなっていることがわかった。このように結婚、離婚に対する考え方が、離婚の推移の背景にある要因の一つと考えた。</p> <p>次に結婚の質に関する要因として、「子どもの有無による影響」「家庭内での役割（家事）」「家庭内での役割（金銭）」の三つの視点で考察した。子どもの有無による影響としては、未就学児の存在が離婚の抑制要因になるというメリットがある反面、0-6 歳の子どもの存在が夫婦関係満足度に負の影響を与えるというデメリットがあることがわかった。また、家庭内での家事の役割としては結婚初期には平日と休日の家事・育児が影響し、経過することによって休日の家事・育児の遂行が期待されていることがわかった。家庭内での金銭の役割としては妻の収入比率が 0%の夫婦が男女ともに結婚満足度が一番高くなり、20%台のときには、その他の夫婦に比べて相対的に結婚満足度が低い傾向になっていることが判明した。</p> <p>結婚の満足度が結婚年数とともに低下することは、複数の研究により示されているが、本稿の考察により、離婚を減らすためには家庭内の役割関係を通してお互いが結婚の質を高めることが重要であると結論した。</p>					

氏 名	増田美希	学籍番号	P014035	ゼミ No.	19
テーマ	現代社会と睡眠				

今日睡眠不足の人、夜更かしをする人が増えているといわれている。本研究では、現代社会の睡眠は以前と比べてどのように変わってきているのか、またその原因は何なのかについて考察した。

第1章では睡眠の役割について述べている。睡眠には休息、記憶の整理、ホルモンバランスの整理、免疫力の増加、脳の老廃物の除却、などの五つの役割がある。脳や体にとって、睡眠はとても重要な役割を果たしている。

第2章では 1995 年から 2015 年の間での睡眠時間の変化を考察した。まず注目すべきなのは、近年 20 年間の推移で、睡眠時間が大きく減少していることである。年齢階層別で比較すると、20 代以上の睡眠時間は減少傾向にあり、60～70 代もかなり短くなっている。性別では、女性のほうが男性より睡眠時間が短く、例として 2015 年の 30 代で見ると、男性の平日が 6 時間 59 分、日曜が 8 時間 21 分に対し、女性の平日が 7 時間 05 分、日曜が 7 時間 55 分と、特に土日の男女差が大きい。職業別の睡眠時間は、平日は有職者、土日は主婦の睡眠時間が最も短く、有職者は曜日ごとに変化があるが、主婦は曜日による大きな変化がない。

時間帯による推移を見ると、有職者無職者共に遅寝遅起きの傾向になってきている。有職者男性を例に挙げると、23 時に眠っている人が 1986 年は 50.66%であるのに対し、2016 年は 38.39%と 15%近くも減少している。その他、これらの原因ともなっている睡眠障害についても述べている。

第3章では睡眠の変化とその背景について考察した。睡眠時間を減少させる原因として、就寝前のスマートホンの使用などによる環境要因、深夜業の増加などの労働形態の変化、女性労働者の増加などが挙げられる。2007 年のワークライフバランス憲章や厚生労働省が定めた「健康づくりのための睡眠指針 2014」などの国の取り組みにあるように、睡眠は社会でも課題とされているが、国民の睡眠に対する意識は低く、もっと一人一人が向き合う必要があると考える。

第4章ではより良い睡眠をとるための対策方法について具体的に述べている。適度な運動と食生活を心掛けることや、睡眠不足でも朝早く起きて、睡眠のリズムを切り替え朝型人間になるということが大切である。

現代社会は、睡眠が減少している。また、起床時間や就寝時間が変化し、遅寝遅起きとなっているなどの現状にある。ネット社会や社会問題、睡眠障害など多くの問題を抱える現代社会の中で、健康に生きていくためには、「生きること＝睡眠」という意識を持ち一人一人が行動していかなければならない。

氏 名	松尾 夏葵	学籍番号	P014036	ゼミ No.	19
テーマ	レジャーとしての競馬、ギャンブルとしての競馬				

本研究では、日本における近代競馬について、ギャンブルとしてだけでなく、レジャーとしての視点から、その特質や変容について考察した。

第 1 章では、近代競馬の発祥であるイギリスの競馬の特徴を考察した。イギリスの競馬のイメージが日本の競馬と比較して「上品」である理由は、上流階級の娯楽を由来としていることや、競馬の運営と賭け事とで運営団体・客ともに分かれていることであると考えた。

第 2 章では、日本の競馬について考察した。第 1 節では第二次世界大戦前以前の日本の競馬について、ルーツは軍事目的であることや、当時既に競馬を良くないものとする考えが存在したことを考察した。第 2 節では戦後の競馬について、主に日本中央競馬会(以下 JRA)の発足やその仕組みなどを考察した。第 1 章と第 2 章を通して、馬券も発売中止と再開が繰り返されたことがわかった。

第 3 節では、日本での競馬のイメージについて考察した。日本では明治の末期からすでに競馬に対する良くないイメージはできつつあり、競馬を開催する側は、競馬に対する偏見を払拭し、公正で明るいものにしようと努めているのに対し、日本国民は競馬を文化として低く評価していることを、近年の研究等に基づいて考察した。

第 3 章では、前章に続き戦後の競馬の展開について、観客や売り上げなどの観点から考察した。第 1 節で競馬場入場者数、総参加者数、馬券の売り上げの三つの推移をみることで、総参加者数の中に占める入場者数(競馬場へ行く人)の割合を確認し、入場者数が売り上げに必ずしも影響しないこと等を考察した。また、入場者数には競馬ブームと呼ばれる二度のピークがあり、第 2 節で競馬ブームについて、理由や特徴を考察した。競馬ブームは景気と人気競走馬の登場が影響し、特に人気競走馬の存在は客が競馬場へ行く大きな動機になるとわかった。

第 4 章では、前章の売り上げの推移から、近年 JRA が売り上げを伸ばしている理由について、その理由を JRA の企業努力であるとして考察した。現地調査を行い、現在 JRA が、新たな観客層、競馬初心者、競馬ファンなど幅広い層に向けて行っている PR 活動の内容と狙いを考察した。

このまま競馬のイメージ向上と観客層の拡大をすすめ、今後の競馬がギャンブルとしてだけでなく休日を過ごす新たなレジャーとして普及し、多くの人に愛される存在になっていくことを期待したい。競馬の魅力がギャンブルであることだけでなく非常に多様であるという考えの浸透は、今後の日本競馬のよりよい発展につながると思われる。

氏 名	浦中早智	学籍番号	P014705	ゼミ No.	19
テーマ	長男に期待される役割について				

現代社会において度々「長男」には冠婚葬祭、結婚などさまざまな役割が期待される。そういった長男に期待される役割はどのように作られていったのか。

第 1 章では、現代における長男の姿、期待される姿について考察した。その手段としてネット投稿を事例として取り上げ、長男に対する役割期待の内容を見た。その結果、投稿内容から読みとれる長男観は多様であるが、長男に一定の特別な役割が期待される場面があることが分かった。また内閣府のアンケート調査を用いて、長男に特別な役割を期待する層は年齢によっても違いがあることを確認した。ネット投稿と内閣府の調査から、現在でも年齢が上がるほど長男に特別な役割を期待する層が増え、若い年齢層との間に意識の差があることが判明した。

第 2 章では、まず初めに明治民法制定の経緯を概観し、その条文に基づいて明治民法における長男の位置づけを確認した。明治民法に定められている「イエ制度」においては、家の中で一番の権力を持った「戸主」というものが存在する(明治民法、第 747・750 条)。戸主は一度継ぐと一定の条件が満たされない限りやめることはできない(同、第 752 条)。そして、明治民法の条文には、戸主を継ぐのは「男」で「直系」の「年長者」ということが記されており、いわゆる長男が最優先に継ぐと定められていることになる(同、第 970 条)。ここに長男の特別さが顕著に出ていると言え、これが第 1 章でみたような、現代にも根強く残る長男に期待される役割の基本となったといえる。

第 3 章では、これまで見てきた民法上の長男の役割を踏まえつつ、明治民法下に描かれた小説から長男がどのような役割を担っていたか読み解いていった。森鷗外の『阿部一族』、夏目漱石の『三四郎』『それから』は、それぞれの代表作としてもよく知られており、人気があった作品ということは人々から共感を得ていたことになることから、今回取り上げることにした。三つの小説で描かれる長男、特に『三四郎』の恭助、『それから』の誠吾を見ていくと、民法にあるような硬いイメージの長男だけではなく、家族の頼れる存在といったことが見えてきた。

明治民法に家督相続について記されたことにより、一層「長男」という理想像が作られていったのではないかと考える。「長男」はかつて「家」を代表し、それを存続させることが第一の役目であったが、明治民法を経て、存続というよりは家族の頼りとしての長男という期待が強まったということが読み取れた。以上、文学の中に描かれた長男の姿を通して、この時代の日常生活の中で「長男」が単なる後継ぎの役割だけでなく、家族の者たちにとって頼れる存在という精神的支えでもあったことを結論とした。

氏 名	竹本愛	学籍番号	P013025	ゼミNo.	19
テーマ	「婚活」とその背景				
<p>本稿では、日本の結婚の歴史を辿り、現在の「婚活」とその背景について考察した。</p> <p>第一章では、今日の男女の婚姻統計や意識調査等から未婚化が進んだ結婚の現状を考察した。現在、日本の25歳～39歳の男女は5人に1人が未婚で、婚姻件数と婚姻率は年々減少している。事実婚が増えたわけでもなく未婚者が増加してきているといことである。独身でとどまっている理由は「結婚しない人」と「結婚できない人」に分けると、「結婚できない人」の割合が高い。その原因は「適当な相手に巡りあわない」ことが大きいことを示した。</p> <p>第二章では、結婚したいができない大きな原因である「適当な相手に巡りあわない」つまり「出会いがない」ことに着目して、結婚の歴史を概観し、今日出会いが困難になってきたことの背景を考察した。近代以前の結婚習俗であるヨバイ習俗では、ムラ内で男女が結婚していたがそこには規則があった。その習俗は明治頃に崩れて、結婚の形態は見合いへ移動した。そして、戦後、1965年頃を境に見合い結婚と恋愛結婚は逆転した。このように、近代以降見合い結婚から恋愛結婚へ結婚の形態が変化しつつも、職場での出会いや上司からの紹介など自動的に出会いが設定されていたのだが、1980年代以降、恋愛、仕事ともに自由市場になり自分から恋人や結婚相手を探す時代になった。現在は友人やきょうだいからの紹介が主である。</p> <p>第三章では、出会いを求める人たちを支援する結婚活動、すなわち婚活事業について考察した。内閣府が作成した「結婚・家族形成に関する調査報告書」によると、自治体の婚活事業は「見合い事業」「出会い事業」「仲介事業」「講座事業」の四つの事業に分類されているが、全国的に自治体は「出会い事業」を最も多く実施している。そのうち、「見合い事業」と「出会い事業」を取り入れている愛媛県のえひめ結婚支援センターと、「講座事業」を取り入れている愛知県の特設非営利活動法人の花婿学園を例に婚活事業の現状と課題について考察した。特に、今日の婚活に参加する男女のコミュニケーション能力の課題に注目して考察した。1980年代以降、自由市場化が進んだ今日、自分で恋人や結婚相手を探すためにはコミュニケーション能力がより求められている。しかし、明治政府によるヨバイ習俗禁止以降、コミュニケーション能力を学ぶ機会が失われてしまったこと、また恋愛結婚と社会関係資本との関連を示す研究等をふまえて、前掲の愛知県の事業で行われているように、コミュニケーション能力を高めるセミナーや講座を増やし、それを国が後押しをすべきではないだろうかと考察した。また人も、婚活ではなく日常生活や学校などから身につけていく必要があると考えた。</p>					

松山東雲女子大学 人文科学部 卒業研究抄録集

発 行 2018年1月

編 集 松山東雲女子大学 人文科学部  
〒790-8531

愛媛県松山市桑原3丁目2番1号

Tel (089)931-6211

印 刷 明星印刷工業株式会社  
〒790-0056

愛媛県松山市土居田町500番地

Tel (089)971-7111